

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Medicines of the Chewa : An Aspect of Utilization of Plants and Animals

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 憲司 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003638

チ ェ ワ 族 の 「薬」

——動植物利用の一断面——

吉 田 憲 司*

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| I. 序 | 1) マンクワラとチズインバ |
| 1) 本稿の目的 | 2) 「薬」の用法 |
| 2) 調査の方法 | IV. 総括と討論 |
| 3) 調査地 | 1) 処方の特徴 |
| II. チェワ社会における医療——概観 | 2) 用途の特徴——病をもたらす動物、病を癒す植物 |
| 1) チェワ族の病因論 | 3) 「薬」の使用原理と着眼点 |
| 2) チェワ社会の伝統医 | 4) 語りとしての「薬」 |
| III. チェワ族の「薬」 | |

I. 序

1) 本 稿 の 目 的

アフリカ中南部、ザンビア、マラウイ、モザンビークの3国が境を接する高原地帯に、みずからをチェワ (Chewa)¹⁾あるいはチペタ (Chipeta)、ズインバ (Zimba) とよぶ人々が居住している。彼らの言語はいわゆるバントゥ系の言語のひとつであり、その話者数は100万人をかなり上回ると推定される。ここでは、この集団をチェワ族と総称することにする。チェワ族の名は、その邪術信仰に関するマーウィックの研究 [MARWICK 1965] によって広く知られるようになった。以来、邪術ないし妖術の信仰が徹底した社会として、チェワ社会はエヴァンス=プリチャード [EVANS=PRITCHARD 1937] によって紹介されたザンデ族の社会と並び称されてきた。実際、チェワの人々は事実上すべての死の原因を人間の邪術に帰し、死や病が発生する度に、それが誰の呪いによって引き起こされたのかを知るため、伝統医のもとに足を運ぶ。当然、彼らの社会では、そのような邪術に対抗する手段も多様な発達をみせている。

* 国立民族学博物館第2研究部

1) 以下、チェワ語の表記は、M. E. Kashoki and M. Mann [1978] に従う。なお、名詞については、複数形の使用が慣用化しているもの以外は、原則として単数形のみを記した。

中でももっとも重要視されているのが、動・植物を主素材とした「薬」の使用である。しかしながら、マーウィックの研究は、邪術の告発がいかなる社会関係において多発するかといった社会学的な議論に終始しており、どのような「薬」がどのような病のために利用されるかという、邪術や病に対抗する実践的・技術的な問題には触れていない。本稿は、筆者の学んだチェワ族の「薬」の用法をできるだけ網羅的に記載し、邪術・妖術信仰と結びついた動植物の「薬」用に関する基礎的データを提供することを目的としている。

2) 調査の方法

筆者は1984年7月から1986年1月にかけての約1年半にわたり、ザンビア共和国東部州に位置するチェワ族の村、カリザ (Kaliza) 村に住みこんで調査をおこなった。

チェワの社会において治療の手段としてもっとも重要視されているのは「薬」(マクワラ, mankhwala) である。「薬」については、一般の村人も一定の知識を共有しているものの、その十全な知識はンガンガ ng'anga とよばれる伝統医の手に委ねられている。しかも、それらの知識は伝統医の「財産」とされ、秘義的な性格をもっている。それゆえ、筆者はカリザ村の近隣に住む3人の伝統医に師事することによって、彼らの有する「薬」に関する知識を学ぶことにした。ひとり政府公認の伝統医免許をもち、東部州一円から患者を集めている F・ピリ (F. Phiri) 氏。あとのふたりは、公認免許はもたないが、近隣では有能な伝統医として知られる。A・ピリ (A. Phiri) 氏と S・ピリ (S. Phiri) 氏である²⁾。

「薬」に関する調査は、ふたつの方向から進められた。ひとつは、まず、チェワの人々の病気の分類を明らかにした上で、個々の病気の治療法を観察と聞き取りによって記録するというものである。ただ、この方法では、病気の治療以外の「薬」の用法が把握されないうらみがある。このため、今ひとつの方法として、筆者が知りえたすべての植物と動物について、その「薬」としての用法を聴取した。

「薬」としての使用が確認された植物は、その標本を筆者自身が採集し、それをザンビア大学生物学科ハーバリウムのパトリック S・M・ピリ (Patric S. M. Phiri) 氏に同定していただいた。また、動物の種名の同定には、ザンビア国立公園・動物保護局、チパタ (Chipata) 出張所の技官で、チェワ族出身者の J・C・バンダ (J. C. Banda) 氏と G・N・ムベウェ (G. N. Mbewe) 氏の協力を得た。

2) 社会の中での伝統医の微妙な立場に鑑みて、個人名をフルネームで表記することはあえて避けた。

3) 調 査 地

ザンビアにおけるチェワ族の居住地は、標高1300メートル内外の高原地帯であり、ジャケツイバラ亜科 (*Caesalpinioideae*) の *Brachystegia* や *Julbernardia* を主要樹種とする、いわゆるミオンボ (miombo)・ウッドランド (乾燥疎開林) に覆われている。本稿でとりあげる「薬」の多くは、このミオンボの森に自生する植物とそこに棲息する動物を素材としたものである。

チェワ族の生活はトウモロコシを主作物とする農耕に大きく依存する。伝統的には鋤^{くわ}を用いた焼畑移動農耕が営まれていたが、近年政府の農業振興策によって急速に農業の近代化が進み、現在では化学肥料の使用や犁^{すき}を使った牛耕が普及しつつある。ただ、チェワ族に牛が本格的に導入されたのは比較的新しく、19世紀末に牧畜民ンゴニ (Ngoni) 族と接触して以降のことである。チェワが伝統的に飼養してきた家畜・家禽としては、山羊、豚、犬、鶏、鳩があげられる。狩猟は、個人的な活動として散発的におこなわれているにすぎない。動物性蛋白獲得源としての狩猟活動の重要性は、少なくとも今日ではきわめて低くなっている。

チェワ族の社会は妻方居住を原則とする母系制の社会である。あえて単純化していえば、この社会では生まれてきた子供は母親のものであって、父親のものではない。ただし今日では政府の施策もあって、父系原理の導入がさまざまな面で進みつつある。

この社会には「ニャウ」nyau とよばれる仮面舞踊の秘密結社が存在する。成人男子は原則として全員がこのニャウの成員となる。ニャウの機能は葬送儀礼において仮面舞踊を演じ、死者の霊を慰めて祖霊に移行させることにある。この葬送儀礼はまた、ニャウの結社への加入儀礼、すなわちチェワの男性の成人儀礼をも兼ねている。一方、女性は女性で独自の成人儀礼「チナムワリ」chinamwari を営む。チナムワリは、初潮を迎えた少女を一定期間隔離し、女性としての嗜みを教え込む儀礼である。そこで与えられる知識は、ちょうど仮面についての知識が男性だけの秘密とされているのと同様、女性だけの秘密とされている。

政治の面についていえば、現在のザンビアにおけるチェワ族の社会は、パラマウント・チーフ (Gawa Undi) を頂点とし、その下に領域を分有する領域チーフ (manbo) が配され、各チーフ領に各々村長 (mfumu) を頂く数百の村落が内包されるというピラミッド型の構造をもつ。筆者が住み込んだカリザ村は、チーフ・ムワンガラ (Mwangala) 領に属する人口約140人の村であった。

Ⅱ. チェワ社会における医療——概観

チェワ族にとって「薬」は病気の治療だけに用いられるものではない。それは病気や災害の予防に用いられ、惚れ薬や強壮剤など何らかの能力の創出・強化のためにも用いられる。また、他人に病気や災害をもたらすためにも使用される。ただ、そうした「薬」の用途の中で、病気にかかわるものがもっとも大きな比重を占めていることも事実である。チェワの人々の病気に対する観念や態度をふまえ、彼らの「薬」について語ることはできない。そこで、「薬」の具体的な用法を論じる前に、まずチェワの人々の病気観とその病気の治療に従事する伝統医について概観しておきたい。なお、チェワ族の医療の実態に関しては、別稿 [吉田 1986] で論じた。ここでは、それを要約するかたちで、以下での議論の理解に必要な最低限の情報を提示するに留める。

1) チェワ族の病因論

チェワの人びとは病気 (matenda) の原因をさまざまな事柄に結びつけて解釈する。まず、多くの病気は「神の病」matenda ya mulungu といわれ、神 (mulungu) に由来するものとされている。とはいえ、それらの病が人間の過ちに対して神が罰を加えたものと考えられているわけではない。神が造ったなんらかの虫 (kalombo) が体に入って病気を起こしているとみなされるだけである。なぜその虫が体に入ったのかはさだかでない。チェワ族の表現を借りれば、「神の病」とは「勝手にやってきた病」であり、あえて原因を求めても世界の究極因としての神にしか帰せられない病のことである。

こうした「神の病」に対して、「人間の病」matenda ya muntu とよばれる病気のカテゴリーも存在する。これは、人間が行使する邪術 (ufiti) によって引き起こされたとみなされる病の総称である。ここでいう邪術とは、特別な威力をもつと考えられる物質、つまり「薬」の操作と、呪い (u-loza) とによって、他人に危害を加えようとする行為をさす。邪術を行使する人物、邪術師はソフィティ nfiti とよばれる。チェワの人々はソフィティを、さらにソフィティ・ヤ・ムペラ・ンジル nfiti ya mphepera njilu 「恨みから人を殺す邪術師」とソフィティ・ヨ・デラトゥ nfiti yo dyelatu 「人食い邪術師」とに分けている。前者は、恨みのある相手を呪って病気にしたり殺したりするもので、その呪い方は先輩の邪術師や薬草医から学ぶとされている。一方、後者は死者の肉欲しさに人を病気にして殺すものをいう。いずれの場合も、病気を誘

発するテクニックはさまざまであり、症状もそれに応じて多様な性格を示す。なかでも「人食い邪術師」には数多くの神秘的なイメージが付与されている。たとえば、彼らはライオンやハイエナ、イノシシなどを作りだし、それを使魔として派遣して、人や家畜や畑を襲うという。彼ら自身がこうした動物に変身することもあるといわれる。そして、死者を墓場から掘り出して食べるのも、この「人食い邪術師」の習性とされる。

病気の中には、「自分で引き起こした病」matenda yo zibwela yeka と分類される病もある。患者の過失で引き起こされた病である。具体的には、性病や薬害、怪我のほか、ムドゥロ mdulo とよばれる、禁忌の侵犯に起因する病が含まれる。ムドゥロとはセキを主訴とし、最終的には胸に切られたことを示す赤癰が浮かび、死に至るとされる病である。チェワの人々は、世界の諸事象を「熱い」u-thenta ものと「冷たい」u-zizila ものとの二つに分類して認識している。たとえば、村 (mudzi) は「熱く」、ブッシュ (thengo) は「冷たい」。新しい畑 (phanje) は「熱く」、古い畑 (tsala) は「冷たい」。人間も時と場合に応じて「熱く」なったり「冷たく」なったりする。人間は性交によって「熱く」なる。他方、成人儀礼や喪に服している人はことのほか「冷たい」とされる。「熱い」・「冷たい」という概念は力 (mphamvu) の有無、とくに繁殖能力の有無にかかわっているように思われるが、一般に「熱い」者が「冷たい」者とともに塩の入った食物を食べるといふかたちで接触すると、「熱い」者は「冷たい」者を「切り」u-dula, 「冷たい」者のほうが病気になるといわれる。この病気がムドゥロ mdulo である。たとえば、成人儀礼期間中の少年・少女が性的交渉をもった男女に接触すると、相対的に「冷たい」少年少女のほうがムドゥロの病にかかるという。

このほか、チェワ族のあいだでは、埋葬直後の死者の霊 (chiwanda cha muntu wa kufa) や、定められた葬送儀礼を経て祖先の仲間入りをした祖霊 (mzimu ya makoro), それにニシキヘビやライオンなどの動物の霊 (chiwanda) も、人にとり憑いて病をおこすと考えられている。また、最近では、キリスト教でいう聖霊 (mizimu ya mulungu) も、人に憑依して病を引き起こすと考えられる。なお、これらのうち、動物の霊や聖霊に憑依された人物は、その憑依を自分でコントロールできるようになると、霊媒として活動することになる。

病気の原因は以上のように多様な事象に帰せられるが、実際には、その中に病因として頻繁に言及されるものもあれば、めったに人々の口の端にのぼらないものもある。表1は、筆者が住み込んだカリザ村の住民全員を対象にして、1985年1年間にかかった病気についておこなった対面調査（実施時期は1986年1月）の結果を、症状の重さ

表1 病因と症状 (Kaliza 村居住者の1985年1年間の病歴調査より)

(対象者: 村民全員146名)

原因 症状	神	人間 (邪術)	動物霊	祖霊	死者 の霊	自分の過失				遺伝	未詳	計
						禁忌	けが	性病	薬害			
1 (病気だが歩ける)	42	4	—	—	—	—	1	1	—	2	21	71
2 (寝込んだ)	26	5	—	—	—	—	2	1	—	—	22	56
3 (死ぬかと思った)	15	28	1	2	—	2	—	2	1	1	15	67
死	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8
計	83	45	1	2	—	2	3	4	1	3	58	202

* 重病(症状3)中, 邪術が原因とされるものの割合: 53.8%(28/52) (原因未詳のものを除く)
 死亡例中, 邪術が原因とされるものの割合: 100.0% (8/8)

と原因との相関を求めるかたちに整理したものである。症状の重さは3段階に区別されているが、これは、チェワの人々が病気について語るとき、その症状を、①「病気だったが歩けた」yo yenda nayo, ②「寝込んだ」yo gona, ③「死ぬかと思った」yo detsa nkhawa, という3段階に区別して言及することに着目し、それをそのまま援用したものである。また、原因の欄には「未詳」という項目が設けられているが、これは回答者が「原因など考えたことがない」とか「占い師に聞いたわけではないので何とも言えない」と答えたケースである。したがって、この項に分類された事例のなかには、最終的にその左側に並ぶ諸原因に帰せられるべきものが含まれている可能性が残されている。

表からわかるとおり、症状1や症状2など比較的軽微な病は、その大半が「神の病」とみなされる。これに対して、「死ぬかと思った」というほどの重症例(症状3)になると、原因のわかっている症例の過半数が人間の邪術のせいになる。そして死に至った症例については、そのすべてが邪術によるものとされている。ここから、軽症は「神の病」、重症および死は「人間(の邪術)による病」という病因についての一般的傾向が引き出せる。なお、留意すべきは、精霊や祖霊のせいになる症例が極端に少ないことである。死者の霊に原因をもとめる病気に至っては1例もみられない。チェワの病因論の特徴は、重度の病気の原因が圧倒的に邪術に帰せられることにあるといえる。

2) チェワ社会の伝統医

チェワ族の社会では、伝統的な医療に従事する専門家はンガンガ(ng'anga, 正しく

は sing'anga) とよばれる。西洋的な診療所や病院の医師と区別するため、ここではンガンガに伝統医という語をあてる。チェワの人々はこのンガンガ「伝統医」を、さらに①(ただの)ンガンガ「薬草医」、②ンガンガ・ヨ・オンベツァ ng'anga yo ombetsa「占い師」、③アミズィム amizimu の三つに区別している。

まず、「薬草医」とは、患者の求めに応じて、症候ないし症候群に対応した「薬」を投与することをなりわいとする専門家である。彼らは病気の症状によって、経験的にその病の原因をある程度まで同定できる。そして症状や原因に応じた「薬」を患者に投与する。かつて彼らは、病気の原因に邪術が疑われる場合、首長の立ち会いのもとにムワヴィ (mwavi: *Crossopteryx febrifuga*) とよばれる木の樹皮の浸出液を用いて試罪(同じくムワヴィとよばれる)をおこなった。患者に邪術を行使した者がこれを飲むと、下痢を起こし、肛門から大量の排泄をするという。一方、無実の者がこれを飲んでも口から吐き戻すだけであるという。今日ではこの試罪の方法は政府の手で禁止されている。このため「薬草医」には、たとえある病気が邪術によるものとわかって、その邪術をかけたのが誰であるかはわからない。それを知るには、今日では「占い師」やアミズィムに頼るほかないのである。

次に「占い師」とは、さまざまな方法を用いて病気や災難の原因を占い、それに応じた治療をおこなう専門家である。たとえば、アズィバンボ azibanbo とよばれる霊媒は、みずからにとり憑いたライオンの霊の力を借りて占う。霊媒自身は就寝しているあいだにライオンの霊が動き回って病や災害の原因を探りあて、夢の中で霊媒にその結果と最適な治療法を告げるという。「占い師」の中には、道具を用いて託宣を得る者も含まれる。ダイカーの角をヒョウタンの表面に穿った穴に立て、ヒョウタンを振って角の動き方で占うものや、ヒョウタンに話しかけると、そのヒョウタンが喋って託宣をくだすというものなど、さまざまな方法が知られている。いずれも、特別な「薬」の力によって占いが可能になるという。

アミズィムとはキリスト教という聖霊が憑いた女性の霊媒である。彼女らはこの聖霊の力によって占いと病気治療をおこなう。依頼を受けると、アミズィムは患者を前にして修道女よろしく頭に白い布をかぶり、神に祈りを捧げる。アミズィムのそばには通訳を務める介添え人が立つ。介添え人はアミズィムの夫が務めることが多い。介添え人が讃美歌を歌うと憑霊が始まる。体に痙攣が走り、アミズィムは低い声で喋り出す。聖霊がアミズィムの口を借りて喋っているのだという。その言葉は一言ずつ介添え人が通訳し、患者およびその家族との間で応答がくりかえされる。最終的に病気の原因が伝えられる。再び讃美歌が歌われると憑霊は終わり、必要な薬が投与される。

カリザ村の近辺に関する限り、今日では「占い師」の活動はほとんどみられなくなっている。新興のアミズィムの勢力の伸長にともなって、人々が彼らの占いに頼らなくなってしまったからである。今日、人々が病気になった際に頼りうるのは、自家治療という方法を除けば、「薬草医」か、アミズィムか、あるいは西洋式の診療所・病院かのいずれかに限られる。

Ⅲ. チェワ族の「薬」

1) マンクワラとチズィンバ

これまで、本稿では「薬」という語をとくに定義することなく用いてきたが、この語はチェワ語でいうマンクワラ (mankhwala) の訳語である。マンクワラという語で指示される対象には、日本語でいう薬のすべてが含まれる。それがマンクワラを薬と訳出した理由であるが、マンクワラにはそれ以外に日本語でならお守りとでもいうべきものや毒、さらには呪いの道具などが含まれる。このため、本稿ではマンクワラの訳語として薬という語を用いる場合には、かぎ括弧をつけて「薬」という表記がなされている。

ところで、チェワの人々はこのマンクワラ(「薬」)を、さらに狭義のマンクワラ(以下マンクワラとのみ表記する)とチズィンバ(chizimba)とに区別している。両者はおおむね植物性の「薬」と動物性の「薬」とに対応するが、そのようにいうことはチェワ族固有の概念を歪曲してしまう恐れがある。彼らの分類に従えば、マンクワラとは神が人間に病気の治療に用いることを前提としてくださったものであり、一方チズィンバとは神は本来別の目的をもつものとして造られたが、用い方によっては病気の治療やお守り、さらには呪いの道具としての機能を果たすものである。素材の点からいえば、マンクワラはすべて植物からなる。チェワの人々にとって、多くの木や草は病を治すために神が人間にくだしおかれたものにほかならない。一方、チズィンバの素材には動物のほかに道具類や不特定の植物の特殊な部位などが含まれる。たとえば、難産の治療のために安産で多産である犬の秘部の毛を与えたり、女性の心を奪うためいつも女性のそばにある臼の破片を用いたりする場合、それらのものはチズィンバとみなされる。いずれもその本来の機能とは別の目的に用いられているからである。また、マンクワラの素材のひとつに数えられ、本来治療に用いるべきバオバブの木を、その木の形態に因んで他人の体を腫れさせるのに用いた場合、その木はやはりチズィンバとみなされる。治療という本来の目的以外の目的に利用されているからである。

したがって、厳密に言えば、マंकワラとチズィンバとの区別は、素材の区別ではなく、使用法の区別に基づくものである。

なお、同様の薬の2大別は、周辺のバントゥ系諸民族のあいだでも広くみられる。たとえばホワイトは、ルヴァレ (Luvale) 族におけるヴィトゥンプ (vitumbu) とルペロ (lupelo) という薬の区別を植物性呪薬と動物性呪薬との区別に対応させている [WHITE 1961: 35-38]。またトンブウェ (Tombwe) 族において掛谷が指摘したムティ (mti) とシコモロ (sikomelo) という区別も基本的にそれにならっている [掛谷 1978: 2]。一方、ターナーはンデンプにおける薬の同様の二大別を類感呪術と感染呪術との区別に対応させている [TURNER 1967: 304]。しかしながら、少なくともチェワ族に関する限り、マंकワラとチズィンバとの区別はそのような外的な基準に対応するものにはなっていない。

2) 「薬」の用法

筆者が「薬」の用法を学んだのは主として薬草医からである。自家治療の「薬」やアミズィムの用いる「薬」については、薬草医が用いる「薬」ほどには体系的な資料を入手していない。断片的に集められた情報からは、自家治療の「薬」やアミズィムの「薬」も薬草医の「薬」と同じ原理に基づいていることがうかがわれるが、即断は避けなければならない。ここでは、筆者が薬草医から学んだ知識を、とりあえずひとつのまとまりとして提示することにする。もとより、薬草医のもつ「薬」の用法のすべてを筆者が学び得たとは思われない。しかしながら、調査の末期にはすでに新しい素材や新しい用途の情報に巡り合うことがほとんどなくなっていたことを思えば、チェワの薬草医の知識について一応の概観をおこなうにただけの資料は得られたのではないと思われる。

ただ、素材の種類の数で350、用法では700を超える事例のすべてをここで詳細に記載する余裕はない。以下では代表的な「薬」の用法のみを記述し、すべての素材のすべての用法は表のかたちに整理して本論文の末尾に添付することにする。

<体中の痛みと吐き気をおこす邪術とその治療>

邪術師はさまざまな動物の体の一部をチズィンバとして用いてカヨウェラ (kayowela) とよばれる小さな虫 (kalombo) の一種を作り出し、それを他人の体の中に送り込んでその人物に病をもたらすという。狙った相手のとおり道に「薬」で線 (mkwekwe) を引き、相手がそれを踏むとカヨウェラが彼の体内に入り込むという方法がとくによく知られている。その際、邪術師は相手の名を唱えたり、相手の服のはぎれや排

泄物を「薬」に加えることによって、カヨウェラを特定の相手に選択的に送り込めるという。カヨウェラは邪術師が自然界に存在する動物その他をまねて作ったものであるが、普通の人間には見えないと考えられている。この種の病はムチェゾ(mchedzo)と総称される。ただ、その症状は送り込まれたカヨウェラが何をまねたものかによって変わってくる。

チェワの薬草医によると、体中が痛んで吐き気をともなう病気はクマネズミ病(mchedzo wa nkhoswe)とよばれ、邪術師がクマネズミ(nkhoswe)の歯や爪をチズインバとして用いて、患者の体のなかにクマネズミの格好をしたカヨウェラを送り込んだためにおこるとされる。そのカヨウェラが患者の体の内部を歯や爪でひっかくがゆえに、患者は全身に痛みを覚えるというのである。この種の病の治療には、クマネズミの爪と、ムサンバ・ムフム(msamba mfumu: *Brachystegia spiciformis*)という木の皮、およびムニョカ(mnyoka: *Cassia abbreviata*)という木の根を燃やして得た灰を、患者の体の各所につけた傷(mphini)に塗り込む。また、同じ「薬」をトウモロコシの粥(phala)に混ぜて服用させる。その際には、薬草医が「クマネズミの爪よ。患者はおまえにひっかかれているような痛みを感じる。この病が、病を送り込んだ主のもとへ戻るように」という呪文を唱える。クマネズミの姿をしたカヨウェラは邪術師に行けと言われてその患者の体の中に入りこんできたのであるから、そのカヨウェラに「もとのところに返れ」といえば、病は邪術師のもとに帰るはずである。これが、薬草医が邪術による病の治療に、邪術師が使ったと考えられるのと同じ動物を用いる理由である。この療法は同種療法とよぶことができるであろう。なお、上の治療で用いられるムニョカはさまざまな傷の治療に有効性が確認されており、ここではカヨウェラによって作られた体の中の傷を治すのに添加されている。ムサンバ・ムフムについては、酸味の強い樹液が邪術師の送ったカヨウェラを殺すとも、またその赤い樹液が血を増やす作用をもつとも説明される。

<便秘(kawinde)を起こす邪術とその治療>

クサガエル(kalamatila)は木に張りついてじっとしていることが多い。クサガエルの方名「カラムティラ」は「張りつくもの」の意である。邪術師は、このクサガエルをチズインバとして用いて、クサガエルの形をしたカヨウェラを作り出し、それを他人の体の中に送り込む。すると、このカヨウェラが腸壁に張りついて、排泄を妨害し、極度の便秘を引き起こす。この種の便秘の治療には、クサガエルを乾燥したもの、チガガ(chigaga: *Maprounea africana*)の根、カピエピエ(kapiepie: *Cassia katangensis*)の根をともに搗いて粉にし、カユ(phala)に加えて飲む。クサガエルを使うのは、

邪術師が用いたテクニックを逆に繰り返すことで、病を送り返すという同種療法である。チガガは、下剤としての有効性が広く知られている。カピエピエは樹液がぬるぬるしていて、詰まった排泄物を滑らせることができるという。

<カウタ (kauta) という邪術により妻のもと以外では性欲を感じなくなった夫の治療>

夫の女遊びが激しい場合、妻は自分のもと以外では夫が性欲を感じなくなるようにする邪術を行使することがある。この邪術およびそれによる症状はカウタとよばれる。カウタとは小さな弓の意であるが、その名称の由来は不明である。また、その邪術の行使の方法も、夫の陰毛や精液を使うという以外定かではない。ただ、筆者の師事した薬草医のひとり、自らがこの邪術の犠牲になった際、以下のような治療をおこなった。すなわち、シロアリを縫い針で差し、それを寄生樹の皮とトウガラシの根の破片とともに持ち主のわからない布切れに包んで次のように唱える。「おまえは縫い針だ。縫い針が一度布の裏へ突き抜けても必ず布の表に戻ってくるように、この病が病を送った主のもとに帰ることを願う。おまえはシロアリだ。この根がカウタ (小さな弓) という病であるなら、おいておいた弓の弦をシロアリが食べて切ってしまうように、この病気を切りなさい。おまえは寄生樹だ。おまえは友のもとでしか生きられない弱々しい木だ。そして私も、今妻のもとでしか生きられない弱い体になり果てた。この病気が送り主のもとに帰ることを願う。おまえはトウガラシだ。おまえは赤い実をもち、しかも食べればヒリヒリする。この病気をおこした彼女が、赤い血を流し、ヒリヒリとした痛みを感じることを願う。ただ、これらのものを包んでいるこの布を裂けば、彼女の病はすぐに治るであろう」。この呪文のなかには、「薬」として用いられる成分の効能とその原理が明確に述べられている。寄生樹を用いるのは、これまでの例と異なり、必ずしも邪術師が寄生樹を用いて患者を寄生樹と同じような状況に陥れたという確信があつてのことではない。しかし、患者を寄生樹になぞらえ、その寄生樹のような病が送り主のもとに戻ることを願うのは、やはり同種療法の1種とみなすことができる。なお、すべての治療に際して上のような入念な呪文が唱えられるわけではないが、「薬」の素材の使用理由について薬草医が与える説明が、こうした呪文を踏まえてなされているのは事実である。そして、本稿における「薬」の使用理由の説明もまた、それに依拠している。

<配偶者の姦通を阻むリカンコ (likhanko) という邪術とその治療>

夫婦の一方が、配偶者の姦通を阻むため、動物の体の一部をとり、他の「薬」(詳

細は不明)と混ぜて、呪文を唱えながら配偶者の食べ物の中に密かに入れておくことがある。それを食べた夫か妻が愛人と交渉をもつと、食べた本人ではなくその愛人が病気になる、ついには死に至るという。こうした姦通を阻むための邪術は、一般にリカンコ (likhanko) とよばれるが、チズィンバにどんな動物を用いるかによって犠牲者の症状が変わってくる。ヒキガエル (thise) を用いればヒキガエルのように愛人の体が腫れ、整地した道から外れるとすぐに転んでしまうアカハネジネズミ (susunjira: 道を横切れないものの意) を用いれば愛人は道を横切ろうとした途端死んでしまう。そして、ハーテビースト (nkhondzi) を用いれば、ハーテビーストのように背が曲がり、首をまっすぐに立てていられなくなるとされるのである。最後の例の治療には、ハーテビーストの首の皮を燃やして得た灰と、カヴンドゥラ (kavundula: *Psorospermum febrifugum*), ソサンベ (nsambe: 学名不詳), バンゴ (bango: *Phragmites mauritianus*) のいずれも根を粉にしたものを混ぜて、患者の背骨に沿った部分につけた傷 (mphini) に塗りこんでゆく。ハーテビーストを用いるのは、それがこの邪術の行使者によって送り込まれたものだからである。同じ素材を逆用することで、病を送り主のもとに送り返すことができると考えられている。カヴンドゥラは、ウヴンドゥラ u-vundula 「かき回す」という動詞との連想から、患者の首をよく動くようにするのに効果があると信じられている。ソサンベは水草である。それを与えることで、堅くなった骨に水分を補給することが意図されている。またバンゴはまっすぐな幹をもつことから、患者の猫背をまっすぐにするために投与される。

<下痢、血便 (mimba mwa kamadzi) の治療>

この病気は神が作った虫によっても、また邪術師が送り込んだカヨウエラによっても起こる。治療にはムロンベ (mlombe: *Pterocarpus angolensis*), ムカラ・ンシンガ (mkala nsinga: *Pericopsis* sp.), ムニョカ (mnyoka: *Cassia abbreviata*) のいずれも樹皮を水に浸し、その水で粥をつくって服用する。ムロンベとムカラ・ンシンガとは樹液が赤く出血を補うとされる。一方ムニョカは酸味のある樹液が出血を起こしている腹の中の傷の治療に有効だという。

<皮膚病 (viphere) の治療>

皮膚にピンク色で円形の斑点ができることがある。患者が以前にゾウ (njovu) の肉を摂取したことがある場合、その斑点はゾウの肉によって引き起こされたとみなされ、「ゾウの皮膚病」viphere va njovu と名づけられる。この病気を治療するには、ゾウの皮のほか、カラムティラ (kalamatila: *Aeschynomene fulgida*) の木の葉と根、チャンズィ (chanzi: *Trichodesma physaloides*) の根をともに搗いて粉にし、「この病がも

とのところへ帰るように」と念じながら、それを患部に塗りつける。また、ムワレ (mwale: *Sterculia quinqueloba*) の木の皮と根を浸した水で患部を洗う。ゾウの皮が用いられるのは、この病がゾウの肉によってもたらされたと考えられるからである。ここでも、病を引き起こしたものに「もとのところへ帰れ」と命じれば、病を送り返せると信じられている。カラマティラは、その葉がすぐに人の体に「張りつく」(ウラマティラ u-lamatila) のでこの名があり、患部をもとどおりに「張りつける」ために加えられる。ムワレは樹皮がすべすべしており、それを添加することで患者の皮膚をそのようなすべすべした状態に戻すことが意図されている。チャンズィについては、酸味の強い樹液が皮膚病に効くという以外に特別な理由づけはなされていない。

このほか、皮膚全体が灰色になり髪の毛も抜ける病はイボイノシシ (kaphulika) の肉の摂取、円形の水泡のまわりに発疹がみられるのはカワイノシシ (nguluwe) の肉の摂取、湿疹が列をなしてできるのはシマウマ (mbidzi) の肉の摂取に原因が求められ、チズィンバとしてそれぞれの動物の皮が治療に用いられる。いずれも病変した皮膚に類似した皮膚をもつ動物の肉の摂取が病変の原因とされ、その同じ動物の皮を用いることで病気を送り返そうとするものである。同種療法のひとつといえる。

<夫の姦通によって妊娠中の妻が罹患するムドゥロ (mdulo) の治療>

チェワの社会では、婚外交渉がかなり頻繁におこなわれる。しかし、妻の妊娠中に夫が姦通を犯し、妻とともに塩の入った料理を食べると、性交によって「熱く」なった夫が相対的に「冷たい」妻を「切り」u-dula、妻の方が咳をともなう結核様の病気「ムドゥロ」mdulo に苦しむという。この種の病の治療には、犬のペニスの先の毛と尾の毛をムチェレケテ (mchelekete: *Swartzia madagascariensis*) の樹皮とともに燃やし、その灰を食物に混ぜて妻に摂取させる。また、クンダブウェ (kundabwe: *Agathisanthemum globosum*) とムトゥンダ (mtunda: *Turraea robusta*) の根を浸した水でカユ (phala) を作り、それに塩を加えて妻に飲ませる。犬の場合、雄犬がどんな相手と交わっても、雌犬はムドゥロに苦しむことなく、沢山の子を生む。それゆえ、犬をチズィンバに用いれば、妻の安産が保証される。ムチェレケテは、その実が腹の突き出た妊婦のようなかたちをしているところから、妊婦が胎児をそのまま維持できるようにするために用いられる。クンダブウェは樹液が赤く、血を増やすのに効果があるという。塩は血行を促す。ムトゥンダには咳の治療薬としての有効性がみとめられている。なお、成人儀礼を受けている少年少女が、儀礼の執行者が性的交渉をもったためにムドゥロになった場合には、上述の「薬」のうち、犬の毛を除いたものが用いられる。

＜仮面をかぶった踊り手 (nyau) にとり憑いた死者の霊 (chiwanda) の除去＞

葬送儀礼において死者を表す仮面をかぶった踊り手が死者の夢を見るのは、その死者の霊が踊り手の体に憑依したことの表れとされ、そのまま放置すると踊り手は発狂してついには死んでしまうといわれる。そこでこのような夢を見たものは、ただちにニャフンゴ (nyafungo: *Acacia microthyrsa*) の根を浸した水で体を洗い、さらにその水を自分の寝所に散布する。また、おなじニャフンゴの樹皮の繊維を腕に巻く。ニャフンゴは強烈な匂いを持ち、その匂いに耐えかねて死者の霊も逃げ出すとされる。

＜大型草食獣に対する狩猟儀礼 (u-vumura) とそれをせずに病気になった狩人の治療＞

ケーブ・エランド (nchefu)、バッファロー (njati)、ハーテビースト (nkhonzi)、クドゥ (ngoma)、ウォーターバック (chuzu)、インパラ (mphala または nswala) といった中・大型のウシ科動物や、ゾウ (njovu)、サイ (mpembere) などの草食性の中・大型動物は、狩りで殺されても、そのままでは死後の排泄をしないと考えられている。それをそのまま食べると、食べた者は腹が膨れ、ついには死に至るとされている。このため、これらの動物を仕留めた場合、狩人は時をおかずに獲物の尾を結び、さらにムトゥンダ (mtunda: *Turraea robusta*) という木やワンジェ (wanje: 学名不詳) という草の根を噛んで、そのかすを獲物の口と肛門に吐きかける。前者は咳を止める働きをもち喉を開ける「薬」、一方後者は下剤として知られている「薬」である。この手続きの後に、結んでおいた尾を解いてやる。この儀礼はウヴムラ u-vumura 「解くこと」よばれる。これによって、獲物の腹のつかえも「解け」たとみなされ、実際の排泄の有無にかかわらず、狩人は獲物の解体に取りかかることができる。この手続きを怠り、腹が膨れ出した狩人の治療には、それぞれの動物の口と肛門が用いられる。この部分を焼いて得た灰を、ゴンコモラ (gonkomola: 学名不詳) という木とチガガ (chigaga: *Maprounea africana*) という木の根を搗いて粉にしたものと混ぜ、トウモロコシのカユ (phala) に入れて飲む。また、時間をおいて、ムトゥンダ (mtunda: 前出) とチショポラ (chishopola: *Steganotaenia araliacea*) の木の根の粉を服用する。各動物の口と肛門を用いるのは怠った儀礼を補完するものである。ゴンコモラは、堅固な蟻塚に「穴を開ける」(ウゴンンコモラ, u-gonkomola) ほどの根の張りの強い木として知られ、患者の腹の詰まりに「穴を開ける」ために使用される。チショポラは、その名がウショポラ u-shopola 「引き出す」という動詞を連想させることから腹の中に詰まったものを「引き出す」ために加えられる。チガガは経験的に優れた下剤として知られた植物である。

<邪術師の使魔または変身>

邪術師は自分の手でライオン (mkhango) やブチハイエナ (fisi) を作りだし、それを使魔 (kapaso) として派遣して、他人の家畜を襲わせる。また邪術師自身がライオンやハイエナに変身することもある。使魔を作り出す際にはその動物を象った木の像が、またみずから変身する場合はその動物の仮面が用いられ、さらにそれにその動物の脳と尾がチズインバとして加えられるというのが、その詳細は定かでない。

<他人の畑の作物を盗むフンバ (fumba) という邪術とその予防>

チェワの人々のあいだでは、コツメデバネズミは「チトゥテ」chitute とよばれている。この野ネズミは、地下に長大なトンネルを掘り、そこに集めてきた畑の作物を貯蔵して生活していると考えられている。チトゥテという名は、ウトウタ u-tuta「集める」に由来する。邪術師はこの野ネズミの心臓をチズインバとして用い、みずからチトゥテを作り出して、それに他人の畑のトウモロコシを集めて来させると考えられている。フンバとよばれる邪術のひとつである。こうした邪術から自分の畑を守るためには、コツメデバネズミとその巣の草、それにントゥプサ (nthupsa: *Dolichos* sp.) という灌木の根を焼いて得た灰とチンクンドゥ (chinkundu: *Erythrophloeum africanum*) という木の根を搗いた粉を混ぜて水で溶き、それにトウモロコシの穀粒を浸す。その上で、その穀粒を畑の中央と四隅に埋めておく。コツメデバネズミを用いるのは、邪術師の送ったコツメデバネズミを逆用して、それを邪術師のもとへ送り返すためである。一方、その巣の草は、コツメデバネズミが集めてきて、そこに貯えておいたものであることから、畑の作物が他所へ動かずにそのまま貯えられることを願って使用されている。ントゥプサという灌木の名には、「十分にある」あるいは「満足した」といった状態を表す言葉がそのまま使われている。それゆえ、この植物を加えることで、自分の畑の作物が「十分に実る」ことが保証されると考えられている。チンクンドゥは、邪術師が飲むと死ぬが、無実の者が飲んでも吐き下すだけだといわれ、邪術師か否かの試罪に使われる木として知られている。それだけに、この木には、邪術師はけっして近寄らないという。その木の粉を用いることで、邪術師が畑に近づくことを防げるというわけである。なお、他人の畑から作物を盗むのには、コツメデバネズミのほか、サバンナヒヒ (mkhwere) やサバンナモンキー (pusi), イボイノシシ (kaphulika) なども利用される。邪術師はこれらの動物を自分の手で作りだして使魔 (kapaso) として派遣したり、あるいはみずからこれらの動物に変身することもあるという。いずれの場合も、それぞれの動物の脳と尾がチズインバとして用いられるというのが、詳細は定かでない。

<邪術師の偵察用の使魔>

邪術師は自分の手でミミズクやフクロウの類を作り出し、それを使魔 (kapaso) として派遣して、自分が襲おうとする相手の家が邪術師除けの「薬」で防護されているか否かを下見させたり、相手の持ち物を盗み出したりする。盗んできた相手の持ち物は呪薬の中に添加され、その呪薬がその本人に選択的に効力を発揮するようにするために使われる。使魔を作り出すには、本物のミミズクやフクロウの体の一部がチズィンバとして用いられるという。なお、邪術師自身がミミズクやフクロウに変身することはないとされる。ここに挙げた種のうち、アフリカワシミミズク (kazizi) は、“muphe muphe nimukukute nyama”「殺せ、殺せ、私は肉が欲しい」と鳴くという。また、メンフクロウ (shololo) の「ショロロ」という泣き声は、今なら相手を襲えるということを邪術師に知らせる笛の音だという。そして、アフリカオオコノハズク (kuthukuthu) は“kuthukuthu zii”，つまり「クトゥクトゥ、静かだ」と鳴くとされる。襲うべき相手の家が寝静まっており、「今なら襲っても大丈夫」と言っているというのである。このため、村人たちは、村の中でミミズクやフクロウの鳴き声を耳にすると、闇に向かってよびかけることがある。「また邪術を使っているのか。友達を殺すなど恥しくないのか」。村の中でミミズクやフクロウの姿を見かけたときには、邪術師よけの護身具を投げつける。村の中まで入ってくるミミズクやフクロウは、まず邪術師の造ったものだといみなされるのである。

<邪術師の探知剤>

ダイカーやクリップスプリングアの角の中に、カヴンドゥラ (kavundula: *Psorospermum febrifugum*) の木の根の皮を粉にしたものと赤いビーズを入れ、就寝時に枕許においておく。こうすると、夜、邪術師が襲ってきても、いちはやく気づいて起きることができるという。ダイカーやクリップスプリングアの角を用いるのは、これらの小型羚羊類が人の気配を敏感に感じとる動物だからである。カヴンドゥラはウヴンドゥムカ u-vundumuka「びっくりして起きる」という動詞を連想させることから、これを枕許においておけば、いくら深く眠っていても「びっくりして起きる」ことができるとされる。赤いビーズを加えるのは、邪術師に対抗するためである。邪術師は、夜間、みずからの身を火で包んで出歩くという。赤いビーズは、その火にみたてられている。向かい火をたいて、邪術師の火を弱めようというのである。

<恋薬 (chikondi)>

センザンコウの鱗、鳩 (nkhunda) の心臓、ンディリレ (ndilile: 学名不詳) という木の樹液、パリベカントゥ (palibe kanthu: *Dicoma angustifolia*) という木の根を

搗いて粉にしたものを、布に包み、左腕に巻いて生活する。また、同じ「薬」の一部を眉間につけた傷 (mphini) にすり込む。センザンコウは、人に出会うと、首を垂れて身体を丸めてしまう。そこで、この動物を恋薬に加えると、出合った相手も首を垂れて、何でも言うことをきいてくれるようになるという。また、鳩は、雌雄つがいで行動する。それゆえ、鳩をチズインバに用いると、相手も自分と共に行動することを欲するようになることされる。ンディリレという木の名は「私は泣く」という意味をもつ。一方、パリベカントゥという木の名は「問題なし」という意味である。これらの木を添加することで、相手が自分のために「泣いて」くれ、どんな要求を出しても「問題なし」と承諾してくれるようになることが期待されている。

<強精剤、不能者の治療薬>

キイロヒヒのペニスを干したものを、ナングワ (nangwa: 学名不詳) という木の根、ムトト (mtototo: *Hippocratea* sp.) という木の根をともに搗いて粉にし、トゥモロコシのカユ (phala) に入れて服用する。キイロヒヒは何度性交を重ねても疲れぬ動物といわれ、そのペニスは男性の不能者の治療によく効くとされている。ナングワは樹液が白く、精液を増やす作用があるという。ムトトは、その名がウトトメラ u-totomera 「伸ばす」という語を連想させることから、ペニスを伸ばすのに効果があるという。

<将来の出来事を夢で知るための「薬」>

ハイエナの脳とゴマバラワシ (gola) の脳を乾かして粉状にし、額、こめかみ、首すじにつけた傷 (mphini) に塗り込む。ハイエナは、昼間眠って、夜どこへいけば豚小屋の入口が開け放したままになっているか、どこへいけば死肉があるかを夢見ている。また、ゴマバラワシも、どこへいけば死肉があるかを夢でみて知るといふ。それらの脳を服用することで、遠くで起こっている出来事や、将来の出来事を夢で判断できるようになるとされる。ただし、こうした「薬」を使用することは、それがとくにどこに死者が出るかを予測する能力と直結するだけに、邪術師の疑いをかけられるものとなる。

<強壮剤 (mangolomela)>

ライオンの爪と鼻と脳、ツチブタ (dzimba) の鼻、落雷のあった木の皮、死者を出した家の屋根の材木の破片をともに搗いて粉にし、針を削って得た鉄粉と混ぜて、身体各所につけた傷 (mphini) に塗り込む。ライオンは、最も凶暴な動物として知られている。また、ツチブタは、その鼻でどんなに堅い土でも掘り出してしまえるほどの力をもっている。それらを取り込むことで、どんな相手と戦っても勝ち、どんな労

働にも耐えられる強靱な身体が得られるという。落雷のあった木や針が利用されるのは、戦う相手に強烈なショックと痛みを与えるためである。また、死者の家の部材が用いられるのは、相手を死に至らしめるためである。力づくの復讐を企てる男や、プロのボクサーがこのような「薬」を使うという。なお、ツチブタの鼻は、とくに鉾山労働者が「薬」として好んで用いる。

<他の夫婦を離婚させる「薬」(kaphantu)>

シュモクドリ (katawa) は、その大きな巣をメンフロウやエジプトガンに乗っ取られてしまうことで知られる [GINN 1972: 51]。チェワの人々は、このような特性をもつシュモクドリを、一度巣を離れると二度と戻ってこない鳥としてとらえている。シュモクドリの方名「カタワ」とそのことに由来する。「カタワ」とは「逃げるもの」の意である。このためシュモクドリは、結婚している夫婦を別れさせるためのチズィンバとして用いられる。シュモクドリの巣の入口の部分、蛇（とくに種は限定されない）の皮やすでに放棄されたアブ (mavu) の巣、犬の糞、カヴンドゥラ (kavundula: *Psorospermum febrifugum*) の根とともに粉にして、別れさせようとする夫婦の家の屋根の上にまきかける。こうすると、その家には口喧嘩が絶えなくなり、そのうち夫婦別れをして、二度と復縁できなくなるという。蛇は、一度皮を脱げば、二度とその皮を着ることがない。この蛇の皮や放棄されたアブの巣は、シュモクドリの巣と同じく、ふたりの仲が二度ともとに戻らなくするために用いられている。犬の糞は、その家の中を臭くし、夫婦が匂いの源をめぐる互いに相手を非難しあうように仕向けるために使用される。カヴンドゥラは、その家の中を「かきまぜる」(ウヴンドゥラ u-vundula) ために加えられている。

以上で代表的な薬の用法の記述を終わる。これによって、チェワの薬の用法とその原理の概要はおおむね把握できるものと思われる。

IV. 総括と討論

本稿では、チェワの「薬」の素材と用法を記載してきた。前節でとりあげた「薬」を含め、筆者が薬草医から学んだすべての「薬」の用法は、表の形にまとめ一括して本稿末尾に提示した。最後にその全体を見渡し、チェワの「薬」の用法の特徴を指摘して本稿を結びたい。

表2 「薬」の素材

種 類		頻 度	%		
動 物	哺 乳 類 (nyama)	54	131	38.1	
	鳥 類 (mbalani)	28			
	爬 虫 類	トカゲ類 (buludzi)			3
		ヘビ類 (njoka)			5
		カメ類 (fulu)			2
		ワニ類 (ng'ona)			1
		両 生 類 (カエル: chule)			2
	魚 類 (nsomba)	3			
	環形・節足動物 (ムシ: kalombo)	33			
植 物		192	55.8		
そ の 他		21	6.1		
計		344	100.0		

表3-1 動物を素材とする「薬」の処方

加工法	投与法	服(飲)用	体につけた傷または患部に塗布	袋に包んで携帯	そ の 他	未 詳	計
	黒焼きの粉	16	45	5	2	—	68 (26.1)
	乾燥粉	26	42	11	25	1	105 (40.2)
	浸出液	3	—	—	3	—	6 (2.3)
	その他	12	2	9	13	—	36 (13.8)
	未 詳	—	—	—	—	46	46 (17.6)
計		57 (21.8)	89 (34.1)	25 (9.6)	43 (16.5)	47 (18.0)	261 (100)

() 内は%

表3-2 植物を素材とする「薬」の処方

加工法	投与法	服(飲)用	体につけた傷または患部に塗布	袋に包んで携帯	そ の 他	未 詳	計
	黒焼きの粉	17	65	6	5	—	93 (19.1)
	乾燥粉	91	85	9	36	—	221 (45.5)
	浸出液	82	2	—	27	—	111 (22.8)
	その他	11	6	18	22	1	58 (11.9)
	未 詳	—	—	—	—	3	3 (0.6)
計		201 (41.4)	158 (32.5)	33 (6.8)	90 (18.5)	4 (0.8)	486 (100)

() 内は%

1) 処方の特徴

チェワの人々が用いる「薬」の素材は、冒頭でも述べたように、その大半が植物と動物とからなる。筆者の学んだ「薬」における内訳は表2のとおりである。全素材344方名種のうち過半数は植物によって占められ、残りの大半が動物によって占められる。動植物以外の素材の比率はわずか6.1%にすぎない。動物の中では、哺乳類の使用頻度が高くて、それに続いて環形・節足動物などのいわゆるムシの類と鳥類が多く利用される。爬虫類や両生類、魚類も用いられるが、その例数はいずれもわずかである。

さて、以上のことを確認した上で、まず実際の「薬」の処方からみていきたい。表3-1と3-2は、動物性の「薬」と植物性の「薬」それぞれの処方を、加工法と投与法とにわけて整理したものである。「薬」の加工法の主なものとしては、素材を黒焼きにしたのち粉砕する、素材を乾燥したのち粉砕する、素材を水に浸しその浸出液を利用する、という三つの方法があげられる。一方、投与法には、「薬」を水や粥とともに服用する、「薬」を体につけた傷(mphini)または患部に塗布する、「薬」を袋に入れて携帯するなどといった方法がみられる。動物性の「薬」と植物性の「薬」の別を問わず共通して多用されるのは、乾燥粉を体につけた傷や患部に塗布するという方法や黒焼きの粉を同様にして塗布するという方法、それに乾燥粉を服用するという方法であり、植物性の「薬」に限り、これらに加えて植物体を浸した水を服用する方法が頻繁に用いられる。こうした処方はいわゆる民間療法で動植物体の有効成分を抽出・摂取する方法として広く用いられているものである。また、投与法に限っていえば、ここで挙げた方法は基本的に西洋医学で常用されている方法とも共通している。もちろん、体につけた傷に「薬」を塗布するという方法は西洋医学では用いられない。しかし、チェワの人々は西洋式の医療で用いられる注射はこの方法をより効率的にしたものだとして理解している。実際、この二つの方法の間に決定的な差異を認めることは困難であろう。

チェワの「薬」の処方の中には、動物を象った木偶と動物体の一部を用いてその動物を作り出したり、その動物に変身するという特異なものもみられる。しかしながら、そうした処方そのものは薬草医にとっても空想の領域に属するものであり、その詳細は知られていない。現実存在が確認される処方に関する限り、動植物の有効成分を利用する方法として最も広く知られている方法がチェワ族のあいだでも主な処方として多用されているといわざるをえない。チェワ族の「薬」に彼らの独自の論理を前提

表4 「薬」の素材と用途

用 途 \ 素 材		動 物		植 物		その他		計	
治療	邪術による病の治療	67	99	88	335	4	28	159	462 (65.0)
	その他	32	(42.3)	247	(77.0)	24	(66.7)	303	
予防	邪術の予防	14	22	18	35	—	1	32	58 (8.1)
	その他	8	(9.4)	17	(8.1)	1	(2.4)	26	
強 化		53 (22.6)		51 (11.7)		11 (26.2)		115 (16.2)	
邪 術		60 (25.7)		7 (1.6)		2 (4.7)		69 (9.7)	
その他		— (0)		7 (1.6)		— (0)		7 (1.0)	
計		234 (100)		435 (100)		42 (100)		771 (100)	

() 内は%

としなければ理解できないものがあるとすれば、それはその処方以外の側面に求められるべきもののように思われる。

2) 用 途 の 特 徴——病をもたらす動物、病を癒す植物

チェワの「薬」の用途には、動物と植物という素材の別に応じた顕著な特徴が指摘できる。表4 が示すとおり、植物性の「薬」の大半は病の治療に用いられている。一方、動物性の「薬」の場合、邪術や身体的能力の強化のために用いられるものの合計が全体の半数を超え、治療を目的とするものの総数を上まわっている。

このうち、動物性の「薬」については、若干の補足説明が必要である。チェワの人々によれば、ライオンやハイエナの体の一部を用いてライオンやハイエナに変身し人や家畜を襲う邪術師は、死後ライオンやハイエナに変身するといわれる。同様に、腕力や狩猟の能力の強化のためにライオンの体の一部を「薬」として常用する者も死後ライオンに変身するといわれる。表5 における用途の区別では、前者は邪術の項に、後者は強化の項に分類されているが、こうした「薬」を用いることのあまりない多くの人々の目から見れば、両者はともに危険視され、その限りにおいて同一のカテゴリーに属するものとみなされているのである。また、邪術による病気の治療や予防には、邪術師が用いたのと同様のテクニックを逆用するのが常である。これらの用例も含めて考えれば、動物性の「薬」が邪術に類する用途に用いられる率は80%近くにも達することになる。したがって、全体としては、動物が邪術に用いられ、植物がその邪術によって引き起こされたものも含めて病の治療に用いられるという図式が浮かび上がってくる。

動物が邪術に利用されるという点は、すでにチェワの人々の創世神話の中に語られ

ている。その神話とは次のようなものである。

「人間と動物はもともと神様 (mulenga) が造られた。だから大昔には人間と動物は仲よく暮らしていた。人間が腹を空かせたときでも、「神よ、恵みを」と唱えるだけで、動物が勝手に死んで肉になってくれた。ところが、人間が互いに妬みあい、(動物を利用した：筆者注記) 邪術によって他人を傷つけることを覚えたため、神が怒って人間と動物を引き離してしまわれた。それ以来、人間は腹が空けば動物を追い、狩りをしなければならなくなった。また、たまたま人間が出合う動物は(邪術師が変身したものか邪術師によって派遣されたものであるために：筆者注記) 人間に怪我や病気をもたらすものになってしまった」。

一方、植物がもっぱら病気の治療に用いられるという事実は、植物についてのチェワの人々の信念に照らせば容易に理解することができる。チェワの人々は食用にならない木や草は神が病気を癒すために人間にくだされたものだと考えている。このことは、「薬」用に供するために木や草を採集するとき、筆者の師事した薬草医のひとりがとなえる次のような呪文によっても明らかである。「祖父(ここでは神をさす)よ。あなたはこの木を病人を治すためにお造りになられた。私の願いを聞き入れ給え」。

チェワ族の周辺に住む多くのバントゥ系民族のあいだで、薬と木とが同じ語によって指示されるという例がみうけられる。ベンバ(Bemba)族におけるムティ(muti)、ンデンプ族におけるイトゥンプ(yitumbu)がそれにあたる[RICHARDS 1982 (1956): 27; TURNER 1967: 305]。これらの語の用法は、事実上「すべての木がダワ(薬：筆者注記)になる」[掛谷 1977: 437]という信念と軌を一にしている。チェワ語の場合、木はムテング(mtengo)、「薬」はマンクワラ(mankhwala)と、別々の言葉でよばれているが、その背後にある信念はベンバやンデンプと同じであるといつてよい。

邪術師が動物を利用して病気をもちらし、薬草医はその動物を逆用するとともに植物を利用して病気を治療する。チェワの人々にとって、動物と植物は、人間の邪術を媒介としてそれぞれ病気の発生と治癒に対応した存在なのである。

3) 「薬」の使用原理と着眼点

特定の素材が特定の用途に用いられる理由は、それぞれの「薬」の投与の際に呪文のかたちで唱えられることが多いだけに、薬草医の口からかなり明快地提示される。こうした「薬」の使用原理、いいかえれば薬効の説明原理には、いくつかの類型がみとめられる。もとより、類型の設定は基準のとりかたにより可変的な性格をもつ。ただ、700以上にも及ぶ「薬」の用法の全体的見通しを得るには、ある程度の類型化も必要であろう。ここでは、薬草医が与える説明の中のキー・タームに着目することで、

とりあえず10の類型を区別する。

① ムチェゾ（カヨウェラの派遣）

既に述べたように、邪術師は動物や植物をチズインバとして用い、その動物ないし植物をまねた目に見えぬ虫——カヨウェラ——を作り出して、それを狙った相手の体の中に送り込むといわれる。そうすると、犠牲者の体にはそのカヨウェラがまねている動植物の属性に類似した症状が現れるという。邪術師はまた、カヨウェラを特定の相手に送り込むために、相手の衣服の切れはしや排泄物を「薬」に混ぜるともされている。ここには、フレーザーが類感呪術とよんだ、類似のものは類似のものを生むという観念のほか、彼が接触呪術と名づけた、もともと接触していたものは離れた後も繋がっているという観念が指摘できる [FRAZER 1913: 52-54]。記号論の用語を用いていえば、前者は隠喩の手法に基づく操作であり、後者は換喩の手法による操作である [JAKOBSON 1963: 65-66]。

② リカンコ

リカンコはもっぱら配偶者の姦通を阻止するために用いられる邪術である。特定の動植物体の一部を他の「薬」と混ぜ、密かに配偶者の食物の中に入れておく。配偶者がそれを食べたのち愛人と性交渉をもつと、食物を摂取した配偶者ではなく愛人のほうに、用いられた動植物の属性に類似した症状が表れるという。

③ 邪術師の使魔と変身

邪術師はライオンやハイエナを象った木偶や仮面を使ってライオンやハイエナを作り出し使魔 (kapaso) として派遣したり、みずからそれらの動物に変身したりして人や家畜を襲うという。いずれの場合も当該動物の脳と尾とが「薬」の成分として用いられる。

④ 模倣

チェワの人々はこれまであげた三つの手法をすべて邪術 (ufiti) とよんでいる。それらはいずれも、主として類似の法則に基づく隠喩的操作により、未だ生起していない現象を新たに創出しようとするものである。同様の手法は邪術以外の目的にも利用される。つまり、病気の治療や身体的能力の強化を目的とした場面でも、特定の素材を用いてその素材に類似した現象を生み出そうとする試みがなされるのである。しかも、それらの方法は、ムチェゾやリカンコがいわば遠隔操作を旨としていたのに対し、「薬」を投与された本人に直接的に作用するという特徴をもっている。赤い樹液を有する植物を投与して患者の血を増やそうとする試みや、「張りつくもの」という意味の名をもつカラマティラの根を用いて傷を張りつけようとする療

法、さらにはどんなに堅い土でも掘り返すツチブタの鼻を鉱山労働者に与えて、鉱石採掘の能力を高めるといった方法がその例である。ただ、こうした手法には、特定のチェワ語の名称が付与されていない。そこで、ここでは、これらの「薬」の使用原理を仮りに「模倣」と名づけることにする。フレーザーは、類似の法則に基づく呪術を類感呪術ないし模倣呪術とよび、このうち模倣という言葉には意識的に模倣するような語感をもつがゆえに、むしろ類感という名称のほうが適切であると述べている [FRAZER 1913: 52]。筆者はまさにその同じ理由から、このカテゴリーの「薬」の原理を模倣とよびたい。それは、これらの「薬」が、治療を目的としたものであると能力の強化を目的としたものであるとを問わず、「薬」の素材の属性を「薬」を投与された当人の身に取り込むことを意図したものであるからである。

さて、以上四つの「薬」の使用原理が未だ生起しない現象を新たに創出することを目的とするのに対し、次の⑤から⑧の原理は既に生じている現象を除去することを目的とする。ただし、その手法が主として隠喩的操作に基づいていることは上の四つの場合と同じである。

⑤ 同種療法

病気の症状からの類推により邪術師が用いたと思われるのと同種の事物を用い、「もとのところへ帰るように」と念じれば、病気はその送り主のもとに帰る。また、体に模様のある動物の肉を食べて起こった皮膚病も「もとのところへ帰るように」と念じながら当該動物の皮を患者に投与することによって治療できる。本稿では、こうした療法を同種のものによる療法という意味で同種療法と称している。

⑥ 撃退

悪臭を放つものを患者に与え、その匂いで病気を起こしている虫やカヨウエラを追い出したり、ねばりのある樹液をもつ植物を投与することで、病気を滑らせて撃退するという方法がこれにあたる。

⑦ 慰撫

病気の原因となっている動物の好物を患者に与えることで、その動物を慰めて症状を和げようという方法である。例として、動物を食べたためにおこったと考えられる皮膚病の治療に、多くの動物が好んで実を食べるチトッペを投与するという療法があげられる。

⑧ 転移

病気を他者に移すことで患者を救おうとするもの。妊娠した女性の近親者にできるきものを針で突き、同じようなこぶをもつムトクンパコの木に移すのがその

一例である。

⑨ 怠った儀礼の補完

定められた手続きの不覆行による病気の治療には、その怠った手続きを再現し、補充するような行為が動員されることがある。たとえば、狩りで大型草食獣を仕留めた場合には、獲物の口と肛門に「薬」を吐きかけ、獲物の腹の詰まりを取り除いてからでないと、その獲物の肉を食べてはならない。さもないと、それを食べた者の腹が膨れ、ついには死に至るとされている。この手続きを怠って腹が膨れ出した者の治療は、その動物の口と肛門の肉が本来必要な「薬」とともに使用される。

⑩ 実効性

「薬」の中には経験的にその病気の治療に有効であるという説明以外に、とくにその素材の使用の理由が明示されないものも多い。夢で見たので使ってみたらよく効いたとか、祖先の代からその病気の治療に使っているといった説明だけがなされる場合である。

なお、いうまでもないことながら、使用の理由として実効性が指摘される「薬」があるからといって、これまでに挙げた①から⑨までの各原理に基づいて使用されている「薬」に実効性がみとめられないというわけではない。少なくともチェワの人々の経験に照らす限り、上に挙げたすべての療法はその有効性が「実証」されているのである。その有効性が如何なるかたちで説明されるにせよ、その背後には「それが効く」

表5 「薬」の原理

原 理 \ 素 材		動 物	植 物	その他	計
創 出	ムチェゾ (カヨウエラの派遣)	22 (9.2)	3 (0.7)	2 (4.6)	27 (3.7)
	リカンコ	9 (3.8)	2 (0.5)	— (0)	11 (1.5)
	変身・使魔	21 (8.8)	— (0)	— (0)	21 (2.9)
	模 倣	93 (39.1)	171 (38.7)	19 (44.2)	283 (39.1)
除 去	同種療法	59 (24.8)	34 (7.7)	5 (11.6)	98 (13.6)
	撃 退	4 (1.7)	101 (22.8)	6 (14.0)	111 (15.4)
	慰 撫	— (0)	4 (0.9)	— (0)	4 (0.6)
	転 移	1 (0.4)	5 (1.1)	1 (2.3)	7 (1.0)
怠った手続きの補完		9 (3.8)	2 (0.5)	— (0)	11 (1.5)
実 効 性		13 (5.5)	84 (19.0)	10 (23.3)	107 (14.8)
そ の 他		— (0)	8 (1.8)	— (0)	8 (1.1)
未 詳		7 (2.9)	28 (6.3)	— (0)	35 (4.8)
計		238 (100)	442 (100)	43 (100)	723 (100)

() 内は%

表6 「薬」の素材選択の着眼点

着眼点 \ 素 材		動 物	植 物	その他	計
状 態	形	36 (15.1)	52 (11.7)	2 (4.7)	90 (12.4)
	名前	2 (0.8)	75 (16.9)	5 (11.6)	82 (11.3)
	色	3 (1.3)	43 (9.7)	4 (9.3)	50 (6.9)
	味	— (0)	62 (14.0)	1 (2.3)	63 (8.7)
	匂い	4 (1.7)	16 (3.6)	— (0)	20 (2.8)
	堅さ	3 (1.3)	14 (3.1)	2 (4.7)	19 (2.6)
	粘性	1 (0.4)	9 (2.0)	1 (2.3)	11 (1.5)
	痒み	— (0)	6 (1.3)	— (0)	6 (0.8)
	他の用途	— (0)	19 (4.3)	11 (25.6)	30 (4.1)
生 態	強力・危険性	33 (13.9)	7 (1.6)	2 (4.7)	42 (5.8)
	運動の特徴	46 (19.3)	5 (1.1)	— (0)	51 (7.0)
	繁殖能力	7 (2.9)	10 (2.2)	— (0)	17 (2.3)
	生息地(巣)	13 (5.5)	9 (2.0)	— (0)	22 (3.0)
	知覚能力	13 (5.5)	— (0)	— (0)	13 (1.8)
	食性・共生関係	20 (8.4)	15 (3.4)	— (0)	35 (4.8)
	音(声)	3 (1.3)	1 (0.2)	— (0)	4 (0.6)
実 効 性		8 (3.4)	42 (9.5)	9 (20.9)	59 (8.1)
同 一 物		12 (5.0)	— (0)	1 (2.3)	13 (1.8)
そ の 他		21 (8.8)	28 (6.3)	5 (11.6)	54 (7.5)
未 詳		13 (5.5)	31 (7.0)	— (0)	44 (6.1)
計		238 (100)	444 (100)	43 (100)	725 (100)

() 内は%

という経験的裏づけが存することを見逃してはならない。

以上に列挙した諸原理のうち、どの原理がより頻繁に適用されるかについては、動物と植物という「薬」の素材の違いによって多少の差異がみられる。表5は筆者が学んだすべての「薬」の用法について、上述のどの原理が適用されているかを素材ごとに点検し、その頻度をまとめたものである。素材の違いにかかわらず、もっとも頻繁にみられる原理は模倣、つまり素材の属性を取り込もうとするものである。動物性の「薬」の場合、それに続いてムチェゾ、リカンコ、変身という邪術の3大原理（あわせて21.8%）とそれに対応する同種療法の原理が多用されている。一方、植物性の「薬」については、侵入してきた病気の撃退と実効性とが抜kindでた頻度を示している。こうした相違は、ここで設定された「薬」の使用原理の類型に「薬」の用途の違いが微妙に反映されていることに基づく。しかし、いずれにせよ、チェワの「薬」の用法の根底に、動植物の属性に着目し、その属性に隠喩的ないし換喩的連合をもととして病を誘発したり治療したりする効力を見いだすという共通の志向がみとめられる

のは確かである。

ただし、その際に着目される属性はきわめて多様である。表6が示すとおり、植物性の「薬」の場合、その植物の名前や形状、味、色などがとりあげられ、その効能が呪文のかたちで説明される。その名が「かきまわすもの」という意味をもつカヴンドゥラという植物を用いて人の心をかきまわし、実の形が妊婦の姿に似たムチェレケテの木を用いて妊娠の維持を図り、白い(u-yela)樹液をもつ植物を用いて体の中を洗い流す(u-yeletsa)といった具合である。一方、動物性の「薬」の場合には、動物の形のほか、動きの特徴や、凶暴性、食性、知覚の鋭さなどがとりあげられ、その効能が語られる。甲羅から頭を出すカメを用いて腫れ物を誘発し、凶暴なライオンを用いて腕力を鍛え、虫を食べる雄鶏を用いて病気を起こしている虫を駆除する。チェワの薬草医は、動植物のもつこうしたさまざまな属性に人間の様態の比喩をみてとり、病の発生や治癒、能力の創出・強化のプロセスを呪文というひとつの語りのかたちに仕立て上げていくのである。

4) 語りとしての「薬」

本稿で記載した「薬」の用法を通観してみると、複数の薬草医のあいだで共通した用途に用いられている「薬」(表中では各項目の記載の左肩に*印が付されている)が意外に少ないことに気づく。動物性の「薬」ではその数が235例中56例で23.9%,植物性の「薬」では434例中18例で4.15%,その他の素材の「薬」では42例中2例で4.8%を占めるにすぎない。動物性の「薬」において数値が高いのは、邪術師が邪術や変身・使魔に利用するとされる動物、あるいは儀礼的手続きを踏まないと狩人に病気をもたらすとされる動物について、チェワ族全体の中で共通の認識が存在するからである。こうしたものを除けば、動物性の「薬」の場合でも、複数の薬草医のあいだで用法の一致するものは、22例、9.8%を数えるのみである。こうした数値からする限り、少なくとも薬用に供されるもろもろの素材の用法に、広く行き渡った一定の規則が存在するとはいいがたい。本稿の冒頭でも述べたとおり、「薬」についての知識はそれぞれの薬草医の財産として秘義化されているが、彼らチェワの薬草医は、師から受け継いだ「薬」とみずからが経験的に開発した「薬」とを、まるででんでばらばらに用いているかのようである。

こうした個別性はまた、ひとつの素材が複数の用途に用いられる際の使用理由の説明にもみることができる。ある素材の使用の理由が用途にかかわらず素材の同じ属性——色や形、名前や動きの特徴——に着目して語られるものは、動物性の「薬」の場

合54例中17例 (31.5%)、植物性の「薬」の場合104例中28例 (26.9%)に留まる。いずれの場合も3分の2以上は、同じ素材でも用途によって異なる属性に目をつけられ、異なる理由づけのもとに使用されているということになる。

たとえば、雄鶏は結膜炎の治療、強精剤、ムドゥロの予防に用いられるが、結膜炎の治療にそれが利用されるのは雄鶏が朝ぱっちり目を開くからだといい、強精剤として用いられるのは雄鶏が疲れもみせずに性交を繰り返すからだといわれる。そして、ムドゥロの治療に効力を発揮するのは、手当たり次第に性交をおこなっても雄鶏がムドゥロの病に苦しまないからだと説明される。ムトゥクンパコという植物の場合は、その名からウトクムカ＝「大きくする」という語が連想されてペニスを大きくする効力をもつといわれるかと思えば、その名からウトククラ＝「引き上げる」という語が連想されるがゆえに下った腹を引き上げる、つまり下痢の治療に有効だともいわれる。そして針については、それが腕力を強化するのに使用されるときには、針の鋭利さがとりあげられてその針で相手を刺して痛めつけると言明されるのに対し、それが妻のもと以外では性欲を覚えなくなった夫の治療に利用されるときには、針が布の表から裏へ通ってもまた表へ戻ってくるという点に目が向けられ、病を送り返すために用いると呪文の中で語られるのである。

このように、特定の用途に特定の素材を用いる際の理由づけはその用途ごとに異なり、それが用いる文脈に応じて融通無碍に変化するという傾向がみとめられる。そこに固定的なコードを見いだすことは難しい。なるほど、ひとつの用途にはひとつの理由が付されるのが一般的であり、「薬」の使用の機会ごとにその理由づけが変えられるといったことはほとんどない。これはこうした使用理由が基本的に呪文のかたちで語られることを前提としたものだからである。特定の「薬」を特定の用途に用いる場合、薬草医は一定の呪文を唱えるのが常である。したがって、ひとつの用途に関していえば、素材とその使用理由つまり効能の説明とのあいだには1対1の対応関係が成立している。しかし、そうした理由づけないし効能の説明が用途ごとに異なり、しかもその用途が先にみたように大部分薬草医の裁量に任されたものであるとすれば、結局のところ、ある素材にどのような効力を認め、それをどのような目的に使用するかという一連の操作もまた、個々の薬草医の裁量に委ねられているといわなければならない。その上、薬草医は新たな素材を文字通り自家薬籠中のものとする努力を忘れることがない。ザンビア国旗や電線は、薬草医が伝統的な「薬」の原理を応用しながらそれらの素材に新たな効力を認め、みずからの「薬」として採用したものにほかならない。薬草医が素材の属性に着目し、それを前節でみた類型に従って呪文のかたちに

定式化するかぎり、新たな素材が新たな用途に用いられる道は、理論上無限に開かれているのである。

このようにいうと、あるいはチェワの「薬」の実効性に疑問をさしはさむ向きもあるかもしれない。しかし、彼らの「薬」が科学的な意味で有効性をもつかどうかを判断するのは筆者の任ではない。そうした試みは、所詮、一つの民族薬学を別の民族薬学で評価することにしかならないであろう。すでに述べたとおり、少なくともチェワの薬草医の経験に照らす限り、彼らの「薬」の効力はすでに「実証」されているのである。むしろ、ここで注目すべきは、チェワの「薬」が、現代医療で用いられる薬のように単に物理的に投与されるだけでなく、呪文というかたちで病の発生や治癒、能力の強化・創出をひとつのストーリーとして組み立てるために用いられているということである。もちろん、すべての投薬場面で呪文が唱えられるわけではない。しかしながら、薬草医が用いる「薬」の素材はチェワの人々にとって身近な動物や植物であり、またそこで期待されている「薬」の効能もそれらの色や形、匂いや動きなど彼らによく知られている特性に基づくものばかりである。したがって、「薬」を与えられた者にもその「薬」の効果を推測し、ひとつのストーリーに組み立てることが可能である。いずれにしても、そうした語りの中で、本来不可知な体内での変化のプロセスを、外在する動植物を用いてイメージとして定着し認識することができるようになる。それによって始めて、チェワの人々はみずからの病の治癒や能力の強化、他人の発病を確信するのであろう。

チェワの薬草医に要請されているのは、物理的な効果を得るだけでなく、身体内部で生起する変化を認識できるかたちで組織化することである。その点からいうならば、動物や植物など、チェワの人々がその特徴をよく認識しているものであるなら、あらゆる事物が「薬」として用いられる可能性をもっている。また、その素材を使用する理由づけも、それがチェワ族の共通の知識に立脚していれば十分である。薬草医が用いる「薬」の素材や用途の個別性、そしてその説明原理の融通無碍さは、このような認識の手段としての「薬」という視点から理解されるべきものと思われる³⁾。

民族医療における治療が、患者を語りの中に組み入れ、不可解な経験を再組織化することによって達成されるという指摘は、レヴィ＝ストロースによる「象徴的效果」に関する論考をはじめとしてすでに各所でなされている [LEVI-STRAUSS 1972 (1958): 205-227]。チェワ族の「薬」の特徴は、そうした語りが彼らを取りまく動植物の諸

3) 筆者のこうした立場は、「象徴は情報をコード化する手段でなく、むしろそれを組織化する手段である」というスペルベルの主張 [SPERBER 1974: 82] に多くを負っている。

属性に着目して構成されているところに求められるであろう。チェワ族にとっては、動物と植物こそが、未知の情報を組織化する際の参照点なのである。

文 献

- BROADLEY, D. G. & E. V. COCK
1975 *Snakes of Zimbabwe*. Longman Zimbabwe.
- CENTER FOR AFRICAN AREA STUDIES
1987 *Introduction to Aflora: An On-line Database for Plant Utilization Information of Africa*.
Kyoto University.
- DORST, J. & P. DANDELOT
1972 *A Field Guide to the Larger Mammals of Africa*. Collins.
- 動物大百科 (D. W. マクドナルド他編, 今泉吉典他監修)
1986-1987 (1)食肉類, (3)霊長類, (4)大型草食獣, (5)小型草食獣, (6)有袋類ほか, (12)両生・爬虫類, (15)昆虫, 平凡社
- EVANS-PRITCHARD, E. E.
1973 *Witchcraft, Oracles and Magic among the Azande*. Oxford U.P.
- FITZSIMONS, V. F. M.
1970 *A Field Guide to the Snakes of Southern Africa*. Collins.
- FRAZER, J. G.
1913 *The Golden Bough: A Study in Magic and Religion*, vol. 1. Macmillan and Co..
- GINN, P.
1972 *Birds of the Highveld*. Longman Zimbabwe.
- HUTCHINSON, J. & J. M. DALZIEL
1937 *The Useful Plants of West Tropical Africa*. Crown Agents for the Colonies.
1954-1972 *Flora of West Tropical Africa* (Second Edition), vol. 1-3. Crown Agents for Overseas Governments and Administrations.
- JAKOBSON, R.
1963 *Essais de Linguistique générale*. Les Éditions De Minuit.
- 掛谷 誠
1977 「トングウェ族の呪医の世界」伊谷純一郎, 原子令三編『人類の自然誌』雄山閣出版 377-439。
1978 「シコモロの素材と論理——トングウェ族の動物性呪薬」『アフリカ研究』17: 1-33。
- KASHOKI, M. E. and M. MANN
1978 A General Sketch of the Bantu Languages of Zambia. In S. Ohannessi & M. E. Kashoki (ed.), *Language in Zambia*, International African Institute.
- LEVI-STRAUSS, C.
1952 *Anthropologie structurale*. Librairie Plon.
- MACLEAN, G. L.
1985 *Roberts' Birds of Southern Africa*. The Trustees of the John Voelcker Bird Book Fund.
- MARWICK, M. G.
1965 *Sorcery in its Social Setting: a study of the northern Rhodesian Cewa*. Manchester U.P.
- 長島信弘
1987 『死と病の民族誌——ケニア・テソ族の災因論』岩波書店。
- PALGRAVE, K. C.
1977 *Trees of Southern Africa*. C. Struik Publishers.
- PINHEY, E. & I. LOE
1973 *A Guide to the Insects of Zambia*. Anglo American Corporation (Central Africa).

吉田 チェワ族の「薬」

RICHARDS, A. I.

1982 (1956) *Chisungu: A Girls Initiation Ceremony among the Bemba of Zambia*. Tavistock Publication.

SPERBER, D.

1974 *Le symbolisme en général*. Hermann.

STORRS, A. E. G.

1979 *Know Your Trees: Some of the Common Trees Found in Zambia*. Zambia: The Forest Department.

TURNER, V.

1967 *The Forest of Symbols: Aspects of Ndembu Ritual*. Cornell U.P.

VERNON, R.

1983 *Field Guide to Important Arable Weeds of Zambia*. Zambia: Department of Agriculture.

WHITE, C. A. M.

1961 *Elements in Luvale Beliefs and Rituals, (Rhodes-Livingstone Paper 32)*. Manchester U.P.

WILLIAMS, J. G. & N. ARLOTT

1963 *A Field Guide to the Birds of East Africa*. Collins.

WOOD, R. C.

1955 Small Mammals of Southern Nyasaland. *The Nyasaland Journal* 2(1): 38-43.

山岸高旺 (編)

1974 『植物系統分類の基礎』 北隆館。

山階芳麿

1986 『世界鳥類和名辞典』 大学書林。

吉田憲司

1986 「病と薬——チェワ社会の医療体系」『アフリカ研究』 29: 29-53

付表 「薬」の素材とその用法——悉皆的記載

ここでは、前節に取り上げた「薬」を含め、筆者が薬草医から学んだすべての「薬」を表の形式に整理して悉皆的に記載する。

すでに述べたように、チェワの「薬」の素材の大半は動植物からなるが、人々はそうした動植物をさまざまな方名を与えて分類している。そのなかで、他の方名に含まれることがあっても、他の方名を含むことのないような名称を与えられた動植物のまとまりをかりに「方名種」とよぼう。本稿では、この方名種をチェワの人々の動植物認識の基本的単位と考えて、それを単位に「薬」としての用法を記載する。ただし、その配列の順序は、読者の理解の利便と今後の比較研究の便宜を考え、主として科学的な生物分類学に準拠したい。すなわち、素材を動物、植物、その他の三つに大別し、まず動物については、哺乳綱、鳥綱、爬虫綱トカゲ亜目、同カメ目、同ワニ目、両棲綱、硬骨魚綱、そして環形動物門および節足動物門という大きなまとまりを設定した上、それぞれの内部で科名、亜科名、種名のアルファベット順に配列する⁴⁾。なお、この分類はそれぞれチェワ族の動物分類におけるニャマ (nyama)、ムバラニ (mbalani)、ブルズィ (buludzi)、フル (fulu)、ンゴナ (ng'ona)、チューレ (chule)、ンソンバ (nsomba)、カロンボ (kalombo) というカテゴリーにもおおむね対応するものである⁵⁾。次に植物については、事実上素材のすべてが種子植物門 (Spermatophyta) に属するため、とくに下位分類を設定せず、科名、亜科名、種名のアルファベット順に配列する⁶⁾。そして動植物以外の素材については、数が少ないこともあり、チェワ語の方名のアルファベット順に記載する。もとより、動植物についてはチェワ族という方名種と生物分類学という生物種とが必ずしも1対1に対応するとは限らない。しかし、その大半は1方名種1生物種という対応をなしており、それ以外のものについても説明的な記載をおこなうことで、大きな不都合は避けうと思われる。

なお、用法の記載に際しては、簡潔を期すため、いくつかの略語を用いる。すなわち、

- ①何々の「粉」とは素材を乾燥させたうえ粉砕したものをさす。
- ②何々の「炭」とは素材を黒焼きにしたのち粉砕したものをさす。
- ③「体につけた傷」とはチェワ語でムピニ (mphini) といわれるもので、「薬」を塗り込むために皮膚に切り傷をつけたものをいう。
- ④薬を「袋に入れて携帯する」とは、薬を小さな布包み (chitumwa) に包み、着衣のポケットにいれたり腰にぶらさげたりして持ち歩くことをいう。
- ⑤「ムシ」とは、邪術師が患者の体の中に送り込む目に見えない虫のことをさす。チェワ語では、カヨウェラとよばれたり、一般の虫と同じくカロンボ (kalombo) とよばれたりする。なお、チェワの人々が「神の(造った)虫」とよぶ、自然界に存在する虫については「虫」という語をそのまま用いる。
- ⑥「Aを用いた邪術(リカンコ)によるX病」、「Bを用いた邪術(ムチェゾ)によるX病」とい

4) 動物の科の分類および和名は、鳥類については山階芳麿『鳥類和名辞典』1986に、それ以外のものについてはD. W. マクドナルド他編『動物大百科』1986-88に従った。

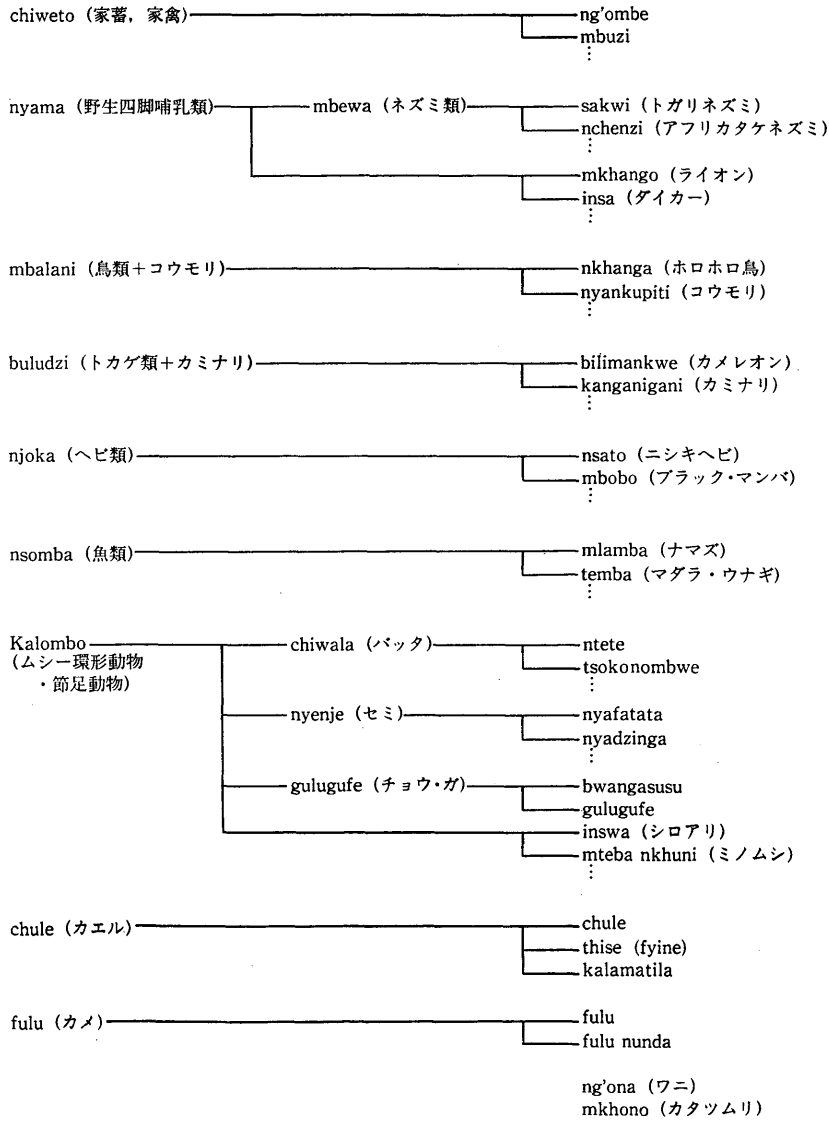
5) 例外は哺乳綱のコウモリ (nyankupiti) が鳥と同じムバラニの範疇に含められ、またカミナリ (kanganigani) の正体はトカゲのようなものだと考えられて、それがブルズィのカテゴリーに入れられていることである。チェワ族の動物分類については表7を参照。

6) 植物の科の分類は Hutchinson & Dalziel, The Useful Plants of West Tropical Africa, 1937, Hutchinson & Dalziel, Flora of West Tropical Africa, vol. 1-3, 1954-1972, および Palgrave, Trees of Southern Africa, 1977, に従い、その和名は山岸高旺(編)『植物系統分類の基礎』1974によった。

う場合、それらの病気は“likankho la A”, “mchedzo ya B” など、病気を起こすのに用いられた素材の名を冠して名づけられている。

⑦表中、用途、処方、説明の各項の左肩に*印のついているものは、その内容が複数の薬草医のあいだで一致したものをさす。

表7 チェワ族の動物分類



包括名

個別名

動物を素材

no.	方名	学名 和名	用途
[M] MAMMALIA 哺乳綱			
Bathyergidae デバネズミ科 Georychinae コツメデバネズミ亜科			
M-1)	chitute	<i>Cryptomys hottentotus</i> コツメデバネズミ	畑荒らし (fumba) のための使魔 同防御 *離乳前に母が妊娠し、乳児の体が腫れる病氣 (unjise または mapumso) の治療
Bovidae ウシ科 Antilopinae アンテロープ亜科			
M-2)	mbalale	<i>Oreotragus oreotragus</i> クリップスプリンガー	この動物を食べて喘息 (chifuwa cha befu) になった犬の治療 邪術師の探知薬の容器
M-3)	chozimbi	<i>Ourebia ourebi</i> オリビ	食用による皮膚病 (viphere) の治療
M-4)	kasenye	<i>Raphicerus sharpei</i> シャープグリスボック	この動物を食べて喘息 (chifuwa cha befu) になった犬の治療
Bovidae ウシ科 Bovinae ウシ亜科			
M-5)	njati	<i>Synceros caffer</i> アフリカスイギュウ	強壮剤 (mangolomera) *狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim-ba uuma) の治療
M-6)	nchefu	<i>Taurotragus oryx</i> エランド	*狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim-ba uuma) の治療
M-7)	mbawala	<i>Tragelaphus scriptus</i> ブッシュバック	食用による皮膚病 (viphere) の治療 *狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim-ba uuma) の治療
M-8)	ngoma	<i>Tragelaphus strepsiceros</i> クードゥ	食用による皮膚病 (viphere) の治療 *狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim-ba uuma) の治療
Bovidae ウシ科 Caprinae ヤギ亜科			
M-9)	mbudzi	<i>Capra hircus</i> ヤギ	鼻血 (m'kamphuno) の治療 強精剤 (vubwe)
M-10)	mbelele	<i>Ovis aries</i> ヒツジ	動機 (intima wo wawa) の治療
Bovidae ウシ科 Cephalophinae ダイカー亜科			
M-11)	insa	<i>Sylvicapra grimmia</i> サバンナダイカー	*邪術師の探知薬の容器
Bovidae ウシ科 Hippotraginae ブルーバック亜科			
M-12)	nkhondzi	<i>Alcelaphus lichtensteini</i> コンジハーテビースト	*配偶者の愛人に猫背をおこす邪術 (リカンコ) *同治療 首の痛み (khosi) の治療

と す る 薬 一 覧

処 方	説 明
(nyama と chiweto の大半を含む)	
体の一部を使用	この動物は地下の巣に畑でとった穀物を貯える
全身の粉を畑に埋設	同種療法
*木の枝にさして摂取	*ネズミを体の腫れた乳児にみたてる。同種療法の一つ
毛を除いた頭を食べさせる	怠った手続きの補完
角を容器とする	この動物は人の気配に敏感
皮の炭を患部に塗布	同種療法
毛を除いた頭を食べさせる	怠った手続きの補完
額の皮の炭を体につけた傷に塗布	スイギュウのように強靱になる
*口と肛門の炭を粥に入れて服用	*怠った儀礼の補完
*口と肛門の炭を粥に入れて服用	*怠った儀礼の補完
皮の炭を患部に塗布	同種療法
*口と肛門の炭を粥に入れて服用	*怠った儀礼の補完
皮の炭を患部に塗布	同種療法
*口と肛門の炭を粥に入れて服用	*怠った儀礼の補完
糞の粉を鼻で吸引	実効
ペニスと睾丸の粉を粥に入れ服用	この動物はいくら性交しても疲れしない
心臓の粉を粥に入れ服用	この動物はおとなしい。心臓がおとなしくなる
*角を容器とする	*この動物は人の気配に敏感
首の皮と心臓を配偶者の食物に投入	*この動物は猫背
首の皮と心臓の炭を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用	*同種療法
首の皮の紐を患者の首に巻く	紐が自然に解けると治癒

no.	方名	学名 和名	用途
			*狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim-ba uuma) の治療
	Canidae イヌ科		
M-13)	nkhandwe	<i>Canis adustus</i> ヨコスジジャッカル	*邪術師の使魔または変身
M-14)	galu	<i>Canis familiaris</i> イヌ	*性交後も妻と愛人の体が離れなくする 邪術 (リカンコ) ムドゥロによる難産 (uvutika pobala) の治療と予防 麻薬による狂気 (msala) の治療 他の夫婦を別れさせる「薬」 (kapatu) 犯人発見の「薬」
M-15)	mbindzi	<i>Lycan pictus</i> リカオン	犬の臭覚の強化 *邪術師の使魔または変身
	Cercopithecidae オナガザル科 Cercopithecinae オナガザル亜科		
M-16)	pusi	<i>Cercopithecus aethiops</i> サバンナモンキー および <i>Cercopithecus mitis</i> ブルーモンキー	*畑荒らし (fumba) のための邪術師の 使魔ないし変身
M-17)	mkhwere	<i>Papio cynocephalus</i> サバンナヒヒ	この動物を殺した犬の発狂 (msala) の 予防 強精剤 (vumbwe)
			*男性の性的不能 (chimbuwila) の治療
			*畑荒らし (fumba) のための邪術師の 使魔ないし変身
	Elephantidae ゾウ科		
M-18)	njovu	<i>Loxodonta africana</i> アフリカゾウ	願望成就の「薬」 (chikondi) 強壮剤 (mangolomera) 食用による皮膚病 (viphere) の治療 狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim-ba uuma) の治療 畑荒らし (fumba) のための邪術師(とくに首長)の使魔ないし変身
	Equidae ウマ科		
M-19)	bidzi	<i>Equus burchelli</i> サバンナシマウマ	食用による皮膚病 (viphere) の治療
	Felidae ネコ科		
M-20)	njuzi	<i>Felis serval</i> サーバル	*邪術師の使魔または変身

処 方	説 明
*口と肛門の炭を粥に入れ服用	*怠った儀礼の補完
脳と尾を使用	*人や家畜を襲う
*ペニスの粉を塗布したジャックナイフを閉じる ペニスの先の毛を妻の食物に投入	*犬は雌雄が合体したまま離れなくなることが多い 犬は手当たり次第に交尾しても病気にならない
糞の粉を粥に入れて服用 糞の粉を撒きかける 鼻と巢の草の粉を袋に入れて携帯	実効 互いの悪臭で喧嘩が絶えなくなる この動物は鋭い臭覚をもつ
鼻と巢の粉を与える 脳と尾を使用	この動物の鋭い臭覚を身につけさせる *人や家畜を襲う
脳と尾を使用	*この動物は畑を荒らす
頭の肉を与える	未詳
ペニスと睾丸の粉を粥に入れて服用	この動物は何度性交しても疲れしない
ヒトリザルの巢の土の粉を粥に入れて服用	*巢の土にはヒトリザルの強力な精液がしみ込んでいる
脳と尾を使用	*この動物は畑を荒らす
脇の下、足の皮の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れ携帯 鼻の先、爪、牙の粉を体につけた傷に塗布	ゾウは動物の首長であり、目下の者が服従する ゾウのように力が強くなる
皮の炭を患部に塗布 鼻と肛門の炭を粥に入れて服用	同種療法 怠った儀礼の補完
脳と尾を使用	この動物は動物の首長であると同時に畑を荒らす
皮の炭を患部に塗布	同種療法
脳と尾を使用	*人や家畜を襲う

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
M-21)	vumbwe	<i>Felis silvestris lybica</i> リビアネコ	*邪術師の使魔または変身
M-22)	mkhang	<i>Panthera leo</i> ライオン	願望成就の「薬」(chikondi) 強壮剤 (mangolomera) ライオンから狩人の身を守る「薬」 *邪術師の使魔または変身 *邪術師の使魔または変身
M-23)	kambuku	<i>Panthera pardus</i> ヒョウ	
Hippopotamidae カバ科			
M-24)	mbuwu	<i>Hippopotamus amphibius</i> カバ	食用による皮膚病 (viphere) の治療 強壮剤 (mangolomera)
Hyaenidae ハイエナ科			
M-25)	fisi	<i>Crocuta crocuta</i> ブチハイエナ	泥棒・邪術師が狙った相手を眠らせる 「薬」(chikotha) 夢で将来の出来事を予見する「薬」 口きき瓢箪 *邪術師の使魔または変身
Hystricidae ヤマアラシ科			
M-26)	nungu	<i>Hystrix</i> spp. ヤマアラシ類	耳鳴り (matenda ya matu) の治療 鼻血 (m'kamphuno) の治療 食用による皮膚病 (viphere) の治療
Leporidae ウサギ科			
M-27)	kalulu	<i>Lepus crawshayi</i> キタサバンナノウサギ	賢くなるための「薬」
Loricidae ロリス科 Galaginae ガラゴ亜科			
M-28)	silu	<i>Galago crassicaudatus</i> オオガラゴ	火傷 (uzithenta) の治療
M-29)	changa	<i>Galago senegalensis</i> ショウガラゴ	火傷 (uzithenta) の治療
Macroscelididae ハネジネズミ科			
M-30)	susunjira	<i>Elephantulus rufescens</i> アカハネジネズミ	*配偶者の愛人を転倒死させる邪術 (リカンコ) *同治療 猟銃の命中率を高める「薬」 墓を邪術師から守る「薬」 幼児を早く歩かせる「薬」
M-31)	thondo	<i>Petrodromus tetradactylus</i> ヨツユビハネジネズミ	

処 方	説 明
脳と尾を使用	*人や家畜を襲う
脇の下の皮の粉を体につけた傷に塗布，袋にいれて携帯	ライオンを恐れるように人々も自分を恐れ服従する
爪，歯，脳の粉を体につけた傷に塗布	ライオンのように凶暴になる
脇の下の皮の粉と，墓穴を掘る際にでた木の根の粉を体に塗布	死者のようにライオンの目を閉じさせる
脳と尾を使用	*人や家畜を襲う
脳と尾を使用	*人や家畜を襲う
皮の炭を患部に塗布	同種療法
皮の炭を体につけた傷に塗布	カバのように皮膚を厚く頑強にする
脳と尾の粉を使用	ハイエナが尾を後足の間に巻き込むと人々が寝てしまう
脳の粉を体につけた傷に塗布，袋に入れて携帯	ハイエナは夢で死肉の在処を知る
鼻を瓢箪に入れる	依頼人を眠らせ腹話術の露見を防止
脳と尾を使用	*人や家畜を襲う
脇の下の皮の粉を点眼	耳から殺傷直後のヤマアラシがたてるような音がする。同種療法
針を焼いて出た煙を吸引	実効
皮の炭を患部に塗布	同種療法
脳の粉を体につけた傷に塗布，粥に入れて服用	ウサギは賢い動物
皮で患部を拭う	実効
皮で患部を拭う	実効
全身の乾燥粉を配偶者の食物に投入	*このネズミは道を渡ると転んで死ぬ
*全身の乾燥粉を体につけた傷に塗布	*同種療法
全身の炭を猟銃に塗布，狩人の体につけた傷にも塗布	逃げた獲物も転倒する
全身の乾燥粉の溶液で死体を洗浄	邪術師も墓で転んで死ぬ
足の皮を幼児の足に巻く	このネズミの子は生まれてすぐに歩く

no.	方名	学名 和名	用途
M-32)	sakwi	<i>Rhynchocyon cirnei</i> テングハネジネズミ	幼児を早く歩かせる「薬」
Muridae センザンコウ科			
M-33)	nkhaka	<i>Manis temmincki</i> サバンナセンザンコウ	*畑荒らしの邪術 (fumba) の防止
			惚れ薬 (chikondi)
			強壮剤 (mangolomera)
Muridae ネズミ科 Cricetomyinae アフリカオニネズミ亜科			
M-34)	khunda	<i>Cricetomys emini</i> アフリカオニネズミ	邪術師を眠らせる「薬」
Muridae ネズミ科 Dendromurinae キノボリマウス亜科			
M-35)	nsonto または psonto	<i>Dendromus nyikae</i> ナイカキノボリマウス	惚れ薬 (chikondi)
Muridae ネズミ科 Murinae ネズミ亜科			
M-36)	nkhoswe	<i>Rattus</i> spp. クマネズミ類	*体中の痛みや吐き気をおこす邪術 (ム チェゾ) *同治療
Mustelidae イタチ科 Lutrinae カワウソ亜科			
M-38)	katumbu	<i>Lutra maculicollis</i> ノドブチカワウソ および <i>Aonyx capensis</i> ツメナシカワウソ	首の痛み (khosi) の治療
Mustelidae イタチ科 Mellivorinae ラーテル亜科			
M-39)	chiuli	<i>Mellivora capensis</i> ラーテル (ミツアナグマ)	*強壮剤 (mangolomera)
Orycteropodidae ツチブタ科			
M-40)	dzimba	<i>Orycteropus afer</i> ツチブタ	*鉱山労働者の強壮剤 (mangolomera) 畑を豊作にする「薬」 食用による皮膚病 (viphere) の治療
Procaviidae ハイラックス科			
M-41)	mbila	Procaviidae ハイラックス類	母が摂取したため新生児の体が灰色に なる病 (m'yabwe wa mbila) の治療
Rhinocerotidae サイ科			
M-42)	mpembere	<i>Diceros bicornis</i> クロサイ	食用による皮膚病 (viphere) の治療 *狩猟儀礼の失敗による腹部膨満 (mim- ba uuma) の治療

処 方	説 明
足の炭を幼児の足につけた傷に塗布	このネズミはすばしこく動く
*鱗の粉を畑に埋設	この動物は攻撃を受けると体を丸めて身動きしなくなる。穀物が盗まれなくなる。 またこの動物の鱗同様すきまなく穀物が実るようになる
鱗の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて携帯	相手がこの動物のようにいつもうつむいて従順になる
鱗の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて携帯	この動物のように敵の攻撃に動じなくなる
心臓と目の炭を袋に入れ携帯	このネズミはいつも寝ている
心臓と巣の粉を相手の体に散布	このネズミは人が来ると待ちかねたように巣から出てくる
このネズミを使用（詳細不明）	*このネズミをまねたムシが送り込まれ体の内側を爪でひっかく
爪の炭を体につけた傷に塗布、服用	*同種療法
首の皮を患者の首に巻く	カワウソの首はよく動く
皮または脳と骨の粉を体につけた傷に塗布	この動物は蜂蜜を食べるときハチに刺されても平気。またこの動物はいくら叩いてもすぐ息をふきかえす
鼻ないし歯と爪の粉を体につけた傷に塗布	*ツチブタはアリ塚の硬い土でも平気で穴を掘る
歯と爪の粉を畑に埋設	ツチブタはうまく土を耕す
皮の炭を患部に塗布	同種療法
毛を新生児の体に塗りつけ翌日体を洗う	同種療法
皮の炭を患部に塗布	同種療法
*鼻と肛門の炭を粥に入れて服用	*怠った儀礼の補完

no.	方名	学名 和名	用途
Suidae イノシシ科			
M-43)	kaphulika	<i>Phacochoerus aethiopicus</i> イボイノシシ	*失神 (kunyu) を引き起こす邪術 (ムチ ェゾ) *同治療 獵犬の強化 食用による皮膚病 (viphere) の治療 *畑荒らし (fumba) のための邪術師の 使魔ないし変身
M-44)	nguluwe	<i>Potamochoerus porcus koiropo- tamus</i> カワイノシシ	食用による皮膚病 (viphere) の治療 *畑荒らし (fumba) のための邪術師の 使魔ないし変身
M-45)	nguluwe njazi	<i>Potamochoerus porcus porcus</i> 赤毛のカワイノシシ	食用による皮膚病 (viphere) の治療 *畑荒らし (fumba) のための邪術師の 使魔ないし変身 嘘の宣誓をしたため口のまわりにでき るただれ (njazi) の治療
Viverridae ジャコウネコ科 Herpestinae マングース亜科			
M-46)	mzenga	<i>Bdeogale crassicauda</i> か? フサオマングース	サスライアリを用いた邪術 (ムチェゾ) による激しいかゆみの治療
M-47)	psypusyutungu	<i>Helogale parvula</i> か? ミナミコビトマングース	日射病による頭痛 (muthu) の治療
Viverridae ジャコウネコ科 Viverrinae ジャコウネコ亜科			
M-48)	chombwe	<i>Civettictis civetta</i> アフリカジャコウネコ	ウサギ, ホロホロ鳥の罠用の「薬」
M-49)	mwili	<i>Genetta</i> spp. ジェネット類	*蕁麻疹 (abilisi) の治療 *乳幼児の腹痛 (mimba uwawa) の治療 および予防
Chiroptera 翼手目			
M-50)	nyankhupiti	Chiroptera コウモリ類	成女儀礼で女性の性器を拡張する「薬」
.....			
M-51)	不特定の獣 (nyama)	の肝臓 (mphafa)	盲目 (khungu) の治療
Unidentified 未同定			
M-52)	nsoni	野ネズミの1種	*惚れ薬 (chikondi)
M-53)	pinji	小型の野ネズミの1種	乳幼児の頭蓋骨の泉門 (liwombo) の縫 合不全の治療
M-54)	psyontho	野ネズミの1種	惚れ薬 (chikondi)

処 方	説 明
体の一部を使用	*よく転倒するこの動物をまねたムシが送り込まれる
牙の粉を服用,または牙の容器で他の「薬」を服用	*同種療法
イボイノシシの食べかすを犬に食べさせる	犬がイボイノシシをよく捕らえるようになる
皮の炭を患部に塗布	同種療法
脳と尾を使用	*この動物は畑を荒らす
皮の炭を患部に塗布	同種療法
脳と尾を使用	*この動物は畑を荒らす
皮の炭を患部に塗布	同種療法
脳と尾を使用	*この動物は畑を荒らす
皮の粉を服用	噂の宣誓によるただれがこの動物の食用によるただれと似ている
爪の粉を体につけた傷に塗布, 粥に入れて服用	かゆみは邪術師がアリをまねたムシを送り込んだためにおこる。マングースはそのアリをとって食べる
脳の粉を鼻から吸引	この動物はいくら日なたにいても平気
肛門の乾燥粉を翼に塗る	匂いに釣られて獲物がかかる
皮で患部を叩く, または皮を浸した水を服用	*蕁麻疹の症状がこの動物の体の文様に似ている。同種療法の一つ
腸を浸した水または腸を入れて炊いた粥を与える	*この動物の腸のように乳児の腸も柔らかく健康になる
全身の炭をひまし油で溶いて性器に塗布	コウモリの翼の膜は丈夫
浸した水で目を洗う	肝臓の血液を目に与える
毛を袋に入れて携帯	相手がこのネズミのように頭を垂れて従順になる。nsoni とは従順な者の意
脳の溶液を患部に塗る	この野ネズミは小さな穴しか地面にあけない
全身と巣の草の炭を体につけた傷に塗布, 袋に入れて携帯	このネズミは人が来ると待ちかねたように巣から出てくる

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
[AV] AVES			
Accipitridae タカ科			
AV-1)	kamtande	<i>Accipiter melanoleucus</i> オオハイタカ	呪薬入りの食物の発見
AV-2)	nkhwadzi	<i>Haliaeetus vocifer</i> サンショクウミワシ	幸運 (mwai) をよぶ「薬」
AV-3)	mphungu	<i>Terathopius ecaudatus</i> ダルマワシ	財布をひきしめる「薬」
Apodidae アマツバメ科			
AV-4)	kamembe	Apodidae アマツバメの類	ニャウ (nyau) の踊り手の「薬」
Bucerotidae サイチョウ科			
AV-5)	nyalikoma	<i>Tockus nasutus</i> ハイレコサイチョウ	夫の浮気防止の「薬」 (chikondi)
Capitonidae ゴシキドリ科			
AV-25)	gonkomola	<i>Lybius leucomelas</i> シロマユゴシキドリ	猟犬の強壮剤 (mangolomera)
Caprimulgidae ヨタカ科			
AV-6)	lumbe	<i>Caprimulgus</i> spp. および <i>Macrodipteryx</i> spp. ヨタカの類	狩人が獲物に気づかれないようにする 「薬」
Columbidae ハト科			
AV-7)	nkhunda	<i>Columba</i> sp. ハト	*惚れ薬 (chikondi)
Estrildidae カエデチョウ科			
AV-8)	sisi	<i>Uraeginthus angolensis</i> フナシセイキチョウ	辜丸が腫れる病気 (phuzi) の治療
Laniidae モズ科			
AV-9)	chitule	<i>Dryoscopus</i> spp. フクレヤブモズの類	将来の出来事を予見する「薬」
AV-10)	uyeni	<i>Prionops plumata</i> エボシメガネモズ	ハトをハト小屋に居つかせる「薬」
Meropidae ハチクイ科			
AV-11)	nsadzu	Meropidae の 1 種 ハチクイ	割れるような頭痛 (mutu wa chingana) の治療 犯人発見の「薬」
Motacillidae セキレイ科			
AV-12)	twetwe	<i>Motacilla aguimp</i> ハジロハクセキレイ	強精剤 (vubwe)
Otidae ノガン科			
AV-13)	chidokowe	<i>Choriotis kori</i> アフリカオオノガン	母が摂取した結果、頭がこの鳥の頭のように変形した新生児の治療

処 方	説 明
鳥 綱 (mbalani)	
この鳥がとり損ねたヒヨコの炭を自分の体につけた傷に塗布	食べようとした瞬間、呪薬入りの食べ物から落ちる
心臓と頭の粉を体につけた傷に塗布、袋にいれて携帯	この鳥は食べ物（とくに魚）のありかを教えてくれる
羽の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて携帯	この鳥はけっして羽を落とさない
全身の乾燥粉を粥に入れて服用	この鳥のごとく素早く施回を繰り返せるようになる
嘴と糞の粉を夫の食物に混合	この鳥の雄は雌が卵を抱いている間巣から出ない
頭の粉を粥に入れて与える	この鳥は木をつついて大きな穴をあける
頭の炭を袋に入れて携帯	ヨタカは人がすぐ近くへ来るまで気づかない
心臓の粉または炭を体につけた傷に塗布、袋に入れ携帯	*ハトは雌雄のつがいがいいつも一緒に動く
巣を焼き、煙を患部にあてる	この鳥は巣をいくつも持っている。腫れを分散させる
全身の粉を体につけた傷に塗布	この鳥が来ると続いて客がくる
心臓と巣を浸した水をハトに与える	この鳥はいつも同じ場所で産卵する
脳と心臓の粉を体につけた傷に塗布	ハチクイは頭が硬く、ハチに刺されるのも気にせずハチを食べる
巣の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて携帯	ハイスクイは蜂蜜の在処を教えてくれる
下半身の粉を体につけた傷に塗布	この鳥は腹を前後させて歩く。腰の前後動を続けても疲れない
熱した石を頭の炭の水溶液に浸して患部に押し当てる	この鳥は頭は扁平。同種療法

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
Phasianidae キジ科			
AV-14)	nkhwali	<i>Fracolinus swainsonii</i> クロアシカノドシャコ	仮面制作場所の秘密を守るため、人の 目をくらます「薬」(chidima)
AV-15)	nkhuku	<i>Gallus gallus</i> var. <i>domesticus</i> ニワトリ	喉の痛み、首の腫れ (chikokoko) をお こす邪術 (ムチェゾ)
同治療			
邪術 (ムチェゾ) による激しいかゆみ (matenda yo lumaluma) の治療			
AV-16)	tambala	<i>Gallus gallus</i> var. <i>domesticus</i> 雄鶏	結膜炎 (maso) の治療
強精剤 (vubwe)			
新生児のムドゥロの防止			
AV-17)	khanga	<i>Numida meleagris</i> ホロホロチョウ	狩人が獲物に気づかれないようにする 「薬」
Ploceidae ハタオリドリ科			
AV-18)	mpheta	Ploceidae ハタオリドリの類	稲をハタオリドリから守るための「薬」
Pycnonotidae ヒヨドリ科			
AV-19)	nyapwele	<i>Pycnonotus nigricans</i> アカメアフリカヒヨドリ	言葉の遅い幼児の治療
Sagittariidae ヘビクイワシ科			
AV-20)	gola	<i>Polemaetus bellicosus</i> ゴマバラワシ	*将来の出来事を夢で知るための「薬」
Scopidae シュモクドリ科			
AV-21)	katawa	<i>Scopus umbretta</i> シュモクドリ	*他の夫婦を別れさせる「薬」(kaphantu)
Strigidae フクロウ科			
AV-22)	kazizi	<i>Bubo africanus</i> アフリカワシミミズク	*邪術師の使魔 (偵察用)
AV-23)	manchichi	<i>Bubo lacteus</i> クロワシミミズク	*邪術師の使魔 (偵察用)
AV-24)	khutukhutu	<i>Otus leucotis</i> アフリカオオコノハズク	*邪術師の使魔 (偵察用)
Tytonidae メンフクロウ科			
AV-26)	shololo	<i>Tyto alba</i> メンフクロウ	*邪術師の使魔 (偵察用)
Unidentified Species 未同定			
AV-27)	chikayekaye	チカエカエ	人気を得る「薬」(chikondi)

処 方	説 明
頭と卵の炭を仮面の制作場所に埋設	この鳥の卵はめったに人目につかない
喉を使用	ニワトリの首はそのまま胴に繋がり腫れたようにみえる。そのニワトリをまねたムシが送り込まれた
喉の炭を体につけた傷に塗布	同種療法
足の中の脂肪を体につけた傷に塗布	かゆみは邪術師がアリをまねた虫を送り込んだためにおこる。ニワトリはそのアリを足で掘り出して食べる
糞の粉を目の周りにつけた傷に塗布	雄鶏のように朝目がぱっちり開くように
ペニスと睾丸の粉を粥に入れて服用	鶏は何度性交しても疲れな
雄鶏の足に結ぎつけた木釘をその雄鶏の性交後、新生児の腰に結び付ける	雄鶏はいくら性交してもムドゥロにならない
頭の炭を袋に入れて携帯	この鳥は人間がすぐそばにいくまで逃げない
全身の粉を稲田に埋設	ハタオリドリが友の屍臭を避けてやっけない
糞の溶液に浸したヒエの穂先で舌をつつく	ヒヨドリ同様よくさえずるように
*脳の粉を体につけた傷に塗布	*この鳥は夢で死肉の在処を知る
羽と巢の粉を撒きかける	この鳥はフクロウやガンに巢を乗っ取られ、2度と戻ってこない。katawa とは逃げるものの意。
体の一部を使用	*この鳥は「殺せ、殺せ、私は肉が欲しい」と鳴く
体の一部を使用	
体の一部を使用	*この鳥は「クトゥ、クトゥ、静かだ（襲っても大丈夫）」と鳴く
体の一部を使用	*この鳥の「ショロロ」という鳴き声は邪術師の笛の音
頭と心臓の粉を体につけた傷に塗布	この鳥はいつも群れをなす。人々が群れをなしてついてくるように

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
AV-28)	kulukulu クルクル		サッカー選手の強壮剤(mangolomera)
[R] REPTILIA			
LACERTILIA トカゲ亜目 (buludzi)			
Agamidae アガマ科			
R-1)	dantamu	<i>Agama hispida</i> アガマの1種	腹部の肥大(yo thupa mimba)をおこす邪術(ムチェゾ)
Chamaeleontidae カメレオン科			
R-2)	bilimankwe	<i>Chamaeleo</i> spp. カメレオン類	歩行困難, 顔色の変化(matenda ya bilimankwe)をおこす邪術(ムチェゾ) 同治療 目いぼ(nchetera)の治療
Varanidae オオトカゲ科			
R-3)	gondwa	<i>Varanus niloticus</i> ナイルオオトカゲ	耳炎(m'matu)の治療
OPHIDIA ヘビ亜目 (njoka)			
Elapidae コブラ科			
R-4)	mbobo	<i>Dendroaspis polylepis</i> ブラックマンバ	*邪術師の使魔または変身 *配偶者の愛人を即死させる邪術(リカンコ) 同予防 蛇にかまれたときのように手足が痛み、 体が青くなる病気をおこす邪術(ムチェゾ) 同治療
R-5)	mamba	<i>Naja mossambica</i> モザンビークコブラ	*邪術師の使魔または変身 家を邪術師から守る「薬」
Pythonidae ニシキヘビ科			
R-6)	nsato	<i>Python sebae</i> アフリカニシキヘビ	背中痛み(msana)の治療
Colubridae ナミヘビ科			
R-7)	nyaligwigwiti	<i>Thelotornis capensis</i> ツルヘビの仲間, 樹上生	配偶者の愛人を柱や梁に登らないと気分が落ち着かない病にする邪術(リカンコ) 同治療
.....			
R-8)	不特定のヘビの皮 (chikunda cha njoka)		他の夫婦を別れさせる「薬」(kaphantu)

処 方	説 明
足の炭を体につけた傷に塗布，袋に入れて 携帯	この鳥は木の枝から枝へ素早く渡る
爬 虫 綱	
体の一部を使用	肥大した腹をもつアガマをまねた虫が送り 込まれる
体の一部を使用	よたよたと歩き，常に体色が変わるカメレ オンをまねた虫が送り込まれる
カメレオンの体についた土を患者の体につ けた傷に塗布，同じ土の溶液で体を洗う カメレオンを刺して血のついた針で目いぼ を刺す	カメレオンの体に着いた土を除くことで病 を除く 実効
皮下脂肪を熱して溶かしたものを耳に滴下	ウミの出る傷が塞がる
体の一部を使用 頭を配偶者の食物に投入	*人を襲う（噛んで殺す） *このヘビに噛まれると即死する
骨の炭を体につけた傷に塗布し，寝ござの 下に敷いた木の葉が乾かなくなるまで交 際を控える 頭を使用	葉が乾くのは，邪術がかけられている証拠 このヘビにかまれると手足が痛み体が青く なって死ぬ
頭の粉を体につけた傷に塗布 体の一部を使用 頭とともに埋めておいた木で作った釘を家 の入口に置く	同種療法 *人を襲う（噛んで殺す） 襲ってきた邪術師がコブラの姿を見て逃げ ていく
背骨の炭を体につけた傷に塗布	ニシキヘビは巻きついて人を殺せるほど背 骨が柔軟でしかも強靱
体の一部を配偶者の食物に投入	このヘビはいつも木にまきついている
頭の粉を粥に入れて服用	同種療法
皮の粉を撒きかける	ヘビは一度脱いだ皮を二度と身につけない

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
CHELONIA カメ目 (fulu)			
Pelomedusidae ヨコクビガメ科			
R-10)	fulu	Pelomedusidae ヨコクビガメ類	*女性の陰部の腫れ物 (chisholli および chinkombola) の治療 脱肛 (utukula mtumbo) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療 畑荒らしの邪術 (fumba) の防止
Testudinidae リクガメ科			
R-11)	fulu nunda	Testudinidae リクガメ類	*女性の陰部の腫れ物 (chisholi および chinkombola) の治療 脱肛 (utukula mtumbo) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療 畑荒らしの邪術 (fumba) の防止
CROCODYLIA ワニ目 (ng'ona)			
Crocodylidae クロコダイル科			
R-12)	ng'ona	<i>Crocodylus niloticus</i> ナイルワニ	毒 (ululu) *邪術師の使魔または変身 [AM] AMPHIBIA
Bufonidae ヒキガエル科			
AM-1)	fyine または thise	Bufonidae ヒキガエル類	*配偶者の愛人に体全体の腫れを引き起 こす邪術 (リカンコ) *同治療
Hyperoliidae クサガエル科			
AM-2)	kalamatila	Hyperoliidae クサガエル類	*便秘 (kawinde) および 難産 (uvutika pobala) をおこす邪術 (ムチェゾ) *邪術による便秘 (kawinde) の治療
[O] OSTEICHTHYES			
Clariidae ヒレナマズ科			
O-1)	mlamba	Clariidae ナマズ類	割れるような頭痛 (mutu wa chinga- nula) の治療 配偶者の愛人に脱水症状をおこす邪術 (リカンコ) 同治療
O-2)	不特定の魚 (nsomba) の浮き袋 (befu)		全身の腫れ (matenda yo tupa) を引き 起こす邪術 (ムチェゾ)

処 方	説 明
頭の粉または炭を患部に塗布	*カメが甲羅に頭を引っ込めるように腫れ物も引く
体の一部を使用	カメが甲羅から頭を出すように肛門が出る
頭の粉を患部に塗布	カメが甲羅に頭を引っ込めるように脱肛が治る
甲羅の粉を畑に埋設	亀甲のように隙間なく穀物が実る
頭の粉または炭を患部に塗布	*カメが甲羅に頭を引っ込めるように腫れ物も引く
体の一部を使用	カメが甲羅から頭を出すように肛門が出る
頭の粉を患部に塗布	カメが甲羅に頭を引っ込めるように脱肛が治る
甲羅の粉を畑に埋設	亀甲のように隙間なく穀物が実る
肝臓を食物に投入	肝臓に毒がある
体の一部を使用	*人を襲う
両 棲 網 (chule)	
全身を配偶者の食物に投入	*ヒキガエルのように体が腫れる
全身の粉ないし炭を体につけた傷に塗布、 粥に入れ服用	*同種療法
このカエル本体またはカエルの尿のかかった土を利用	*木に張りついてじっとしている習性をもつこのカエルをまねた虫が陽ないし産道に張りつき通過障害を起こす。カラマティラとは張りつくものの意
このカエルの炭かカエルの尿のかかった土を粥に入れ服用	*同種療法
硬骨魚網 (nsomba)	
頭の炭を患者の頭の正中線につけた傷に塗布	ナマズの頭はぬるぬるして邪術師が送ったムシが滑り落ちる
尾を配偶者の食物に投入	水から出たナマズのように苦しむ
尾の粉を体につけた傷に塗布	同種療法
浮き袋を使用	浮き袋のように体が膨らむ

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			同治療 喘息 (chifuwa cha befu) を引き起こす 邪術 (ムチェゾ) *喘息 (chifuwa cha befu) の治療
O-3)	不特定の魚 (nsomba) の皮 (khanda)		配偶者の愛人に脱水症状をおこす邪術 (リカンコ) 同治療
[AN] ANNELIDA, ARTHROPODA			
	Apidae ミツバチ科		
AN-1)	njuchi	<i>Apis mellifera</i>	失神 (kunya) を引き起こす邪術 (ムチ ェゾ) 同治療
	Cicadidae セミ科		
AN-2)	nyenje	Cicadidae セミ類	死体を食べにくる邪術師から墓を守る 「薬」
	Culicidae カ科		
AN-3)	udzudzu	Culicidae カの類	マラリアにともなう子供の吐き気 (usanza) の治療
	Formicidae アリ科		
AN-4)	linthumbi	<i>Anomma nigricans</i> サスライアリ	*体中に激しい痒みを引き起こす邪術 (ムチェゾ)
			*同治療
AN-5)	mdzodzo	Dolichoderinae か (?) クサアリの 1 種	悪臭を引き起こす邪術 (chifwenthe) 邪術による病の万能薬の成分
	Glossiniidae ツェツェバエ科		
AN-7)	chinkhamba	<i>Glossina</i> spp. ツェツェバエ	牛の病気の予防
	Gyrinidae ミズスマシ科		
AN-8)	biliwidza	Gyrinidae ミズスマシ類	足を速くする「薬」 (mangolomera)
	Julidae		
AN-9)	bongololo	<i>Julus</i> spp. ヒメヤスデの一種	裁判に勝つ「薬」
	Mantidae カマキリ科		
AN-10)	mlanda mphuno	Mantidae カマキリ類	中風 (manjenje) をおこす邪術 (ムチ ェゾ) 同治療

処 方	説 明
浮き袋の粉の水溶液を服用 浮き袋を使用	同種療法 未詳
*浮き袋の粉の水溶液を服用 皮を配偶者の食物に投入 皮の粉を粥に入れ服用	同種療法。また魚は空気の出入りする浮き袋をもつのに喘息にならない 水から出た魚のように苦しむ 同種療法
環形動物門，節足動物門 (kalombo)	
全身を使用	ミツバチをまねたムシが送り込まれ、ハチに刺されたような衝撃を感じて倒れる
全身の乾燥粉を体につけた傷に塗布，粥に入れて服用	同種療法
脱け殻の粉を死体に塗布して埋葬	邪術師の目に死体がみえなくなる
蚊の粉を頭部につけた傷および全身に塗布	同種療法。マラリアが蚊によって引き起こされるというのは西洋医学の知識による
全身を使用	*列を成して移動するこのアリをまねたムシが送り込まれ内部からそのアリに噛まれて痒みがおこる
全身の炭を体につけた傷に塗布 アリの粉を相手の体に散布	*同種療法 このアリを潰すと悪臭がする。配偶者に愛人を寄せつけないようにする「薬」
全身の炭を体につけた傷に塗布	邪術師が送り込む病のムシに見立てる
全身の炭の水溶液を牛に投与	すでに牛の血の中にツェツェバエの成分があるとこのハエに噛まれても大丈夫
未詳	ミズスマシは水の上を素早く動く
頭の粉の水溶液で体を洗う	この虫はつつくと体を丸める。訴訟相手が黙ってうつむいてしまうように
体の一部を使用	カマキリは始終首や手足を動かしている。このカマキリをまねたムシが送り込まれる
全身の炭を体につけた傷に塗布	同種療法

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
Pediculidae ヒトジラミ科			
AN-11)	nsabwe	<i>Pediculus</i> spp. ヒトジラミ	目の痛みをともなう頭痛 (mutu wa kakope) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療
Psychidae ミノガ科			
AN-12)	mteba nkhuni	Psychidae の幼虫 ミノムシ	女性の陰部の腫れ物 (chisholi) の治療 脱肛を引き起こす邪術 (ムチェゾ) 同治療
Sphecidae ジガバチ科			
AN-13)	chibovu	<i>Ammophila ludovicus gigantea</i> ジガバチの1種	乳首の腫れ (kawelewele) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療 妊娠初期の妻と性交し夫の体がだるくなる病気 (usowa mphamvu) の治療 邪術による病の万能薬の成分
Termitidae シロアリ科			
AN-14)	chiswe	<i>Macrotermes vitrialatus</i> シロアリの兵隊アリと働きアリ (羽がない)	夫が妻のもと以外では性欲を感じないようにする邪術 (カウタ) の治療
Vespidae スズメバチ科			
AN-15)	mavu	Vespidae スズメバチの1種	偏頭痛 (mutu upanya) の治療 *強壮剤 (mangolomera)
Araneae クモ目			
AN-16)	kangaude	Araneae クモ類	他の夫婦を別れさせる「薬」 (kaphantu) 手首にできる血腫 (litsipa) の治療 喘息 (chifuwa cha kangaude) をおこす邪術 (ムチェゾ) 中風 (manjenje) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療 財布をひきしめる「薬」

処 方	説 明
全身を使用	未詳
全身の乾燥粉を眉の上につけた傷に塗布	同種療法
全体の炭の水溶液を患部に塗布	ミノムシが殻の中に頭を引っ込めるように 腫れ物も引く
全体を使用	ミノムシをまねたムシが送り込まれ、ミノ ムシが殻から頭を出し入れするように肛 門が出る
全体の炭を患部に塗布	ミノムシが殻から頭を出し入れするように 肛門が入る
全体を使用	乳首の腫れがミノムシの格好に似ている。 ミノムシをまねたムシが送り込まれる。
全体の粉を患部につけた傷に塗布	同種療法
全体の炭を体につけた傷に塗布	ミノムシは木を集めて堅い殻を作る。夫の 体を堅固にする
全体の炭を体につけた傷に塗布	患者の体を堅固にする
頭の炭を粥に入れて投与	この虫はブーンと大きな音をたてて飛んで くる。幼児も早く声を出すように
シガバチの巣の粉を患部に塗布	シガバチは巣を作ってもすぐ別の巣に移 る。病がよそへ移るように
頭を袋に入れ携帯	カウタとは小さな弓の意。シロアリは家 においてあるその弓の弦を切ってしまう。 病を切るように
炭を頭につけた傷に塗布	頭痛がしていてもこのハチに噛まれると痛 みを忘れる。
このハチとその巣の粉ないし炭を体につけ た傷に塗布	*このハチは人を刺してあとに腫れ物を作る。 相手を刺して苦しめられるように
放棄された巣の粉を相手の家に散布	相手の家も放棄される
クモの巣を手首にまきつけ、クモの炭を患 部につけた傷にすりこむ	未詳
全身を使用	クモをまねたムシが送り込まれ、喉に巣を 張って呼吸障害をおこす
未詳	クモの巣のように体が始終揺れる
クモの巣の炭を体につけた傷に塗布	同種療法
全身の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れ て携帯	クモの巣にいろんなものがひっかかるよう に金がひっかかる

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める 「薬」(chikondi)
	Lepidoptera 鱗翅目		
AN-17)	gulugufe	Lepidoptera	耳の後ろにできる化膿性のできもの (mpande) の治療
	Unidentified Species 未同定		
AN-18)	bobobo		失神 (kunyū) をおこす 邪術 (ムチェ ゾ) 同治療 配偶者の愛人を転倒死させる邪術 (リ カンコ) 同治療 足の痛みを起こす邪術 (ムチェゾ)
AN-19)	buwi	Buthidae の 1 種か (?) サソリ	同治療 乳児の悪夢 (uzizimuka) による夜泣き の治療
AN-20)	bzimbzi	<i>Enyaliopsis</i> spp.	畑荒らしの邪術 (fumba) の防止
AN-21)	chinganila	Buthidae の 1 種か (?) サソリ	割れるような頭痛 (mutu wa chinga- nila) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療
AN-22)	chitsenda	<i>Callidea bohemani</i> か (?)	耳炎 (m'matu) の治療
AN-23)	katondondo		邪術師から墓を守る「薬」
AN-24)	lopo		新生児頭蓋骨の泉門 (liwombo) にお ける脈動 (上下動) の低調の治療 惚れ薬 (chikondi)
			魚がよく釣れるようにする「薬」
AN-25)	mbandulazi		耳の後ろにできる化膿性のできもの (mpande) の治療
AN-26)	mlondola		犬の追跡能力の強化 犯人発見の「薬」
AN-27)	njala		目の奥の痛みをとまなう頭痛 (mutu wa kakope) をおこす邪術 (ムチェ ゾ) 同治療

処 方	説 明
巣を粉にしたものを会場に散布，周囲の木にも塗布	クモの巣がものをひっかけるように人をひっかける
炭を水で溶いて患部に塗布	このできものは耳に止まったチョウヤガを潰したために起こる。同種療法
全身を使用	この虫はさわるとひっくりかえる。このムシをまねたムシが送り込まれる
全身の炭を粥に入れて服用	同種療法
全身の粉を配偶者の食物に投入	この虫はさわると失神する
全身の炭を服用	同種療法
全身を使用	この生物をまねたムシが送り込まれる。そのムシが口を開閉するとき足が痛む
全身の粉を体につけた傷に塗布	同種療法
全身と巣の土の粉の水溶液で乳児の体を洗う	母が妊娠中この生物の穴を踏み，この生物を驚かせた。その驚きが新生児に移って悪夢をみさせている。その夢を送り返す
全身の粉を畑に埋設	同種療法
全身を使用	この虫は腹が膨れている。穀倉が満杯になるように
全身の炭を頭につけた傷に塗布	未詳
この虫が木を食べて出た粉を袋に包み，水に浸してその滴を耳に滴下	同種療法
全身の粉を死体に塗って埋葬	木屑を戻して木の穴を塞ぐように耳の穴を塞ぐ
全身の粉を患部に塗布	未詳
全身の粉を体の傷に塗布	この虫は巣の穴から出たり入ったりする。泉門部分の皮膚も頻繁に上下するように自分をみた相手の心臓がこの虫の動き同様激しく脈打つように
この虫の粉を溶かした水で釣り針を煮る	この虫は巣の穴に木を刺し込むとすぐ釣れる
炭を水で溶いて患部に塗布	匂いで患部に虫が寄ってこない
全身の粉を粥に入れて犬に投与	ムロンドラとは追いかけるものの意。犬が獲物をよく追いかけるように
全身の粉を体の傷に塗布，黒布の袋に入れて携帯	犯人をよく追いかけられるように
全身を使用	固い木の内側に巣くうこの虫をまねたムシが送り込まれ内側から患者の頭を虫ばむ
全身の乾燥粉を眉の上の傷に塗布	同種療法

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
AN-28)	nkhanu	Phrynidae の 1 種か (?) サソリモドキ	この生物を食べて死に瀕した犬の治療
AN-29)	ntongole	<i>Trigona</i> sp. か (?) ハリナシバチの 1 種	耳炎 (m'matu) の治療
AN-30)	phandi- phandi	ホタルの仲間というが不明	白内障 (n'gala) をおこす邪術 (ムチェ ゾ)
AN-31)	tondondo		てんかん (chimkombozi) をおこす邪 術 (ムチェゾ) 同治療
AN-32)	tsokonombwe	バッタの 1 種というが不明	こめかみにできる血腫 (litsipa) の治療
AN-33)	zozwe		性病による局所の潰瘍 (nthenda ya songeya) の治療

処 方	説 明
全身の炭を犬に投与	同種療法
巣の穴を塞いでいる分泌物（蜜臘）を布に 包んで水に浸し、滴を耳に滴下 全身を使用	この虫は木の穴に巣を作り、その穴を蜜臘 で塞ぐ、同様に耳の傷も塞がる 未詳
全身を使用	未詳
何体かを樹皮紐でつないで首に掛ける この虫に血を吸わせる 全身の粉を水とともに服用	同種療法 実効

植 物 を 素 材 と

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
Alismataceae オモダカ科			
P-1)	kakunakuna カクナクナ	<i>Sagittaria</i> sp.	女性の大陰唇を引き下げる「薬」
Amaryllidaceae ヒガンバナ科			
P-2)	chinzonzonzo チンゾンゾンゾ	<i>Ammocharis tinneana</i>	風疹（三日ばしか：kanjinga）の治療
Anacardiaceae ウルシ科			
P-3)	chaumbu チャウンブ	<i>Lannea discolor</i>	下痢，血便（mimba mwa kamadzi）の治療 妊娠した女性の近親者にできるでき物（phumba または nyamkalimbi）の治療 足にできる化膿性のできもの（ntho-ntho）の治療
P-4)	mtukumphako ムトゥクンパコ	<i>Ozoroa reticulata</i>	下痢（mimba utulula）の治療 強精剤（vubwe）
P-5)	mtatu ムタトゥ	<i>Rhus longipes</i>	クサガエルを用いた邪術（ムチェゾ）による難産（uvutika pobala）の予防と治療 子授けの「薬」（chisawa） 離乳前に母が妊娠し，乳児の体が腫れる病気（unjise または mapumso）の治療 新生児のムドゥロの防止
Annonaceae バンレイシ科			
P-6)	mpozya ムボジャまたは mwanjane ムワンジャネ	<i>Annona senegalensis</i>	*首（khosi）が痛くて回らない病気の治療 ひょうそ（kasule）の治療 動機（mtima wo wawa）の治療 狂気（msala）の治療 肺炎（chifuwa uwawa）の治療 性病による全身の発疹（ntenda ya makoloni）の治療

する薬一覧

処 方	説 明
根の炭を油で溶いて局所に塗布	葉の形が大陰唇に似ている
根と葉の炭の水溶液を患部に塗布	この植物の皮は硬い。チンゾンゾンゾとは硬いものの意。皮膚を硬くする
繊維の紐に4つの結び目をつくり腰に巻く	腹を結んで下痢を止める
できものを突いた棘をこの木の幹にさす	この木の幹にはできもののようなこぶがある。この木に病気を移す
樹液を患部に塗布	この木は幹に傷をつけても1週間もすると傷が消える
樹皮を浸した水で粥を作り服用	その名と u-tukula 「引き上げる」との繋がりにより、下った腹を引き上げる
根の皮の粉を粥に入れ服用	その名と u-tukumuka 「大きくする」との繋がりにより、ペニスを大きくする
根の粉を飲用	三つ葉（ムタトゥ）になったこの木の葉同様、母と父の間から子が生まれるように
根を浸した水で粥を作り服用、根から作った木釘を腰に下げる	この木は一か所に多くの実をつける。多くの子が生まれるように
根を浸した水で粥を作り服用	この病気は嫉妬でおこる。三つ葉になったこの木の葉の同様、母、父、子の3者の絆が強まるように
葉を浸した水で子供の体を洗う	三つ葉になったこの木の葉のように、父、母、子の絆を強くし、父の姦通にも動じないようにする
*木の繊維をまずペニスに巻き、その上で首に巻く	*ムボジャとは冷やすものの意、痛みを冷やす。なお、一旦ペニスに巻くのは、ペニスが自由に動くから
指に kasokolowe の樹皮を巻き、その上からこの木の繊維で縛る	痛みを冷やす
根を浸した水で粥を作り服用	心臓 (mtima) を冷やす
根の炭を体につけた傷に塗布	心臓 (mtima) を冷やす
根の炭の水溶液を飲用	ムワンジャネという名と u-yanjanitsa 「回す」との繋がりにより、胸にたまった血の循環を促す
根の粉を患部に塗布、飲用	患部を冷やす

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-7)	mkanda nchembere ムカンダ・ンチェンベ レ	<i>Hexalobus monopetalus</i>	喉や腹の中の傷 (vilonda va mimba: 熱いものを飲むと痛み、吐くので わかる) の治療 内股や腰にできる腫れ物 (chotupa) の治療
Apiaceae セリ科			
P-8)	chimwemwe チムウェムウェ	<i>Diplolephium zambesianum</i>	惚れ薬 (chikondi) 村をまとめる「薬」
P-9)	chishopola チショポラまたは chifopola チフォポラ	<i>Steganotaenia araliacea</i>	妊娠中絶 (utaya mimba) の「薬」 仕留めた大型草食獣を排泄させる狩猟儀礼 用の「薬」
Apocynaceae キョウチクトウ科			
P-10)	mtombozi chipeta ムトンボズィ・チペタ	<i>Diplorhynchus condylocarpon</i>	下腹部のしこりと痛み (cham'mimba) の治療 喉や腹の中の傷 (vilonda va mimba: 熱いものを飲むと痛み、吐くので わかる) の治療 蛇に噛まれたときの治療薬
P-11)	mwimbi ムウィンビ	<i>Rawolfia caffra</i>	邪術師から墓を守る「薬」 将来の出来事を予見する「薬」
Araceae サトイモ科			
P-12)	tenyatenya テナヤテナ	<i>Pistia stratiotes</i> ボタンウキクサ	上腹部痛 (mimba unyonga) の治療 ブラックマンバを用いた邪術 (リカ ンコ) の予防
Arecaceae ヤシ科			
P-13)	mkalangwa ムカラングワ	<i>Borassus aethiopum</i>	邪術による狂気 (msala) の治療
P-14)	chiwale チワレ	<i>Hyphaene ventricosa</i>	邪術による狂気 (msala) の治療
Aristolochiaceae ウマノスズグサ科			
P-15)	kankalamba カンカランバ	<i>Aristolochia bainesii</i>	上腹部痛 (mimba unyonga) の治療 蛇に噛まれたときの治療薬 (chivumulo) 邪術による病の万能薬の成分

処 方	説 明
根の炭を飲用	酸味のある樹液が傷の治療に有効
根の炭を患部につけた傷に塗布	実効
根の炭につけた傷に塗布、袋に入れ携帯	チムウェムウェとは幸いなものの意。相手が幸福を感じるように
根の破片を村長の家に埋設	村人が幸福になる
根の粉を粥に入れ服用	チショポラとは引き出すものの意。赤子を引き出す
根の粉を獲物の口と肛門にはきかける	獲物の腸の内容物を引き出す
根の粉を粥に入れ服用	下剤として実効あり
根の粉を粥に入れ服用	下剤として実効あり
根の粉の水溶液を飲用するとすぐに吐く。 また同じ粉を体につけた傷に塗布 根から作った木釘 (chisonga) を墓に埋設 根の粉を体につけた傷に塗布	この木には蛇が近づかない。蛇の毒も逃げ出す 邪術師を追い払う力がある（詳細未詳） 未詳
根を浸した水で粥を作り服用 根の炭を体につけた傷に塗布し、寝ゴザの下に敷いた nsatsi の葉が乾かなくなるまで愛人との性交を控える	実効 この草は水に浮いていて乾かさないがゆえに、それを投与された者の体も乾かないはず。寝ている間にゴザの下の葉が乾くのは邪術の介入があった証拠
根の炭を体につけた傷に塗布 根の炭を体につけた傷に塗布	この木は樹冠が人間の頭に似ていて、しかも風でうちふるえる。患者にみたてる この木は水辺に生える。心臓を冷やす
根を浸した水を飲用 根の粉を粥に入れて服用、体の傷に塗布	苦い樹液に耐えかねて病気の虫(寄生虫等)が逃げ出す 蛇毒を消す実効がある
根の炭を体につけた傷に塗布	苦い樹液に耐えかねて邪術師が送り込んだムシが逃げ出す

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
Asteraceae キク科			
P-16)	palibe kanthu バリベ・カントウ	<i>Dicoma angustifolia</i>	ムドゥロによる難産 (uvutika poba- la) の治療 あらゆる皮膚病 (viphere) の治療 蛇に噛まれたときの治療薬 (chivumulo) 惚れ薬 (chikondi)
P-17)	msomphola ムソンボラ	<i>Haplocarpha scaposa</i>	惚れ薬 (chikondi)
P-18)	tsoyo ツォヨ	<i>Vernonia shirensis</i>	上腹部痛 (mimba unyonga) の治療 淋病 (ntenda ya chinzonono) の治療 邪術による病の万能薬の成分
Bignoniaceae ノウゼンカズラ科			
P-19)	mvunguti ムヴングティ	<i>Kigelia africana</i>	創傷 (chilonda) の治療 肩にできるこぶし大の腫れ物 (nya- makazi) の治療 白内障 (ng'ala) の治療
Bombacaceae キワタ科			
P-20)	mlambe ムランベ	<i>Adansonia digitata</i> バオバブ	目の痛みをとまなう頭痛 (mutu wa kakope) の治療 *配偶者の愛人に体全体の腫れを引き 起こす邪術 (リカンコ) 同治療 ハーテビーストを用いた邪術 (リカ ンコ) による猫背の治療
Boraginaceae ムラサキ科			
P-21)	chanzi チャンズィ	<i>Trichodesma physaloides</i>	動物やハッシュウマメの食用による 皮膚病の治療
Burseraceae ブルセラ科			
P-22)	kaphukila カプキラ	<i>Commiphora pyracan- thoides</i>	鼻血 (m'kamphuno) の治療
Capparidaceae フウチョウソウ科			
P-23)	mgubididza ムグビディザ	<i>Capparis tomentosa</i>	ヒキガエルを用いた邪術 (リカンコ) による全身の腫れの治療 クモを用いた邪術 (ムチェゾ) によ る喘息 (chifuwa cha kangaude) の 治療

処 方	説 明
根の粉をおかずに入れて服用	パリベ・カントゥとは何も問題はないの意。問題なく病気が治る
球根に穴を開け首にかける	こうするとその皮膚病が広がらない。問題はないという名に由来
根の粉を飲用、体につけた傷に塗布。患者はすぐに吐く	蛇に噛まれても「問題がない」ように
根の粉を体につけた傷に塗布	自分が何を要求しても相手が「問題はない」と承諾してくれる
根の粉を相手に散布	その名と u-somphoka 「ときめく」の繋がりにから相手の心をときめかせる
葉を浸した水を服用	苦い樹液に耐えかねて病気をおこした虫が逃げる
根を浸した水を飲用	苦い樹液が痛みを殺す
根の炭を体につけた傷に塗布	苦い樹液が痛みをおさえる
実の粉を傷に塗布	酸味のある樹液が傷の治療に有効
実の粉を患部に塗布	未詳
葉の粉を袋に包み水を浸してその滴を目に滴下	樹液が白い (u-yela)。目を浄化 (u-yeletsa) する
実と根の粉を頭につけた傷に塗布	実効
繊維を配偶者の食物に投入	*バオバブのように体が腫れてくる
皮の粉または根の炭を体につけた傷に塗布、粥に入れ服用	同種療法
根の粉を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用	この木の実ハハーテビーストの好物。邪術師の用いたハハーテビーストをなだめる
根の炭を患部に塗布	この植物の苦い汁が有効
根の粉を鼻に詰める	カプキラとは元気を回復するものの意。患者の元気を回復する
根の粉を粥に入れて服用	ムグビディザとは検査するものの意。腹の中を検査する
根の粉を粥に入れて服用	この木にはクモが寄りつかない。邪術師が送ったクモが逃げ出す

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
Celastraceae ニシキギ科			
P-24)	mpetu ムペトゥ	<i>Hippocratea parviflora</i>	ハトをハト小屋に居つかせる「薬」 ニャウ (nyau) の踊り手の「薬」
P-25)	mtototo ムトトトまたは mganganga ムガンガンガ	<i>Hippocratea</i> sp.	*男性の性的不能 (chinbuwila) の治療 男性の強精剤 (vubwe)
Combretaceae シクンシ科			
P-26)	gonondo ゴノンド	<i>Combretum celastroides</i> または <i>Terminalia sericea</i>	黄疸 (matenda ya chikasu) の治療 淋病 (ntenda ya chinzonono) の治療
P-27)	kalama カラムまたは kagolo カゴロ	<i>Combretum ghasalense</i>	月経過多 (nsambo) の治療 クサガエルを用いた邪術による便秘 (kawinde) および難産 (uvutika pobala) の治療 惚れ薬, 仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める「薬」 (chikondi) 胸のさしこみ (kalaso) の治療
P-28)	kumanda kwa ngu-luma クマンダ・クワ・ング ルマ	<i>Combretum zeyheri</i>	離乳前に母が妊娠し, 乳児の体が腫れる病気 (unjise, mapumso) の治療 悪寒 (tupi mphepo) の治療
Commelinaceae ツユクサ科			
P-29)	kamchawa カムチャワ	<i>Commelina benghalensis</i>	鼻血 (m'kamphuno) の治療
Cucurbitaceae ウリ科			
P-30)	kawuma カウマ	<i>Kedrostis foetidissima</i>	鼻血 (m'kamphuno) の治療
Dioscoreaceae ヤマノイモ科			
P-31)	kainsa カインサ	<i>Dioscorea bulbifera</i> カシウイモ	歯痛 (manu) の治療
Ebenaceae カキノキ科			
P-32)	mlasa phale ムラサ・パレ	<i>Diospyros lycioides</i>	成人儀礼中におこったムドゥロの治療

処 方	説 明
根を浸した水をハトに与える	その名と u-petukuka「覚える」との繋がりによりハトが自分の家を覚える
根を浸した水で粥を作り服用	その名と u-pepuka「軽い」との繋がりにより踊り手が軽く舞えるようになる
根を浸した水を飲用または樹皮の粉を粥に入れ服用	*その名と u-totomera「伸ばす」との繋がりによりペニスを伸ばす
根の皮の粉を粥に入れ服用	ペニスを伸ばす
根の皮を浸した水を飲用	根の内皮が黄色を呈する、この黄色を用いて黄疸を送り返す一種の同種療法
根を浸した水を飲用	苦い樹液が痛みを殺す
根を浸した水で粥を作り服用、その粥を下腹部につけた傷に塗布	その名と u-lamatila「張りつく」との繋がりにより経血が張りついて止まる
根の炭を体につけた傷に塗布	その名とクサガエルの方名カラマティラとの類似から、同じ張りつくもので張りつくものを送り返す同種療法
根の粉を相手の体や会場に散布	人を自分（たち）のもとに張りつける
根を浸した水を体につけた傷に塗布、同じ水で粥を作り服用	未詳
潰した葉を浸した水を熱し、蒸気を乳児にあてる	実効
根の炭を体につけた傷に塗布	樹液を飲むと体が熱く感じる
根の粉を鼻で吸引	実効
根の粉を鼻で吸引	カウマとは乾くものの意、鼻血を乾かす
根を火であぶり熱い状態のまま歯茎に押し当てる	根の苦い汁が歯痛を起こす虫を殺す
根の炭を服用	ムラサパレとは割れ鍋を割るものの意、火に掛けられない割れ鍋同様「冷たい」新成人を割っておこったのがこの病気、同種療法の1種

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-33)	mdima ムディマ	<i>Euclea schimperi</i>	胸の中にしこりができ、強度の圧迫感と胸痛をともなう病気 (cham'-chifuwa: 肋膜炎?) の治療 喉や腹の中の傷 vilonda va mimba : 熱いものを飲むと痛み、吐くのでわかる) の治療 クサガエルを用いた邪術による便秘 (kawinde) の治療 喘息 (chifuwa cha befu) の治療
			体全体の腫れ (matenda yo tupa) の治療 *狩人が獲物に気づかれないようにする「薬」 仮面制作場所の秘密を守るため人の目をくらます「薬」 (chidima)
Euphorbiaceae トウダイグサ科			
P-34)	kayabwanyani カヤブワニャニ	<i>Acalypha senensis</i>	ムドゥロによる難産 (uvutika po-bala) の予防 離乳前に母が妊娠し、乳児の体が腫れる病気 (unjise または mapum-so) の治療 邪術による失神 (kunyū) の治療
P-35)	kamowa カモワ	<i>Antidesma venosum</i>	双子の新生児のムドゥロの防止
P-36)	kandamwarere カンダムワレレ	<i>Euphorbia catessii</i>	歯槽膿漏 (mkungutsa) の治療
P-37)	kamkaka カムカカ	<i>Euphorbia hirta</i> タイワンニシキソウ	白内障 (ng'ala) の治療
P-38)	kawalitsi カワリツィ	<i>Hymenocardia acida</i>	口内炎 (kasantha) の治療 下痢 (mimba utulula) の治療 割れるような頭痛 (mutu wa chin-ganila) の治療 邪術による病の万病薬の成分
P-39)	chinangwa チナングワ	<i>Manihot utilissima</i> タピオカ	サスライアリを用いた邪術 (ムチェゾ) による激しい痒みの治療

処 方	説 明
根の炭を服用	鍋を割るように病（しこり）を割る
根の粉の水溶液を飲用	酸味のある樹液が治療に有効
根の皮の粉を粥に入れて服用	ムディマとは闇の意。便秘のときには腹の中が闇になる。一種の同種療法
根の粉の水溶液を服用	この木の樹液は黄色。喘息で体の中が黄色くなる（痰の色からの連想か？）のを防止。一種の同種療法
根を浸した水を飲用	併発する黄疸をこの木の黄色い樹液で治療。同種療法
根の粉を体につけた傷に塗布、または根の炭を袋に入れ携帯	*ムディマとは闇の意。狩人の体を闇に包む
根の炭を仮面制作場所に埋設	仮面制作場所を闇に包む
根の粉を服用、また根で木釘 (mpinjili) を作り身につける	カヤブワニャニとはサルを痒がらせるものの意。この木にさわると痒くてサルも近づかない。病気になるかけても病気（の虫）が痒みに負けて逃げてゆく
根の炭を乳児の体につけた傷に塗布、葉を浸した水で体を洗浄	痒さで病気が逃げ出す
根の粉の水溶液を飲用、同じ粉を袋に入れ携帯	邪術師が送った病気のムシが痒さに耐えかねて逃げ出す
根で木釘 (mpinjili) を作り腰に装着、根を浸した水で体を洗浄	この植物は1箇所2株づつ生える。双子がなかよく育つように
根の炭を歯茎にすり込む	実効
茎を折って出てくる汁を目に滴下	白い (u-yela) 草の汁で目を浄化 (u-yeletsa) する
根の炭を患部に塗布	その名と u-walika 「はじける」との繋がりから病をはじき飛ばす
根を浸した水で粥を作り服用	この木は固い。腹を固くする
根の炭を頭につけた傷に塗布	この木は固い。頭を堅固にする
根の炭を体につけた傷に塗布	その名と u-walika 「はじける」との繋がりから病をはじき飛ばす
根を浸した水を飲用	未詳

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-40)	chigaga チガガ	<i>Maprounea africana</i>	下腹部のしこりと痛み (cham'mim-ba) の治療 喉や腹の中の傷 (vilomda va mim-ba: 熱いものを飲むと痛み、吐くのでわかる) の治療 喘息 (chifuwa cha kangaude) の治療 ヒキガエルを用いた邪術(リカンコ)による全身の腫れの治療 クサガエルを用いた邪術(ムチェゾ)による便秘 (kawinde) の治療 狩猟儀礼の失敗による腹部膨満の治療 療儀礼用の「薬」
P-41)	befu ベフ	<i>Phyllanthus welwitschianus</i>	喘息 (chifuwa cha befu) の治療
P-42)	msolo ムソロ	<i>Pseudolachnostylis maprouneifolia</i>	犬を用いた邪術 (リカンコ) により性交後男女の体が離れなくなった場合の治療 邪術による病の万能薬の成分 疥癬 (mphere) の治療 結膜炎 (maso) の治療 歯痛 (manu) の薬の定着剤
P-43)	nsatsi ンサツィ	<i>Ricinus communis</i> トウゴマ	皮膚病 (viphere) の薬の定着剤 *女性の大陰唇を引き下げる「薬」の定着剤 成女儀礼で女性性器を拡張する「薬」の定着剤 新生児の腸をやわらかくする「薬」 耳炎 (m'matu) の治療
P-44)	kasokolowe カソコロウェ	<i>Uapaca sansibarica</i>	足のむくれ (utupa myendo) の治療 ひょうそ (kasule) の治療 早産防止
Flacourtiaceae イイギリ科			
P-45)	nthudza ントゥザ	<i>Flacourtia indica</i>	結膜炎 (maso) の治療

処 方	説 明
根の粉を粥に入れて服用	下剤として実効あり、しこりを排出させる
根の粉の水溶液を飲用	下剤として実効あり、傷を作った虫を排出させる
根の粉を粥に入れて服用	この病は邪術師が送り込んだクモをまねたムシが喉に巣を張るのでおこる。チガガはそのクモが近寄らない木クモを追い出すのに有効
根の粉の水溶液を飲用	下剤として実効あり、邪術師の送り込んだムシを排出させる
根の粉を粥に入れて服用	下剤として実効あり
根の粉の水溶液を飲用	下剤として実効あり
根の粉の水溶液を飲用	実効
根の粉を男女の性器に塗布	その名と u-solela「引き出す」との繋がりからペニスを女性性器から引き出す
根の粉を体につけた傷に塗布	病をおこしているムシを引き出す
根の皮の粉を患部に塗布	病をおこしている虫を引き出す
根の皮の粉を目の回りにつけた傷に塗布	病をおこしている虫を引き出す
実を潰してとれる油（ひまし油）に他の薬を混ぜて患部に塗布	
実を潰してとれる油（ひまし油）に他の薬を混ぜて患部に塗布	
実を潰してとれる油（ひまし油）に他の薬を混ぜて局所に塗布	
実を潰してとれる油（ひまし油）に他の薬を混ぜて局所に塗布	
実を潰してとれる油（ひまし油）を新生児に投与（へその緒を切った直後に実施）	
実を潰してとれる油（ひまし油）を耳に滴下	耳の中をやわらかくする
根の粉を足につけた傷に塗布	足の肉をやわらかくする
樹皮を指にそわせて巻く	この木の実がひょうその腫れに似ている。 同種療法の一種
薬を潰してボール状にし水に浸す。その水を飲用、ボールは屋根の上に置く	ボールが堅くなるように、胎児も固まってから出てくるように
根を浸した水で目を洗う	酸味の強い樹液が有効

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			牽丸が腫れる病気 (phuzi) の治療
Gramineae イネ科			
P-46)	kapinga カピング	<i>Cynodon dactylon</i> ギョウギシバ	*首の痛み (khosi) の治療
P-47)	nyamusongole ニャムソングレ	<i>Echinochloa crus-galis</i> ヒエ	肩にできるこぶし大の腫れ物 (nyamakazi) の治療 言葉の遅い幼児の治療
P-48)	kansanu カンサヌ	<i>Heteropogon contortus</i>	胸のさしこみ (kalaso) の治療
P-49)	bango バンゴ	<i>Phragmites mauritianus</i> ヨシの仲間	ハーテビーストを用いた邪術 (リカンコ) による猫背の治療 アカハネジネズミを用いた邪術 (リカンコ) による転倒・失神の治療
P-50)	chimanga チマンガ	<i>Zea mays</i> トウモロコシ	ヒキガエルを用いた邪術 (リカンコ) による体全体の腫れの治療 歯痛 (manu) の治療 割れるような頭痛 (mutu wa chinganila) の治療 目いぼ (nchetera) の治療
Hypericaceae オトギリソウ科			
P-51)	kavundula カヴンドゥラ	<i>Psorospermum febrifugum</i>	鬱病 (mtima wo khala lijoli) の治療 ハーテビーストを用いた邪術 (リカンコ) による猫背の治療 邪術師の探知薬 邪術師から身を守るためのお守り (chisonga) *他の夫婦を別れさせる「薬」 (kaphantu)
Hypoxidaceae キンバイザサ科			
P-52)	chikasu チカス	<i>Hypoxis goetzei</i>	性交中、女性が男性より先に「性液」を放出し、男性の指が長くなったり体がだるくなったりする病気 (ukozelewa) の治療

処 方	説 明
枝についたまま乾いている実を燃やし、煙を患部にあてる	実は乾くと小さくなる。辜丸の腫れも小さくなるように
この草そのものを首に巻く	*この草はなかなか切れない。首も強くなる
実の粉を肩につけた傷に塗布	実に生えている刺毛で腫れを刺す
他の「薬」を穂先につけて幼児の舌をつつく	穂先の刺毛が舌に刺さると誰でも思わず声を上げる
根を浸した水で粥を作り服用、根の炭を胸につけた傷に塗布	この植物の棘で邪術師が送り込んだ棘ないし針を送り返す同種療法
根の粉を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用	曲がった背をヨシのようにまっすぐにする
根の粉を体につけた傷に塗布	アカハネジネズミはヨシの生えているところへは行かない。邪術師の用いたアカハネジネズミを追いつく
茎の中へ他の「薬」を入れて服用	患者の体をヨシのように細くする
虫のついたトウモロコシの粒を潰した粉を油に混ぜて歯の根元に塗布	虫の食ったトウモロコシの粒を虫歯にみたくて、それを潰すことで虫歯を潰す
立ち枯れた茎の炭を頭につけた傷に塗布	枯れた茎で病を枯れさせる
穀粒を除いた穂軸を先端にさした矢で顔の前にささげもったザルの目の辺りを射る	粒のとれた穂軸の穴に目いぼがはまって取れる
根の皮の粉の水溶液を飲用	カヴンドゥラとはかきまわすものの意。心をかきまわして活性化する
根の粉を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用	カヴンドゥラとはかきまわすものの意。首がよく回るように
根の粉をアンテロブの角の容器に入れる	邪術師がきたら寝ていても心がかきまわされてびっくりして起きる
根を削って釘状にし、自分の家の周りに埋める。外出時は携帯	邪術師が近づくとミサイルのように勝手に飛んで行って邪術師の肛門を突き破り内臓をかきまわす
根の皮の粉を相手の家に散布	*相手の夫婦の心がかきまわされ喧嘩が絶えなくなる
根の粉を粥に入れて服用	チカスとは黄色いものの意。根が黄色いことに由来する。この病気は黄色い女性の「性液」が男性の白い精液を黄色くするのでおこる。その黄色をチカスの黄色で送り返す同種療法

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
黄痘 (matenda ya chikasu) の治療			
Leguminosae マメ科 Caesalpinioideae ジャケツイバラ亜科			
P-53)	mfenda nludzi ムフェンダ・ンルズィ	<i>Brachystegia longifolia</i>	背骨の痛みの治療
P-54)	msamba mufumu ムサンバ・ムフム または msale ムサレ	<i>Brachystegia spiciformis</i>	嘔吐 (usanza) の治療 クマネズミを用いた邪術(ムチェゾ) による全身の痛みや吐き気の治療
P-55)	mnyoka ムニョカ	<i>Cassia abbreviata</i>	嘔吐 (usanza) の治療 クマネズミを用いた邪術(ムチェゾ) による全身の痛みや吐き気の治療 下痢, 血便 (mimba mwa kamadzi) の治療 女性の子宮内の傷 (vilonda va mim- ba) の治療 喉や腹の中の傷 (vilonda va mimba: 熱いものを飲むと痛み, 吐くので わかる) の治療 性病による局所の潰瘍 (ntenda ya songeya) の治療 性病によるリンパ腺の腫れ (ntenda ya mabola) の治療
P-56)	mpekesa ムペケサまたは kapiepie カピエピエ	<i>Cassia katangensis</i>	便秘 (kawinde) の治療 上腹部痛 (mimba unyonga) の治療
早産または死産 (chifeni) の予防			
性交中, 女性が男性より先に「性液」 を放出し, 男性の指が長くなっ たり体がだるくなったりする病気 (ukozelewa) の治療			
P-57)	chinkundu チンクンドゥ	<i>Erythrophleum africanum</i>	*邪術師が否かを試す試罪毒 邪術師によってひきおこされた連続 して起こるてんかん (kunya ya mjili) の治療

処 方	説 明
根を浸した水で粥を作り服用	黄疽の黄色をチカスの黄色で送り返す同種療法
樹皮の炭を背骨の両側につけた傷に塗布	未詳
根の粉の水溶液を飲用 根の炭または皮の粉を体につけた傷に塗布	酸味のある樹液を飲むとツバもでてこない この木の樹液は赤くて血のよう。血を増やす。また、樹液の酸味が邪術師の送ったムシを殺す
樹皮の粉の水溶液を飲用 樹皮の粉を体につけた傷に塗布	酸味のある樹液を飲むとツバもでてこない 同上。また酸味のある樹液がクマネズミにひっかかれてできた体の中の傷を治す
樹皮を浸した水で粥を作り服用	酸味のある樹液が出血している傷の治療に有効
根を浸した水で臍内を洗浄	酸味のある樹液が傷の治療に有効
根を浸した水を飲用	酸味のある樹液が傷の治療に有効
根を浸した水を飲用	樹液の酸味で病をおこしている虫が死ぬ
樹皮の粉を患部につけた傷に塗布	併発する傷の治療に酸味のある樹液が有効
根を浸した水で粥を作り服用	樹液がぬるぬるしていて詰まった便を滑らせる
根の炭を体につけた傷に塗布	火起こしのねじり (u-pekesa) 棒に用いられるのでこの木はムベケサとよばれる。 ねじれるような腹部の痛みを治す同種療法
根を浸した水を飲用	カピエピエとはからまるものの意。葉がからみつくことに由来する。胎児が十分成長するまで母体の中にかからめとって留めておく
根の粉を粥に入れて服用	未詳
*根の粉を飲用	*無罪なら吐き戻す。有罪ならそのまま死に至る
樹皮の粉の水溶液を飲用	邪術師はこの木を避ける。邪術師が送ったムシもこの木を避けて逃げてゆく

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			邪術師がムシを送り込む際に作った 傷 (chilonda) の治療 *畑荒らしの邪術 (fumba) の防止
P-58)	msekese ムセケセ	<i>Piliostigma thonningii</i>	おたふくかぜ (kandukutu) の治療 下痢 (mimba utulula) の治療 邪術による病の万能薬の成分
P-59)	bwemba ブウェンバ	<i>Tamarindus indica</i> タマリンド	便秘 (kawinde) の治療 アカハネジネズミを用いた邪術 (リ カンコ) による転倒, 失神の治療 ヒキガエルを用いて配偶者の愛人に 全身の腫れを起こす邪術 (リカン コ)
Leguminosae マメ科 Mimosoideae ネムノキ亜科			
P-60)	nyafungo ニャフンゴ	<i>Acacia microthyrsa</i>	*乳児の悪夢 (uzizimuka) による夜泣 きの治療 仮面をかぶった踊り手にとり憑いた 死者の霊の除去 邪術による足のむくれ (myendo utupa) の治療 サスライアリとバンバラマメを用い た邪術 (ムチェゾ) による全身の 痒みの治療
P-61)	mtubetube ムトゥベトゥベ	<i>Acacia sieberana</i>	胸のさしこみ (kalaso) の治療 クサガエルを用いた邪術 (ムチェゾ) による難産 (uvutika pobala) の治 療 悪臭をひきおこす邪術 (chifwenthe)
P-62)	mkalankhanga ムカランカンガ	<i>Albizia harveyi</i>	サスライアリとバンバラマメを用い た邪術 (ムチェゾ) による全身の 痒みの治療
P-63)	kalimphangale カリンパンガレ	<i>Dichrostachys cinerea</i>	ンジャラという虫を用いた邪術 (ム チェゾ) による目の奥の痛みをと もなう頭痛 (mutu wa kakope) の 治療

処 方	説 明
樹皮の粉を傷に塗布	邪術師はこの木を避ける。邪術師が送ったムシもこの木を避けて逃げてゆく
*根の粉を畑に埋設	*邪術師はこの木を避ける。邪術師が送った使魔もこの木を避けて逃げてゆく
根を浸した水を飲用	この木の樹液は酸味をもつ。その酸味がおたふくかぜの患者が覚える酸味を消す
根を浸した水で粥を作り服用	その名と u-sekesa 「ゆるめる」との繋がりから下痢をゆるめる
根の炭を体の傷に塗布	その名と u-sekaseka 「笑う」との繋がりから患者が回復して笑えるように
根の皮の粉の水溶液を飲用	実効
根の粉を体の傷に塗布	この木を食べるとアカハネジネズミは死ぬ。邪術師が用いたアカハネジネズミを殺す
根の炭を配偶者の食物に投入	この木は毒をもつ。愛人を殺す
*根を浸した水で乳児の体を洗淨	*ニャフンゴとは臭い木の意。強烈な臭気を発するのでこの名がある。その匂いで乳児に悪夢を見させている死者の霊が逃げてゆく
根を浸した水で体を洗う	匂いで死者の霊が逃げてゆく
根の粉を足の傷に塗布	匂いで邪術師が送り込んだムシが逃げてゆく
根の粉の水溶液を飲用	匂いで邪術師が送り込んだムシが逃げてゆく
根の粉を体の傷に塗布	邪術師が送り込んだこの木の棘が胸を刺しているのかもしれない。この木の棘で邪術師が送った棘を送り返す同種療法
根の粉を粥に入れて服用	産道を閉ざしているクサガエルをまねたムシをこの木の棘で突いて出す
根の粉を相手の体に散布	ムトゥベトゥベとは糞のような木の意。悪臭を放つのでこの名がある
根の粉の水溶液を飲用	この木の樹液は辛い。辛さに耐えかねて邪術師が送り込んだムシが逃げてゆく
根の粉を眉の上につけた傷に塗布	この木にンジャラという虫が住む。住家を与えて邪術師が送り込んだンジャラを取り込む。またこの木は堅く患者の頭を堅くするためともいう

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			邪術師から墓を守る「薬」
P-64)	phingo ビンゴまたは mlimba ムリンバ	<i>Dichrostachys cinerea</i>	邪術による病の万能薬の成分 離乳前に母が妊娠し、乳児の体が腫 れる病気 (unjise または mapum- so) の治療 中風 (manjenje) の治療
P-65)	chiteta チテタ	<i>Elephantorrhiza goetzei</i>	疥癬 (mphere) の治療 魚毒 (ululu) 鉱山労働者の強壮剤 (mangolomera)
Leguminosae マメ科 Papilionoideae マメ亜科			
P-66)	kaminimi カミニミ	<i>Abrus precatorius</i> トウアズキ	血尿をとまなう膀胱炎 (likodzo) の 治療 邪術師の探知薬
			邪術師から墓を守る「薬」
P-67)	kalamatila カラマティラ	<i>Aeschynomene fulgida</i>	耳の後ろにできる化膿性のできもの (mpande) の治療
			動物やハッシュウマメの食用による 皮膚病 (viphere) の治療 初潮を早く止める「薬」
P-68)	shawa シャワ	<i>Arachis hypogaea</i> ナンキンマメ	女性の陰部の腫れ物 (chisholi およ び chinkombola) の治療 財布をひきしめる「薬」
P-69)	nzama ンザマ	<i>Voandzeia subterranea</i> バンバラマメ	体中の痛みや吐き気をおこす邪術 (ムチェゾ)
			同治療
P-70)	nyamudolo ニャムドロ	<i>Cajanus cajan</i>	クサガエルを用いた邪術(ムチェゾ) による難産 (uvutika pobala) の治 療
P-71)	mkanga njovu ムカンガ・ンジョヴ	<i>Dalbergiella nyusae</i>	下痢、血便 (mimba mwa kamadzi) の治療 女性の子宮内の傷 (vilonda va mim- ba) の治療

処 方	説 明
根で木釘 (chisonga) を作り墓に埋める	邪術師が来ると勝手に飛び出して邪術師を さす。詳細は不明
根の炭を体につけた傷に塗布 コツメデバネズミの肛門にこの木の根を突 き刺して乳児に食べさせる	この木は邪術師が恐れる 乳児にみたてたネズミの体を突いて乳児の 体の腫れをひかせる。なぜこの木を用い るかは未詳
根の粉を体につけた傷に塗布	ムリンバとはお前は頑健だの意。患者の体 を頑健にする
根を浸した水で患部を洗う 未詳	病気を起こしている虫を殺すのに有効 実効
根の粉を体につけた傷に塗布	根を噛むと疲れがとれる
根を浸した水をおかずに混ぜて服用	赤い樹液で出血を補う
赤い実をそのままアンテロープの角に入れ る	邪術師の身を包む赤い火をいち早く見つけ るように
根で木釘 (chisonga) を作り墓に埋める	この植物の赤い実が弾けて飛ぶように、こ の釘は邪術師がくると飛んでいって刺し 殺す
根の炭を患部に塗布	カラムティラとは張りつくものの意。葉が すぐからみつくのでこの名がある。患部 の傷口を張りつける
根の炭を患部に塗布	患部の皮を張りつける
葉を潰して局所に塗布 殻の粉を患部に塗布	血を張りつけて止める 腫れ物を殻の中に収める
殻の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて 携帯 殻を使用	ナンキンマメは一つの豆からどんどん増え る クマネズミをまねたムシとともにこの豆も 送り込み、治療の「薬」が投与されて もムシがこの豆の中に逃げ込めるように する
殻の炭を体につけた傷に塗布、粥に入れて 服用	同種療法
根を浸した水で粥を作り服用	この植物の汁は苦い。苦みが痛みを止める
根を浸した水で粥を作り服用	この木は堅い。腹を堅くする。またこの木 の樹液は酸味が強く病気をもたらしてい る虫を殺す
根を浸した水で腫を洗浄	酸味のある樹液が傷の治療に有効

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			喉や腹の中の傷 (vilonda va mimba: 熱いものを飲むと痛み、吐くので わかる) の治療 クマネズミを用いた邪術(ムチェゾ) による全身の痛みや吐き気の治療 目が痒くて腫れてくる病気 (linyon- yo) の治療 ニャウ (nyau) の踊り手が僚友の邪 術から身を守る「薬」 下痢 (mimba utulula) の治療 *畑荒らしの邪術 (fumba) の防止
P-72)	nthupa ントゥパまたは mthupathupa ムトゥパトゥパまたは nthupsa ントゥプサ	<i>Dolichos</i> sp. フジマメの1種	
P-73)	kakome カコメまたは mvala nkhunda ムヴァラ・ンクンダ	<i>Indigofera antunesiana</i>	寄生虫 (njoka m'mimba) の駆除 邪術による失神 (kunyuu) の治療
P-74)	kafulatila カフラティラ	<i>Indigofera subutifera</i>	疥癬 (mphe) の治療 邪術による病の万能薬の成分 邪術による病 (ムチェゾ) 一般の治 療
P-75)	kaweleka カウエレカ	<i>Indigofera</i> sp.	てんかん (chimkombozi) の治療 早産または死産 (chifeni) の予防
P-76)	mwai ムワイ	<i>Indigofera</i> sp.	目まい (chizwezwe) の治療
P-77)	chitedze チテゼ	<i>Mucuna pruriens</i> ハッショウマメ	ムドゥロの治療 血尿をとまなう膀胱炎 (likodzo) の 治療 腹部膨満 (matumbitumbi), げっぷ (ufufuma mimba) の治療 邪術師から墓を守る「薬」
P-78)	mudyha phumbwa ムデヤ・プンブワ	<i>Mundulea sericea</i>	ジャコウネコの皮を身につけた仮面 舞踊の踊り手 (ngwachombwe) にとりついたジャコウネコの霊 (chiwanda) の除去 下痢 (mimba utulula) の治療 邪術による下腹部のしこりと痛み (cham'mimba) の治療

処 方	説 明
根の粉を粥に入れて服用	この木は堅い、腹を堅固にする
樹皮の粉の水溶液を飲用	この木は堅い、ネズミにひっかかれても平気なくらい体を堅固にする
樹皮を浸した水で目を洗う	この木のように目を堅固にする。また酸味の強い樹液が傷の治療に有効
枝からとった繊維を腕に巻く	ムカンガ・ンジョヴとはゾウも倒せぬ木の意、踊り手も倒されることがない
根を浸した水で粥を作り服用	この植物の苦い汁に耐えかねて病気を起こしている虫が逃げ出す
*根の粉を畑に埋設	*ントッパとは膨れたものの意、豆の形態に由来、自分の畑の収穫量がどんどん膨れる
根を浸した水を飲用	この植物の汁の辛さに耐えかねて腹の中の寄生虫が逃げる
根の皮の粉を粥に入れて服用、根の炭を体の傷に塗布、繊維を首に巻く	この植物の汁の辛さに耐えかねて邪術師の送ったムシが逃げる
根を浸した水で患部を洗う	この植物の辛い汁が患部の治療に有効
根の炭を体につけた傷に塗布	未詳
根の皮の粉の水溶液を飲用	この植物の葉には虫も近寄らない、邪術師が送ったムシが逃げてゆく
根の皮と葉を潰してでてくる泡を摂取	てんかんの際に患者が出す泡を送り返す同種療法
根で木釘 (mpinjili) を作り体に装着、根を浸した水で粥を作り服用	未詳
葉を乾かしタバコにして吸う	ムワイとは幸運の意、幸運にみまわれるように
根の粉の水溶液を飲用、同じ水で体を洗浄	この水で体を洗うと体が痒くなる、痒みで病が逃げ出す
根の粉を粥に入れて服用	白い (u-yela) 液で病気を洗い流す (u-yeletsa)
根を浸した水で粥を作り服用	痒みで病気を起こしている虫が逃げてゆく
根の粉の水溶液で遺体を洗って埋葬	遺体を食べにきた邪術師の体を痒くして追い払う
根を浸した水で体を洗う	ジャコウネコはこの豆を好む、ジャコウネコの霊を慰撫する
実の粉を粥に入れて服用	未詳
根を浸した水で粥を作り服用	未詳

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			邪術師によってひきおこされた連続して起こるてんかん (kunya ya mjili) の治療
P-79)	Chitupe チトゥペ	<i>Neorautanenia pseudopachyrhiza</i>	動物の食用による皮膚病 (viphere) の治療
P-80)	mwanga ムワンガ	<i>Pericopsis angolensis</i>	鼻水 (m'kamphuno) の治療 強壮剤 (mangolomera) 目の痛みをともなう頭痛 (mutu wa kakope) の治療
P-81)	mkalansinga ムカランシンガ	<i>Pericopsis</i> sp.	背中の中の痛み 下痢, 血便 (mimba mwa kamadzi) の治療 偏頭痛 (mutu uwawa) の治療
P-82)	mlombe ムロンベまたは mlembela ムレンベラ	<i>Pterocarpus angolensis</i>	耳炎 (m'matu) の治療 邪術師から家を守るためのお守り (chisonga) 下痢 (mimba utulula) の治療 *下痢, 血便 (mimba mwa kamadzi) の治療 月経過多 (nsambo) の治療 目まい, たちくらみ (chizwezwe) の治療 盲目 (khungu) の治療 白内障 (ng'ala) の治療
P-83)	mkuwi ムクウィ	<i>Rhynchosisia insignis</i>	肩にできるこぶし大の腫れ物 (nyamakazi) の治療 胸の中にしこりができ, 強度の圧迫感と胸痛をともなう病気 (cham'chifuwa) の治療 サバンナモンキーを殺した犬の治療 グリスボックを殺した犬の治療 喉や腹の中の傷 (vilonda va mimba: 熱いものを飲むと痛み, 吐くのでわかる) の治療 動物の食用による皮膚病 (viphere) の治療
P-84)	mtombodwa ムトンボドゥワ	<i>Sphenostylis erecta</i>	下痢, 血便 (mimba mwa kamadzi) の治療

処 方	説 明
根の粉の水溶液を飲用，葉を浸した水で体を洗淨	酸味の強い樹液が邪術師の送ったムシを追いかう。またこの木にはよく小鳥が集まっては散っていく。小鳥が病氣を取って散らしてくれる
根の炭を油で溶いて患部に塗布	どんな動物でもこの実を好む。皮膚病をおこした動物を慰撫する
樹皮の粉を鼻で吸引	実効
樹皮の炭を体につけた傷に塗布	この木は堅い。体が堅固になる
樹皮の粉を眉につけた傷に塗布	この木は堅い。頭を堅固にする
根の炭を体につけた傷に塗布	この木は堅い。背中を堅固にする
樹皮を浸した水で粥を作り服用	樹液が血のように赤い。血を増やす
根の炭を頭につけた傷に塗布	ムカランスィンガとはお前は眉を切るの意。眉からこめかみにかけての痛みを治す同種療法
葉の粉を包んだ布を水に浸し、滴を滴下	赤い樹液で血を新しくする
根で木釘 (chisonga) を作り、家の周りに埋設	邪術師が来たら飛び出して邪術師を刺す。理由は未詳
樹皮を浸した水で粥を作り服用	赤い樹液が血を増やす
樹皮を浸した水で粥を作り服用	*赤い樹液が失われた血を補う
根を浸した水で粥を作り服用	赤い樹液が失われた血を補う
樹皮の粉を粥に入れて服用	この病氣は血がたりなくなっておこる。赤い樹液が血を増やす
樹皮を浸した水で目を洗う	赤い樹液が目へ血を与える
樹皮の粉を蜜臘、卵の白身と混ぜて目に塗布	ねっとりとした樹液に目の濁りを付着させて除去
樹皮を浸した木で粥を作り服用	この病氣は血がたまっておこる。赤い樹液が血を増やし血の循環をよくする
根を浸した水で粥を作り服用	この病氣は血がたまっておこる。赤い樹液が血を増やし血の循環をよくする
根の粉を餌に混ぜて投与	放置すると犬が狂う。血を新しくする
根を餌とともに煮て与える	放置すると喘息になる。血を新しくする
根の炭を服用	辛い樹液が傷の治療に有効
根の炭を油で溶いて患部に塗布	辛い樹液が傷の治療に有効
根の皮を浸した水で粥を作り服用	赤い樹液が出血で失われた血を補う

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-85)	mchelekete ムチェレケテ	<i>Swartzia madagascariensis</i>	妊婦が夫の姦通でムドゥロになるのを予防
P-86)	futsa フツァ	<i>Vigna parviflora</i>	邪術（ムチェゾ）による足の痛みの治療
P-87)	nyemba ニエンバ	<i>Vigna unguiculata</i> ササゲ	血尿をとまう膀胱炎 (likodzo) の治療 離乳前に母が妊娠し、乳児の体が腫れる病気 (unjise または mapum-so) の治療
Liliaceae ユリ科			
P-88)	katsitsi kazukwa カツィツィ・カズクワ または mtsitsi ムツィツィ	<i>Asparagus officinalis</i> アスパラガス	月経過多 (nsambo) の治療 嘘の宣誓をしたため口の周りにできるただれ (njazi) の治療 寄生虫 (njoka m'mimba) の駆除
Loganiaceae ホウライカズラ科			
P-89)	mteme ムテメ	<i>Strychnos innocua</i>	犬を用いた邪術（リカンコ）により性交後男女の体が離れなくなった場合の治療 猟犬の強化
P-90)	chizaye チザエ	<i>Strychnos lucens</i>	下腹部のしこりと痛み (cham'mimba) の治療 胸の中にしこりができ、強度の圧迫感と痛みをとまう病気 (cham'-chifuwa) の治療 サスライアリを用いた邪術（ムチェゾ）による全身の痒みの治療 性病によるリンパ腺の腫れ (ntenda ya mabola) の治療 淋病 (ntenda ya chinzonono) の治療 睪丸が腫れる病気 (phuzi) の治療 月経中の女性との性交による血尿をとまう膀胱炎 (likodzo) の治療 難産の予防
P-91)	mgunda nguluwe ムグンダ・ングルウェ	<i>Strychnos pungens</i>	睪丸が腫れる病気 (phuzi) の治療
Malvaceae アオイ科			
P-92)	matowo マトウォ	<i>Azanza garckeana</i>	男性の強精剤 (vubwe)

処 方	説 明
樹皮の炭をおかずの中に入れて食べさせる	実が妊婦の姿に似ている。夫が姦通してもそのまま子供が維持できるように
根の粉の水溶液を飲用	この植物の汁は辛く、邪術師が送り込んだムシが逃げる
根の粉を粥に入れて服用	酸味のある樹液が傷を治す
そのまま食用	この豆をたくさん食べると下痢をする。下剤として有効
根を浸した水で粥を作り服用	赤い樹液が失われた血を補う
葉の粉の水溶液を飲用	この葉には一面に毛がはえていてよく服に張りつく。カツィツィもムツィツィもともに毛のあるものの意。ただれた皮膚を張りつける
根の粉を粥に入れて服用	実効
根の炭をジャックナイフに塗布した上、そのナイフを開く	その名と u-tema「切る」との繋がりにより男女の体を切り離す
根の粉を粥に入れて犬に投与	その名と u-tema「切る」との繋がりにより猟犬が獲物を切るように
根を浸した水で粥を作り服用	樹液の苦さに耐えかねて邪術師が送ったムシが逃げ出す
根を浸した水で粥を作り服用	実が胸のしこりに似ている。同種療法の一つ
葉を浸した水を飲用	樹液の苦さに耐えかねて邪術師が送ったムシが逃げ出す
根を浸した水を飲用	実が胸のしこりに似ている。同種療法の一つ
根を浸した水を飲用	未詳
根を浸した水で粥を作り服用	実が腫れた睾丸に似ている。同種療法の一つ
葉を浸した水で粥を作り服用	未詳
根を浸した水を飲用	この木の実是一次に落ちる。赤子が一度のいきみで出てくるように
根を浸した水で粥を作り服用	実が胸のしこりに似ている。この実が落ちるように腫れも落ちる。同種療法の一つ
根の皮を浸した水を飲用	樹液がぬるぬるしていて精液と同じ。精液を増やす

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
Meliaceae センダン科			
P-93)	mtunda ムトゥンダ	<i>Turraea robusta</i>	*咳 (chifuwa) の治療 言葉の遅い幼児の治療 仕留めた大型草食獣を排泄させる狩 猟儀礼用の「薬」 同儀礼の失敗による腹部膨満の治療 失神 (kunya) の治療
Moraceae クワ科			
P-94)	mkuyu ムクユ	<i>Ficus sycomorus</i>	動物の食用による 皮膚病 (viphere) の治療
Musaceae バショウ科			
P-95)	ntochi ントチ	<i>Musa sapientum</i> バナナ	動機 (mtima wo wawa) の治療 狂気 (msala) の治療 鬱病 (mtima wokhala lijoli) の治療
Myrothamnaceae ミロタムヌス科			
P-96)	njedza ンジェザ	<i>Myrothamnus flabellifolius</i>	淋病 (ntenda ya chinzonono) の治療 発熱 (tupi uthenta) の治療 盲目 (khungu) の治療 目の腫れ (maso utupa) の治療 仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める 「薬」 (chikondi)
Myrtaceae フトモモ科			
P-97)	mafowo マフオウオ	<i>Syzygium guineense</i>	歯痛 (manu) の治療
Ochnaceae オクナ科			
P-98)	chisanzesanze チサンゼサンゼ	<i>Ochna pulchra</i>	嘔吐 (usanza) の治療 ヒキガエルを用いた邪術(リカンコ) による腹部の腫れの治療
P-99)	msamba ndola ムサンバ・ンドラ	<i>Ochna leptoclada</i>	成人儀礼をうける少年少女のムドゥロの防 止
Olacaceae ボロボロノキ科			
P-100)	ntengele ンテンゲレ	<i>Ximenia americana</i>	目まい, たちくらみ (chizwezwe) の 治療

処 方	説 明
*根を浸した水で粥を作り服用 根の粉を粥に入れて服用	*実効 これは咳の「薬」。喉の詰まりを通すのに効果がある
噛み砕いた根のかすを獲物の口（鼻）にはきかける 根の粉を粥に入れて服用 未詳	獲物の腹の詰まりを通すのに効果がある 患者の腹の詰まりを通すのに効果がある 未詳
樹皮の炭を患部に塗布	樹液がねばねばして患部の皮膚を張りつける
果穂の先端部の雄花の粉を粥に入れ服用 果穂の先端部の雄花の粉を粥に入れ服用 果穂の先端部の雄花を赤熱した斧に押し当て、熱いうちに水に入れて服用	バナナの房のように心臓もうつむく バナナの房のように心臓もうつむく 患者の心臓をいつもうつむいているバナナの果穂の雄花（バナナの心臓とみなされる）にたとえ、それを熱することで心を熱くする
根を浸した水で粥を作り服用	白い樹液が精液を増やす
葉を潰して水に浸したものを飲用	この植物の血のように赤い汁が血の循環を促す
葉を浸した水で目を洗う	この植物は切って茶色になっても水につければすぐ青々とする。目を生き返らせる
葉を浸した水で目を洗う 種の粉を会場に散布，周囲の木にも塗布	目を生き返らせる その名と u-onjiza「増える」との繋がりから観客を増やす
樹皮を浸した水を熱し，その蒸気を患部に当てる	この木の実が歯に似ている。丈夫な歯になるように
根を浸した水を飲用	実効。嘔吐の治療に使うので「吐く吐くもの」という意味のこの名がある
根の粉を粥に入れて服用	「吐く吐くもの」という名から，邪術師が送り込んだムシを吐いて出す
根の炭をおかずに入れて服用	ンドラとはンセンガ (Nsenga) 族の言葉で儀礼を受ける新成人のこと。ムドッロの防止のためこの「薬」で彼らを洗うので「新成人を洗う」という意味のこの名がある。由来は未詳
根を浸した水で体を洗う	赤い樹液が血行を促進する

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			強精剤 (vubwe)
			邪術師から墓を守る「薬」
Oleaceae モクセイ科			
P-101)	mshawa nkunzi ムシャワ・ンクンズィ	<i>Jasminum fluminense</i>	成人儀礼をうける少年少女のムドゥ ロの治療 胸の中にしこりができ、強度の圧迫 感と痛みをともなう病気 (cham'- chifuwa) の治療 胸のさしこみ (kalaso) の治療 邪術 (ムチェゾ) による激しい痒み の治療 歩行困難, 顔色の変化 (matenda ya bilimankwe) の治療
Oxalidaceae カタバミ科			
P-102)	kunyata クニャタまたは kumata クマタ	<i>Biophytum petersianum</i>	失神 (kunyu) の治療 惚れ薬 (chikondi)
Passifloraceae トケイソウ科			
P-103)	mlodzi ムロズィまたは mbovu ムボヴ	<i>Adenia gummifera</i>	結膜炎 (maso) の治療 肩にできるこぶし大の腫れ物 (nya- makazi) の治療 梅毒 (kaswenthe) の治療
Pedaliaceae ゴマ科			
P-104)	chilezi チレズィまたは katete カテテまたは tsope ツォペ	<i>Sesamum angolense</i> および <i>Sesamum calycinum</i>	脱肛 (matenda ya mtumbo) の治療 避妊薬 (chilezi) 難産 (uvutika pobala) の治療
Polygalaceae ヒメハギ科			
P-105)	bwazi ブワズィ	<i>Securidaca longepedun- culata</i>	サスライアリを用いた邪術 (ムチェ ゾ) による激しい痒みの治療 邪術師によって引き起こされる連続 的なてんかん (kunyu ya mjili) の 治療 ひょうそ (kasule) の治療

処 方	説 明
根の粉を粥に入れて服用	樹液が甘い。性交中、相手も甘く感じてくれるように
根で木釘 (chisonga) を作り墓の周りに埋設	この木が赤い樹液を出すごとく邪術師も血を流す
根の炭を服用	未詳
根の炭を服用	棘で胸のしこりを棘す
根の粉を体につけた傷に塗布	邪術師が送り込んだこの木の棘が胸を刺しているのかもしれない。同種療法
根の粉を体につけた傷に塗布	邪術師が送り込んだムシをこの木の棘で刺して追い出す
根の皮の粉を体につけた傷に塗布、粉の水溶液で体を洗う	未詳
葉を潰して水に浸し、その水を飲む	この草は人が触ると葉を閉じる (kumata) が、しばらくするとまた葉を開く。患者が立ち上がるように
根の粉を袋に入れて携帯	相手がこの草のようにうつ向いて何でもいうことをきいてくれるように
根の皮を浸した水で体を洗う	この植物の汁は白い (u-yla). 目を洗う (u-yeletsa)
根の炭を患部の周りにつけた傷に塗布	昔この植物から塩を取った。塩と同様血行を促す
葉の粉を局所の潰瘍に塗布	未詳
根の粉の水溶液を患部に塗布	この植物の汁はぬるぬるして滑りやすい。チレズィとは滑らすものの意。排便をたやすくする
根で木釘 (mpinjili) を作り女性が着用	男性の精液を滑らせる
葉を潰して膣口に塗る	胎児が滑って出てくる
根を浸した水を飲む	この木は臭い。匂いで邪術師の送ったムシが逃げる
根の粉の水溶液を服用	匂いで邪術師の送ったムシが逃げる
繊維を指に巻く	匂いで病気をおこしている虫が逃げ出す

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			性病によるリンパ腺の腫れ (ntenda ya bolla) の治療 蛇に噛まれたときの治療薬 (chivumulo)
Polygonaceae タデ科			
P-106)	chiselu チセル	<i>Oxygonum atriplicifolium</i>	人気を得る「薬」 (chikondi)
P-107)	msipe ムスイペ	<i>Polygonum senegalense</i>	村をまとめる「薬」 嘔吐 (usanza) の治療
Proteaceae ヤマモガシ科			
P-108)	chinsense チンセンセ	<i>Protea baurii</i> および <i>Faurea saligna</i>	*目まい、立ちくらみ (chizwezwe) の治療
Rhamnaceae クロウメモドキ科			
P-109)	kankande カンカンデ	<i>Ziziphus mucronata</i>	邪術による激しいかゆみ (matenda yo lumaluma) の治療 新生児頭蓋骨の泉門 (liwombo) における脈動 (上下動) の低調の治療 乳幼児頭蓋骨の泉門 (liwombo) の縫合不全の治療
Rubiaceae アカネ科			
P-110)	kundabwe クンダブウェ	<i>Agathisanthemum globosum</i>	咳 (chifuwa) の治療 全身の腫れ (matenda yo tupa) の治療
P-111)	mwavi ムワヴィまたは mlanga nfiti ムランガ・ンフィティ	<i>Crossopteryx febrifuga</i>	邪術師か否かを試す試罪毒 (mlanga nfiti) クマネズミを用いた邪術 (ムチェゾ) による全身の痛みや吐き気の治療 カメレオンを用いた邪術 (ムチェゾ) による歩行困難、顔色の変化 (matenda ya bilimankwe) の治療 畑荒らしの邪術 (fumba) の予防 邪術による病の万能薬の成分
P-112)	mdulo ムドゥロまたは mwandula ムワンドゥラ	<i>Fadogia katangensis</i>	邪術師がムシを送り込む際に作ったと考えられる創傷 (chilonda) の治療 小児のムドゥロの治療

処 方	説 明
根を浸した水を飲用	下剤として有効
根の粉を体につけた傷に塗布	この木は臭く蛇も近づかない。蛇の毒も逃げてゆく
根の炭を体につけた傷に塗布，袋に入れて携帯	この植物は1箇所に植えてもすぐに広がる。名声が広がる
根の破片を村長の家に埋設	人がこの実を好むから村長も好かれる
根の粉を体につけた傷に塗布	実効
根を浸した水を熱してその蒸気を浴びる。 または、花を燃やした煙を浴び、その炭を眉間につけた傷に塗布	*白い (u-yela) 樹液が立ちくらみを白くする (u-yeletsa)
根の粉を体につけた傷に塗布	この木の棘で邪術師が送り込んだムシを刺す
葉を潰して泉門に塗布	泉門部の血行を止めている虫を苦い樹液で追い出す
葉を潰して泉門に塗布	粘着質の樹液で泉門を閉じる
根を浸した水で粥を作り飲用	この植物の赤い汁が血を増やす
根を浸した水を飲用	この植物の赤い汁が血を増やす
根の粉を飲用	無罪なら吐き戻す。有罪なら下痢をする
根の粉を体につけた傷に塗布	邪術師の試罪毒ゆえ、邪術師が送ったムシも逃げる
根の粉を体につけた傷に塗布	邪術師の試罪毒ゆえ、邪術師が送ったムシも逃げる
根の粉を畑に埋設	邪術師の試罪毒ゆえ、邪術師が逃げる
根の炭を体につけた傷に塗布	邪術師の試罪毒ゆえ、邪術師が送ったムシも逃げる
根の粉の水溶液で創傷を洗浄	邪術師の試罪毒ゆえ、邪術師が送ったムシも逃げる
両親が根を噛み砕き子供の体に吐きかける	赤い樹液が血の循環を促す。なお、この木はムドゥロの治療に使われるがゆえにムドゥロとよばれている

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-113)	maso ya ng'ombe マソ・ヤ・ンゴンベ	<i>Fadogia triphylla</i>	離乳前に母が妊娠し、乳児の体が腫れる病気 (unjise または mapum-so) の治療 背の痛み (msana) の治療
P-114)	kasanjesanje カサンジェサンジェ	<i>Gardenia imperialis</i>	仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める「薬」(chikondi)
P-115)	mulumila ムルミラ	<i>Psychotria eminiana</i>	成人儀礼におけるムドゥロの予防
P-116)	chiwowo チウォウオ	<i>Rothmannia englerana</i>	難聴 (gonthi) にともなう痛みの治療 蛇に噛まれたときの治療薬
P-117)	msamba tsoka ムサンバ・ツォカ	<i>Tapiphyllum discolor</i>	邪術師による病の万能薬の成分 *邪術によっておこされた体の悪臭 (chifwenthe) の除去
P-118)	machende ya kalulu マチェンデ・ヤ・カルル	<i>Vangueria tomentosa</i>	動機 (mtima wo wawa) の治療
P-119)	chipembere チペンベレ	<i>Xeromphis obovata</i>	ムドゥロによる難産 (uvutika po bala) の治療 クサガエルを用いた邪術(ムチェゾ)による難産 (uvutika po bala) の治療 妊娠した女性の近親者にできるものの (phumba または nyamka-limbi) の治療 性病によるリンパ腺の腫れ (ntenda ya mabolla) の治療
Rutaceae ミカン科			
P-120)	mandimu マンディム	<i>Citrus limon</i> レモン	喘息 (chifuwa cha befu) の治療 喉や腹の中の傷 (vilomda va mimba: 熱いものを飲むと痛み、吐くのでわかる) の治療 咳をとともう全身の腫れ (matenda yo tupa) の治療
Sapindaceae ムクロジ科			
P-121)	msuche ムスチエ	<i>Dodonaea viscosa</i>	男性の性的不能 (chinbuwila) の治療
P-122)	changeluche チャンガルチエ	<i>Zanha africana</i>	*偏頭痛 (mutu uwawa) の治療

処 方	説 明
根を浸した水で粥を作り服用	白い (u-yela) 樹液が体の中を洗い流す (u-yeletsa)
根の炭を体につけた傷に塗布	この木の枝は人間の背骨のような節をもつが、痛みを感じない
葉の粉を会場に散布, 周囲の木にも塗布	その名と u-sanjika 「上に乗せる」との繋がりにから観衆の数を上乘せする
根を新成人に噛ませる	未詳
根に穴を開け, そこに注いだ水を耳に滴下	辛い樹液が痛みを止める
根の粉を粥に入れて服用, 体につけた傷に塗布	この「薬」を摂取すると吐き気を催す。毒を吐かせる
根の炭を体につけた傷に塗布	未詳
*根と葉を浸した水で体を洗う	*ムサンバ・ツォカとは不運を洗い流すの意。悪臭を洗い流す (悪臭を取れるのでこの名がついたか否かは未詳)
根の粉を粥に入れて服用	木の名は「ウサギの牽丸」の意。ウサギの牽丸のような実が一箇所に固まっている。心臓が一箇所に落ち着くように
根を浸した水で粥を作り服用	チペンベレとはサイの木の意。サイの角のような棘をもつのでこうよばれる。棘で刺して胎児を追い出す
根の粉を粥に入れて服用	棘で邪術師の送ったムシを刺し追い出す
できものをこの木の棘で刺した上, その棘をチャンプの木に刺す	できものを刺して潰す
根を浸した水を服用	利尿剤として有効
果汁を水に混ぜて飲用	酸味の強い果汁が胸の中の傷の治療に有効
果汁を水に混ぜて飲用	酸味の強い果汁が胸の中の傷の治療に有効
果汁を水に混ぜて飲用	酸味の強い果汁が喉の詰まりを通す
根を浸した水で粥を作り服用	白い (u-yela) 樹液で体の中を洗い流す (u-yeletsa)
*根の粉を頭につけた傷に塗布	*塗ると熱く感じて痛みを忘れる

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			耳下腺炎 (litsipa) の治療
	Sapotaceae アカテツ科		
P-123)	mchenja ムチェンジャ	<i>Mimusops zeyheri</i>	歯槽膿漏 (mkungutsa) の治療
	Solanaceae ナス科		
P-124)	pilipili ピリピリまたは tsabola ツァボラ	<i>Capsicum annum</i> トウガラシ	割れるような頭痛 (mutu wa chin-ganila) の治療 目の痛みをとまなう頭痛 (mutu wa kakope) の治療 サスライアリを用いた邪術 (ムチェゾ) による全身の痒みの治療 ブラックマンバを用いた邪術 (ムチェゾ) による手足の痛み, 体の青変の治療 性病による全身の発疹 (ntenda ya makoloni) の治療 肩にできるこぶし大の腫れ物 (nya-makazi) の治療 耳下腺炎 (litsipa) の治療 妊婦の陰部の腫れ物 (chinkombola) の治療 夫のもと以外では性欲を感じなくする邪術 (カウタ) の治療
P-125)	chimatu チマトゥ	<i>Lycopersicon</i> sp.	耳炎 (m'matu) の治療
P-126)	nthungwi ントゥングウィ	<i>Solanum incanum</i>	割れるような頭痛 (mutu wa chin-ganila) の治療 性病による局所の潰瘍 (ntenda ya songeya) の治療 性病によるリンパ腺の腫れ (ntenda ya mabolla) の治療
	Sterculiaceae アオギリ科		
P-127)	mkusu ムクス	<i>Dombeya rotundifolia</i>	成女儀礼で女性の性器を拡張する「薬」
P-128)	mwale ムワレ	<i>Sterculia quinqueloba</i>	動物の食用による皮膚病 (viphere) の治療
	Taccaceae タシロイモ科		
P-129)	chidimbedimbe チディンベディンベ	<i>Tacca leontopetaloides</i> タシロイモ	狂気 (msala) の治療
	Thymelaeaceae ジンチョウゲ科		
P-130)	mwito ムウィト	<i>Gnidia buchananii</i>	咳 (chifuwa) の治療

処 方	説 明
根の皮の粉を体につけた傷に塗布, また鼻で吸引	匂いでくしゃみがでる. くしゃみとともに病気も出る
樹皮を浸した水を含ませた布で湿布	実効
根の炭を頭につけた傷に塗布	トウガラシの辛さが痛みを止める
実の粉を頭につけた傷に塗布	辛さが痛みを止める
根の炭を体につけた傷に塗布	辛さが痛み・痒みを止める
根の粉を体につけた傷に塗布	辛さに耐えかねて邪術師の送ったムシが逃げる
根の粉の水溶液を全身に塗り, 飲用	辛さが痛みを止める
根の粉を患部につけた傷に塗布	辛さが痛みを止める
実の粉を体につけた傷に塗布	辛さが痛みを止める
実の粉を患部の周囲につけた傷に塗布	辛さが痛みを止める
根を袋に入れ携帯	邪術をかけた妻がトウガラシの実のような血を出して苦しむように
果実を潰して布に包んだうえ水に浸し, 滴を耳に滴下	その名が「耳のもの」と解せる
根の炭を頭につけた傷に塗布	実効 (夢で体得)
根の粉を粥に入れて服用	この植物の酸味の強い汁が傷を治す
実を浸した水を飲用	実が腫れ物に似ている. 同種療法の一つ
根の粉を油で溶いて性器に塗布	未詳
樹皮を浸した水で患部を洗浄	この木の皮のように患者の皮膚もすべすべになる
芋の粉を粥に入れて服用	この植物の根は芋の下からまっすぐ伸びる. 心が揺れ動かないように
根を浸した水で粥を作り服用	この植物は汁に味がなく, 冷たい植物. 胸を冷やす

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			将来の出来事を夢で知る「薬」
			惚れ薬 (chikondi)
			仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める 「薬」 (chikondi)
			ウサギ、ホロホロ鳥の罟用の「薬」
Tiliaceae	シナノキ科		
P-131)	musupani ムスパニまたは kasaza カサザまたは kalionde カリオンデ	<i>Grewia flavescens</i>	動機 (mtima wo wawa) の治療 邪術 (ムチェゾ) による足の痛み (myendo uwawa) の治療 パオバブを用いた邪術 (リカンコ) による全身の腫れの治療
Turneraceae	ツルネラ科		
P-132)	tambala タンバラ	<i>Wormskieldia longipendunculata</i>	ツルヘビを用いた邪術 (リカンコ) により柱や梁に登らないと気分が 落ち着かなくなった患者の治療 魚がよく釣れるようにする「薬」
Verbenaceae	クマツヅラ科		
P-133)	msimpsa ムシンプサ	<i>Vitex doniana</i>	乳児の発熱 (thupi uthenta) の治療 邪術による火傷 (uzithenta) の治療
Vitaceae	ブドウ科		
P-134)	mkuti ムクティ	<i>Ampelocissus africana</i>	ブウィ (サソリ?) を用いた邪術 (ム チェゾ) による足の痛みの治療
P-135)	mulungu chulu ムルング・チュル	<i>Cissus rubiginosa</i>	蛇に噛まれたときの治療薬 (chivu- mulo)
			ブラックマンバを用いた邪術 (ムチ ェゾ) による手足の痛み、体の青 変の治療 邪術 (ムチェゾ) による上腹部痛 (mimba unyonga) の治療
P-136)	mchiu ムチウ	<i>Cyphostemma saxicola</i>	鼻水 (chinfyine) の治療 てんかん (chinkombozi) の治療
P-137)	dzabwani ザブワニ	<i>Cyphostemma viscosum</i>	成人儀礼をうける少年少女のムドッ ロの治療 口内炎 (kasantha) の治療
P-138)	mbulumbusha ムブルンブシャ	<i>Cyphostemma</i> sp.	足の傷によるリンパ腺の腫れ (mwa- na bere) の治療

処 方	説 明
根の粉を体につけた傷に塗布	その名と u-itana 「呼ぶ」との繋がりにより人を呼ぶ
根の炭を体につけた傷に塗布，袋に入れ携帯	その名と u-itana 「呼ぶ」との繋がりにより人を呼ぶ
根の炭を会場に埋設，周囲の木にも塗布	その名と u-itana 「呼ぶ」との繋がりにより人を呼ぶ
根の粉を周囲に散布	ウサギやホロホロ鳥はこの木を好む
根の粉を粥に入れて服用	未詳
根の粉を体につけた傷に塗布	この木は堅い，足を堅固にする
根の粉を体につけた傷に塗布	カリオンデという名と u-onda 「細い」との繋がりから腫れた体を細くする
根の粉を粥に入れて服用	未詳
釣り針を根の粉とともに煮て使用	実効
根を浸した水で体を洗う	発汗を促す実効がある
根の炭を患部に塗布	未詳
根を浸した水を温め，温湿布	赤い樹液が血行を促す
根の粉を体につけた傷に塗布	この木には蛇が近づかない。マングースが蛇に噛まれた仲間を助けるのに使ったのを見て有効性を発見
根の粉を体につけた傷に塗布	蛇毒の解毒剤として有効
根を浸した水を飲用	苦い樹液に耐えかねて邪術師の送ったムシが逃げ出す
花を手でもんだものと根の粉を鼻で吸引	くしゃみが出て，病気も飛び出す
根の皮を浸した水で粥を作り服用，残った皮は屋根の上へ放り投げる	屋根の上の皮が虫に食べられてしまえば病も治る（患者の身代わり）
根の炭を服用	実効
根の炭を患部に塗布，根をそのまま首に吊る	この草の葉はすぐに乾く，傷もすぐ乾く
葉を熱湯に浸した上，患部に押し当てる	実が腫れ物に似ている，同種療法の一つ

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			邪術師によって引き起こされる連続 的なてんかん (kunyū ya mjili) の 治療 カミナリを利用した邪術(ムチェゾ) による割れるような頭痛 (mutu wa chinganila) の治療 黄疸 (matenda ya chikasu) の治療 淋病 (ntenda ya chinzonono) の治 療 性病によるリンパ腺の腫れ (ntenda ya mabola) の治療 邪術 (ムチェゾ) による足の腫れ (myendo utupa) の治療 Unidentified 未同定 P-139) chewe チュウエ P-140) cheyo チュヨ P-141) chimbabwa チンバブワ P-142) chisekeseke チセケセケ P-143) chivumulo チヴムロ P-144) chiwene munda チュエネ・ムンダまたは nyamakazi ニヤマカズイ P-145) chizima mulilo チズイマ・ムリロ
			サバンナモンキーを殺した犬の発狂 の予防 鼻血 (m'kamphuno) の治療 足の傷によるリンパ腺の腫れ (mwa- na bere) の治療 子授けの「薬」 双子の一方が死んだときもう一方の 子が寂しがらない(後を追わない) ように持たせる 惚れ薬 (chikondi) 蛇に噛まれたときの治療薬 (chivu- mulo) 肩にできるこぶし大の腫れ物 (nya- makazi) の治療 喉の痛み (chikokoko) の治療 カメレオンを用いた邪術 (ムチェ ズ) による歩行困難, 顔色の変化 (matenda ya bilimankwe) の治療 バオバブを用いた邪術 (リカンコ) による全身の腫れの治療 賢くなる「薬」

処 方	説 明
潰した葉を浸した水を飲用	強い匂いで邪術師が送ったムシが逃げる
根の粉を体につけた傷に塗布	この植物の汁の辛さで痛みが止まる
根を浸した水を飲用	この植物の根の赤い汁で黄色くなった患者の血を赤くする
根を浸した水を飲用	この植物の根の赤い汁で血を増やす
根を浸した水を飲用	この植物の根の赤い汁で血を増やす
根の粉を足につけた傷に塗布	邪術師が送り込んだムシがこの植物の汁を血と間違えて飲んで死ぬ
根の粉を餌に混ぜて投与	ねばねばした植物の汁で病を滑らす
枝を焼き煙を鼻孔に入れる	この木の芯は堅い、鼻孔に堅くする
葉を熱湯に浸した上、患部に当てる	未詳
根の粉を粥に入れて服用 実を持たせる	実の形が人間の子供の形に似ている 実の形が人間の子供の形に似ている（身代わり）
根とヤニの固まりの粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて携帯 根の粉を体につけた傷に塗布	その名と u-seka「笑う」との繋がりににより 相手が笑うように この木には蛇が近づかない、マンガースが蛇に噛まれた仲間を助けるのに使ったのを見て有効性を発見
根の粉を粥に入れて服用	丸い根茎が腫れ物に似ている。同種療法の一つ
根の炭を体につけた傷に塗布	チズィマ・ムリロとは火を消すの意、病を消す
根の炭を体につけた傷に塗布、炭の水溶液で体を洗う	病を消す
根の炭を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用 葉の粉を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用	この植物の根は乾くとしぼむ、患者の体の腫れもしぼむように 他人の悪巧みを消す

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-146)	gonkoma ゴンコマまたは gonkomola ゴンコモラ		便秘 (kawinde) の治療 創傷 (chilonda) の治療 性病による局所の潰瘍 (ntenda ya songeya) の治療
P-147)	kamkoma カムコマ		間接部のできるこぶし大の化膿性の できもの (fundo) の治療
P-148)	kang'ala カンガラ		ホタルの仲間を用いた邪術 (ムチェ ゾ) による白内障 (ng'ala) の治療
P-149)	kangamsolo カンガムソロ		邪術による病の万能薬の成分
P-150)	kawelama カウエラマ		疲労を防ぐ「薬」 (salema)
P-151)	khuvi クヴィまたは khudzi クズィ		ムドゥロによる難産 (uvutika po- bala) の治療 クサガエルを用いた邪術 (ムチェゾ) による難産 (uvutika pobala) の治 療 寄生虫 (njoka m'mimba) の駆除 糞丸が腫れる病気 (phudzi) の治療 ライ病 (khate) の進行防止
P-152)	maseche マセチェ		邪術師の目を潰して撃退する「薬」
P-153)	mavimbe マヴィンベ		創傷 (chilonda) の治療 惚れ薬 (chikondi)
P-154)	mbuka ムブカ		できものの1種 (mbuka) の治療
P-155)	mchenja ムチェンジャ		歯槽膿漏 (mkungutsa) の治療
P-156)	mkambajele ムカンバジェレ		男性の強精剤 (vubwe)
P-157)	mkotama ムコタマ		蛇に噛まれたときの治療薬 (chivu- mulo)
P-158)	mkwikwi ムクウィクウィ		成人儀礼中の少年少女のムドゥロの 防止

処 方	説 明
根の粉を粥に入れて服用	この木の根は非常に堅くアリ塚にも穴を開ける。つまった腹に穴を開ける
根の粉を傷口に塗布	辛い樹液が傷に入る虫を殺す
葉を潰したものを布に包み温湿布	未詳
豆の粉を患部につけた傷に塗布	その名と u-koma「叩く」との繋がりからできたものを叩いて早くうみを出させる
潰した葉を包んだ布を水に浸し、滴を目に滴下	白内障はホタルをまねて邪術師が作ったムシが目止まっておこる。この木にはホタルが近寄らない。なお、カンガラとはンガラ（白内障）を治す木の意
根の炭を体につけた傷に塗布	その名と u-solela「引き出す」との繋がりにより、病を引き出す
根の粉を体につけた傷に塗布	カウェラマとは屈んだ木の意。この木と同様いくら屈んだ姿勢でいても疲れない
根を浸した水で粥を作り服用	この木の匂いに耐えかねて胎児が早く出てくる
根の粉を粥に入れて服用	この木のねばねばした樹液で胎児を滑らす
葉を刻んで浸した水を煮沸したうえ飲用	下剤として有効
葉を刻んで浸した水で粥を作り飲用	下剤として有効。病気を排出させる
葉を刻んでそのまま全身に塗布	苦い樹液が病気を起こしている虫を殺す。 また白い (u-yele) 樹液で体内を洗い流す (u-yeletsa)
実にトゥングウィの木の実の汁を入れ着火	実を邪術師の目にたとえる。この実が破裂すると邪術師の目も破裂する
根の炭を傷口に塗布	この植物から塩が取れる。塩と同様傷の治療に実効がある
根の粉を布に包み携帯	塩が生活に不可欠なように自分も相手にとって不可欠になる
根の炭を患部に塗布	土を持ち上げるようにして生えてくる様が できものに似ている。同種療法の1種
樹皮を浸した水を含んだ布で湿布	実効
根の粉を粥に入れて服用	ペニスがこの植物の芋のように大きくなる
根の粉を体につけた傷に塗布、粥に入れて服用	この「薬」を飲むと吐き気を催す。毒を吐き出させる
根の炭をおかずに入れて服用	その名と u-kwidza「守る」との繋がりから、少年少女をムドゥロの危険から守る

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
P-159)	mlanda mphete ムランダ・ムペテ		蚊よけ マラリアにともなう子供の吐き気 (usanza) の治療
P-160)	mladza ムラザ		ツェツェバエから牛を守る「薬」
P-161)	mledza ムレザ		麻薬による狂気 (msala) の治療
P-162)	mnyanyavu ムニャニャヴ		全身の腫れ (matenda yo tupa) をお こす邪術 (ムチェゾ)
P-163)	mphala mlamdu ムパラ・ムランドゥ または katankandzuna カタンカンズナ		同治療 強精剤 (vubwe)
P-164)	msewa ムセワ		邪術による病の万能薬の成分
P-165)	mtsompole ムツォンボレ		惚れ薬 (chikondi)
P-166)	nangwa ナングワ		男性の強精剤 (vubwe)
P-167)	ndilile ンディリレ		惚れ薬 (chikondi)
P-168)	nsambe ンサンベ		ハーテビーストを用いた邪術 (リカ ンコ) による猫背の治療
P-169)	ntheme ンテメ		難産 (uvutika pobala) の治療
P-170)	phwanya nyanga プワニャ・ニャンガ		邪術による病の万能薬の成分
P-171)	tibale ティバレまたは kabalabala カバラバラ		男女の性的不能・不妊 (chinbuwila) の治療
P-172)	tungwi トゥングウィ		邪術師の目を潰して撃退する「薬」
P-173)	wanje ワンジェ		仕留めた大型草食獣を排泄させる狩 猟儀礼用の「薬」

処 方	説 明
そのまま身辺に置く 根の粉を体につけた傷に塗布	匂いで蚊が逃げる 匂いで蚊が逃げる。蚊によっておこされた 病気も逃げる
根の炭の水溶液を牛に飲ませる	この植物から塩がとれる。その塩が牛の血 行を促す
根の粉を粥に入れて服用	その名と u-ledza「低くする」との繋がり により心の混乱の度を低くする
棘を使用	この植物の棘が刺さると皮膚が腫れてく る。邪術師はこの棘を送り込んで患者の 皮膚を腫れさせる
根の粉を全身に塗布 根の粉を粥に入れて服用	同種療法 この植物の甘い汁のように男女とも性交中 甘く感じる
根の炭を体につけた傷に塗布	未詳
根の炭を布に包み携帯 根の粉を粥に入れて服用	その名と u-tsompola「奪う」との繋がり から相手の心を奪う 白い樹液が精液を増やす
根の粉を体につけた傷に塗布、袋に入れて 携帯 根の粉を体につけた傷に塗布、粥に入れて 服用 根を浸した水を飲用	ンディリレとは私は泣くの意。相手が自分 を思っ泣いてくれる この植物は水辺に生える。堅くなった背に 水分を与えて柔らかくする この植物の実は一度に落ちる。子供も一度 に出てくるように
根の炭を体につけた傷に塗布 根を浸した水で粥をつくり服用	ブワニャ・ニャンガとは角を砕くの意。邪 術師が用いる角製の呪薬の容器を砕く ティバレとは子を産むの意。子供ができる ように
実の汁をマセチェの実に入れ着火 噛み砕いた全体のかすを獲物の口（鼻）と 肛門にはきかける	着火すると爆裂する。邪術師の目も破裂す る 下剤として有効

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
不特定の植物を素材とする「薬」			
U-1)	不特定の木のヤニ (chinzonono)		鼻血 (m'kamphuno) をおこす邪術 (ム チェゾ)
U-2)	寄生樹 (chisauka)		同治療 夫が妻のもと以外では性欲を感じない ようにする邪術(カウタ)の治療
U-3)	切り株から出た枝 (kachitsa ka mtengo)		邪術による病の万能薬の成分
U-4)	遠くから見える木の皮 (khungwa)		人気を得る「薬」 (chikondi)
U-5)	空中を舞っている木の葉 (masamba)		仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める 「薬」 (chikondi) ニャウ (nyau) の踊り手の「薬」
U-6)	地面に触れている木の枝の葉 (masamba)		ニャウ (nyau) の踊り手の「薬」
U-7)	はねわなに用いた木 (mtengo wa msampha)		動機 (mtima wo wawa) の治療
U-8)	紐にする繊維のとれない木		邪術による病の万能薬の成分
U-9)	雷が落ちた木 (mtengo wa kanganigani)		*割れるような頭痛 (mutu wa chingani- la) の治療
			*強壮剤 (mangolomera)
			銃の強化
U-10)	道を横ぎっている木の根 (muzu wa mtengo)		惚れ薬 (chikondi)
U-11)	道を横ぎりかけてもとへ戻っている木の 根 (muzu wa mtengo)		邪術による病の万能薬の成分
U-12)	川の中に張り出している木の根 (muzu wa mtengo m'madzi)		ライオンから狩人の身を守る「薬」
U-13)	墓穴を掘っているときに切った木の根 (muzu wa mtengo m'manda)		ライオンから狩人の身を守る「薬」
U-14)	アリ塚を貫いている木の根 (muzu wa mtengo m'chijombo)		血尿をとまなう膀胱炎 (likodzo) の治 療 へその緒を切る際、地面に落とされ たために成長しから発病した不能 (chimbuwila) の治療

処 方	説 明
ヤニを使用	木からヤニが出るように鼻から血が出る
乾燥粉を鼻で吸引 樹皮を袋に入れて携帯，また樹皮の粉を粥 に入れて服用 焼いて出た炭を体につけた傷に塗布	同種療法 病気で弱った自分にみたてる同種療法の一 種 切り株から出た枝は人が踏んで怪我をす る。邪術師が怪我をするように 誰にでも知られるように 木の葉同様，遠くから人が飛んでくるよう に 踊り手が木の葉同様身軽に飛びまわれるよ うに
乾燥粉を体の傷に塗布，袋に入れて携帯 粉にしたものを会場に散布，周囲の木にも 塗布 葉を浸した水で粥をつくり服用	踊り手がいくら地面をひっかいて踊っても 疲れない
葉を浸した水で粥をつくり服用	患者の心臓もはねわな同様下を向いてじっ ととしているように
粉にしたものを粥に入れ服用	人が目もくれない。邪術師の目から逃れら れる
葉の炭を体の傷に塗布	*割れるような頭痛は邪術師が雷（チェワで はトカゲの1種と考えられている）をま ねたムシを送り込んだ結果おこるとされ る。その雷の捕獲は不可能ゆえ落雷した 木を用いて同種療法を施す
炭を頭につけた傷に塗布	
炭を体につけた傷に塗布，袋に入れて携帯	*落雷のような衝撃を与えて相手を倒せるよ うになる
炭を狩人の体につけた傷に塗布，炭の水溶 液で銃を洗う	落雷のような衝撃を与えて獲物を殺せるよ うになる
粉を体につけた傷に塗布，袋に入れて携帯	道に出ている木の根は多くの人々が踏む，多 くの人の話題になるように
炭を体につけた傷に塗布	病がもとへ（邪術師のところへ）返るよう に
炭を体につけた傷に塗布	水中の根を切ろうとすると水しぶきが上が って目をつぶる。ライオンが狩人を前に しても目をつぶるように
炭を体につけた傷に塗布	墓穴の遺体は目をつぶっている。ライオン も狩人を前にして目をつぶる
粉を粥に入れ服用	雨が降ってもアリ塚は満杯にならない。膀 胱も尿で一杯にならないように
粉の水溶液に母の生理帯を浸したうえ飲用	アリ塚を母の腹，根をへその緒にみたて， 母体から生まれなおして異常を回復。怠 った手続きの補完

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
			ミツバチを用いた邪術 (ムチェゾ) で おこされた失神 (kunya) の治療
U-15)	chindundu (体の赤いアリ) の巣の穴を 貫通している木の根 (muzu wa mtengo)		クマネズミを用いた邪術 (ムチェゾ) で引き起こされた体中の痛みや吐き 気の治療 ナマズを用いた邪術 (リカンコ) でお こされた脱水症状の治療
U-16)	湿地に張っている木の根 (muzu wa mtengo m'dambo)		ナマズを用いた邪術 (リカンコ) でお こされた脱水症状の治療
U-17)	たまり水の中に生えている草の根 (muzu wa udzu m'madzi)		月経過多 (nsambo) の治療
U-18)	木の洞の中に生えている草 (udzu m'mtengo)		夜尿症 (ukozakoza) の治療
U-19)	水中で揺れている草 (udzu m'madzi)		中風 (manjenje) の治療

処 方	説 明
炭を体につけた傷に塗布，粥に入れて服用	アリ塚を養蜂筒 (ngoma)，根をその蓋にみ たて，蓋を除くことで邪術師が送り込ん だハチを引き出す
根の炭を体につけた傷に塗布，粥に入れて 服用	この木の根はアリに噛まれても平気でい る。邪術師が送ったムシに噛まれても平 気なように
根の皮の粉を体につけた傷に塗布，また服 用	症状の一つである痛みがこのアリに噛まれ たときの痛みに類似。同種療法
根の皮の粉を体につけた傷に塗布，また服 用	この木の根は多くの水分を保っている。患 者に水分を補給
根を浸した水で粥を作り服用	たまり水同様血が止まる
全体を浸した水を飲用	この草は木の外へ出ない。尿が外へ出ない ように
全体の粉を体につけた傷に塗布	この草も患者の手足同様揺れている。同種 療法

そ の 他

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
E-1)	女性の腰に巻いたビーズ飾りの芯の紐 (chingwe)		便秘 (kawinde) および 難産 (uvutika pobala) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療 妊娠した女性の近親者にできるできもの (phumba または nyamkalimbi) の治療
E-2)	電線 (chingwe cha laiti)		失神 (kunyu) をおこす邪術 (ムチェゾ) 同治療 強壮剤 (mangolomera)
E-3)	アリ塚の土 (kauma)		喉の痛み (chikokoko) の治療 下痢, 血便 (mimba mwaka madzi) の治療
E-4)	ザル (lichero)		目いぼ (nchetera) の治療
E-5)	炭 (makala)		ハトをハト小屋に居つかせる「薬」
E-6)	ザンビア国旗 (mbendela la Zambia)		人気を得る「薬」 (chikondi)
E-7)	塩 (mchele)		咳 (chifuwa) の治療 *ムドゥロの治療 傷 (chilonda) の治療 耳炎 (m'matu) の治療 体全体の腫れ (matenda yo tupa) の治療 歯槽膿漏 (mkungutsa) の治療 口内炎 (kawalitsi) の治療 疥癬 (mphere) の治療 牛の病気の予防 乳児の耳炎 (m'matu) の治療 火傷の治療 おたふくかぜ (kandukutu) の治療
E-8)	母乳 (mkaka)		
E-9)	尿 (mkodzo)		
E-10)	酒造りに使うトウモロコシをつけておいた水 (mteteka)		
E-11)	まぜ棒 (mũko)		仮面舞踊に多くの観衆を呼び集める「薬」 (chikondi)
E-12)	杵 (munsi) の破片		惚れ薬 (chikondi)

の 「薬」 — 覧

処 方	説 明
全体ないし一部を使用	相手の腰を締めつける
全体の炭を粥に入れ服用 妊婦のつけている腰紐の炭を患部につけた 傷に塗布	同種療法 この病気は妊娠が原因でおこる。同種療法
電線を使用	電気のムシ (kayowela ka laiti) を送り込 み、相手に電撃を与える
電線を燃やし被覆部を除いた銅線の粉を体 につけた傷に塗布	同種療法
野線を燃やし被覆部を除いた銅線の粉を体 につけた傷に塗布	喧嘩相手に電撃を与える
粉にしたものを水で溶き、喉の外側に塗布	アリ塚の土は固い、カウマとは固いものの 意。喉を頑強にする
水溶液を飲用	この土は固い。腹を固くする
顔をザルで隠し、目の辺りをトウモロコシ の軸をさした矢と弓で射る	トウモロコシのかすをザルで取るように目 いばも取れる
水溶液をハトに与える	黒さでハトの目から他の場所を隠す
破片を袋に入れて携帯	国旗を見上げるように人々が見上げて（尊 敬して）くれる
粥に入れて服用	胸の中の傷を治す
*粥に入れて服用	胸の中の傷を治す。塩を食べてもよいよう に
患部にそのまま塗布	実効
布に包み水に浸して、その滴を耳に滴下	耳の傷を治す
水溶液を飲用	体の中の傷を治す
歯ぐきに塗りつける	実効
患部に塗布	口内炎をおこしている虫の血を塩が吸収し 虫を殺す。（塩には水を吸う性質がある）
患部に塗布	病気をおこしている虫を塩が殺す
水溶液を牛に与える	塩が牛の血行を促進する
母乳を耳に滴下	実効
患部に尿をかける	実効
飲用	この水には酸味がある。その酸味がおたふ くかぜの患者が覚える口中の酸味を消す
破片の粉を会場に散布、周囲の木にも塗布	主食の調理に誰もが使う。仮面舞踊が人々 のそばにあるように
粉を体の傷に塗布し袋に入れて携帯	杵と同様いつも女性のそばにいられる

no.	方 名	学 名 和 名	用 途
E-13)	煤 (mwai)		性交中、女性が男性より先に「性液」を放出し、男性の指が長くなったり体がだるくなったりする病気 (uko-zelewa) の治療 睾丸が腫れる病気 (phuzi) の治療 妊婦の陰部の腫れ物 (chinkombola) の治療 月経中の女性との性交による血尿をともなう膀胱炎 (likodzo) の治療 村をまとめる「薬」
E-14)	生理帯 (nsalu)		性交中、女性が男性より先に「性液」を放出し、男性の指が長くなったり体がだるくなったりする病気 (uko-zelewa) の治療
E-15)	首長の葬儀で出されたトウモロコシの固粥 (nsima)		幸運 (mwai) をよぶ「薬」
E-16)	ニャウ (nyau) の仮面用の羽根		惚れ薬 (chikondi)
E-17)	ニャウ・ヨ・レンバ (nyau yo lemba) の尾		惚れ薬 (chikondi)
E-18)	死者の出た家の垂木 (paso)		強壮剤 (mangolomera)
E-19)	蜜臘 (phula)		*白内障 (ng'ala) の治療
E-20)	灰 (pulusa)		性交中、女性が男性より先に「性液」を放出し、男性の指が長くなったり体がだるくなったりする病気 (uko-zelewa) の治療 月経中の女性との性交による血尿をともなう膀胱炎 (likodzo) の治療 睾丸が腫れる病気 (phuzi) の治療
E-21)	針 (singano)		突き刺すような肋骨の痛み (kalaso) の治療 夫が妻のもと以外では性欲を感じないようにする邪術 (カウタ) の治療 強壮剤 (mangolomera)

処 方	説 明
そのまま服用	ムワイとは幸いの意。患者に幸運をもたらす
粥に入れて服用	患者に幸運をもたらす
そのまま患部に塗布	患者に幸運をもたらす
粥に入れて服用	患者に幸運をもたらす
袋に入れ埋設	患者に幸運をもたらす
炭を粥に入れて服用	生理帯は女性の「性液」を受けとめるのが役目
粉にしたものを体につけた傷に塗布，袋に入れ携帯	首長の葬儀のように多くの人が自分の周りに集まる
粉にしたものを袋に入れて携帯	ニャウの仮面舞踊同様人を喜ばす
粉にしたものを袋に入れて携帯	ニャウの仮面舞踊同様人を喜ばす
粉を体につけた傷に塗布	喧嘩相手が死ぬように
そのまま，または卵の白身に混ぜて目に塗布	*目の濁りを臘に付着させて除去
そのまま服用	灰は白い (u-yela). 体の中を浄化 (u-yeletsa) する
粥に入れて服用	灰は白い。膀胱を白く (浄化) する
粥に入れて服用	灰は白い。体の中を白く (浄化) する
粉を体につけた傷に塗布	痛みは邪術師によって送り込まれた針によって起こされているかもしれない。同種療法
そのまま袋に入れて携帯	針が必ずもとへ戻るように病も送り主のもとへ戻る
粉を体につけた傷に塗布	相手を刺して苦しめる